ENFOCUS

PITSTOP SERVER 2023

リファレンス ガイド

05 - 2023

目次

1. Enfocus PitStop Serverドキュメント 8

2. Enfocus PitStop Server の詳細 9

2.1. Enfocus PitStop Server バージョン 9

2.2. Enfocus PitStop ServerとEnfocus Switch 10

2.3. Enfocus PitStop Server CLI 10

3. PitStop Serverのインストールとアクティベーション 12

3.1. PitStop Server のインストール 12

3.2. PitStop Serverのアクティベート 12

3.2.1. PitStop Serverのアクティベート（従来のライセンス） 13

3.2.2. サブスクリプションIDのアクティベート（サブスクリプション） 22

3.3. サポートを受ける 24

3.3.1. 問題の場合の対応 24

3.3.2. サポート情報の確認 24

3.3.3. 問題のレポート 25

4. PitStop Serverの開始と終了 26

4.1. PitStop Server の起動 26

4.1.1. Windows でサービスとしてWatchdog を実行する 26

4.1.2. Macでデーモンとして Watchdog を実行する 27

4.2. PitStop Serverを終了する 28

5. Enfocus PitStop Server の作業領域 30

5.1. ロック設定ボタン 30

5.1.1. PitStop Server のロック 30

5.1.2. PitStop Server のロック解除 30

5.2. PitStop Server の [ホットフォルダ] タブ 31

5.3. PitStop Server の [進行状況] タブ 32

5.4. PitStop Server の [履歴] タブ 32

5.5. ホットフォルダエディタ 33

5.5.1. ホットフォルダエディタダイアログの表示 34

5.5.2. ホットフォルダエディタの使用 35

5.6. PitStop Server のメニュー 35

5.6.1. [ファイル] メニュー 35

5.6.2. [編集] メニュー 36

5.6.3. [ホットフォルダ] メニュー 36

5.6.4. [進行状況] メニュー 37

5.6.5. [履歴] メニュー 37

5.6.6. [ウィンドウ] メニュー 37
5.6.7. ダッシュボード 38
5.6.8. [ヘルプ] メニュー 39

6. ホットフォルダの操作 40
6.1. ホットフォルダとは 40
6.1.1. ホットフォルダの定義 40
6.1.2. ホットフォルダワークフローの図解 40
6.1.3. 有効なホットフォルダの主要規則 41
6.2. プロセスとは何か 42
6.2.1. 処理中の定義 42
6.2.2. アクションリストとプリフライトプロファイル: プロセスに必要な「燃料」 42
6.2.3. プロセスの結果 43
6.3. フォルダのタイプ 44
6.3.1. Enfocus PitStop Serverの作業環境の整理 44
6.3.2. ベースフォルダ 44
6.3.3. 入力フォルダ 45
6.3.4. オリジナル文書のフォルダ 45
6.3.5. 処理した文書のフォルダ 45
6.3.6. 非 PDF ファイルの出力フォルダ 45
6.3.7. レポート用のフォルダ 46
6.4. ホットフォルダの管理 46
6.4.1. ホットフォルダの作成 46
6.4.2. ホットフォルダの編集 47
6.4.3. ホット フォルダの複製 47
6.4.4. ホットフォルダの削除 48
6.4.5. ホットフォルダの書き出し 48
6.4.6. ホットフォルダの取り込み 48
6.5. ホットフォルダのステータス 49
6.6. ホットフォルダの優先度 50

7. ホットフォルダの設定 51
7.1. ホットフォルダの設定 51
7.2. ホットフォルダのプロパティ：全般 51
7.2.1. ホットフォルダの有効化 52
7.3. ホットフォルダのプロパティ：フォルダ 52
7.3.1. フォルダ構造の作成 53
7.3.2. フォルダ構造の手動編集 54
7.3.3. 絶対パスと相対パスの切り替え 55
7.4. ホットフォルダのプロパティ：処理 56
7.4.1. サブフォルダ処理 56
7.4.2. レポート生成 56

7.4.3. 保存時の最適化 58
7.4.4. ファイル名 58
7.5. ホットフォルダのプロパティ：分割処理 59
7.5.1. 透過効果の分割について 59
7.5.2. 透過効果の分割の設定 60
7.5.3. 分割処理 カテゴリ: オプション 60
7.6. ホットフォルダプロパティ：アクションリストとプリフライトプロファイル 64
7.6.1. 1 つ以上のアクションリストをホット フォルダに追加する 64
7.6.2. プリフライトプロファイルをホットフォルダに追加する 65
7.6.3. アクションリストとプリフライトプロファイルの参照先 65
7.7. ホットフォルダ プロパティ：スマートプリフライト 67
7.7.1. 変数セットの適用 67
7.7.2. ジョブチケットの使用を有効にする 68
7.8. ホットフォルダ プロパティ: Certified PDF 68
7.8.1. 投入された の Certified PDF 状況の変更 68
7.8.2. Certified オプション 69
7.9. ホットフォルダ プロパティ：カラーマネージメント 70
7.10. ホットフォルダのプロパティ：フォント 70
7.11. ホットフォルダプロパティ：電子メール通知 71
7.11.1. Eメール通知の設定 71
7.12. ホットフォルダのプロパティ：要約 72

8. PitStop Server の実行中ジョブ **73**

9. 実行中ジョブの監視 **74**
9.1. 実行中ジョブを並べ替える 74
9.2. すべての実行中ジョブを一時停止する 74
9.3. すべてのアクティブジョブを再開する 74
9.4. 実行中ジョブのキャンセル 75

10. 完了したジョブの [履歴] タブでの表示 **76**
10.1. 履歴リストの管理 76
10.1.1. 履歴のフィルタリング 76
10.1.2. リストからジョブを削除する 77
10.2. 履歴の書き出し 78
10.3. 統計の表示 78
10.4. 特殊なイベントのログ 78

11. Enfocus PitStop Server環境設定 **80**
11.1. 測定単位を設定する 81
11.2. 言語の設定 81
11.3. ホットフォルダの設定 82
11.4. プロセスの環境設定を行う手順 83

11.5. ファイルのクリーンアップの環境設定 83
11.6. フォント環境設定の設定 84
11.7. カラーマネージメントの環境設定を行う 84
11.8. 電子メールの環境設定を設定する 86
11.9. パーソナル情報を設定する 86
11.10. 更新環境設定を行う 86

12. アクションリストの使用 88
12.1. PitStop Serverのアクションリストの場所 88
12.2. アクションリストの編集 90
12.3. アクションリストの作成 90
12.4. アクションリストの書き出し 91
12.5. アクションリストの取り込み 92
12.6. アクションリストの複製 92
12.7. アクションリストの削除 92

13. PDF 文書のプリフライトとチェック 94
13.1. プリフライトとは 94
13.1.1. プリフライトの定義 94
13.1.2. プリフライトプロファイルs 94
13.1.3. Enfocus PitStop Serverのプリフライト 95
13.2. PitStop Serverのプリフライトプロファイルの場所 96
13.2.1. プリフライトプロファイル パネル 96
13.2.2. Enfocus プリフライトプロファイル エディタ 98
13.3. プリフライトプロファイルを作成および編集する方法 100
13.3.1. プリフライトプロファイルを編集または作成する 100
13.3.2. プリフライトプロファイルをパスワードでロックする 116
13.4. スマートプリフライト 117
13.4.1. スマートプリフライトについて 117
13.4.2. スマートプリフライトの使用の開始 119
13.4.3. スマートプリフライトの設定 119
13.4.4. アクションリストでのスマートプリフライト変数の使用 136
13.4.5. スマートプリフライトのトラブルシューティング 137

14. Certified PDF 文書の操作 141
14.1. Certified PDF について 141
14.1.1. PDF ワークフローの概念 141
14.1.2. 従来方式の PDF ワークフロー 143
14.1.3. Certified PDF ワークフロー 143
14.1.4. Enfocus Certified PDF 文書とは 145
14.2. Certified PDFワークフローの開始 145
14.2.1. 個人情報の設定 145
14.2.2. PDF 文書の Certified PDF ワークフローの開始 146

14.3. セッション コメントの追加 146
14.4. Certified PDF 状態のチェック 147
14.4.1. PDF 文書の Certified PDF 状況の確認 147

15. フォントの管理 149
15.1. フォントのタイプとその使用方法 149
15.1.1. フォントのタイプ 149
15.1.2. 標準の 14 フォント 149
15.1.3. PostScript Type 1 フォント 150
15.1.4. PostScript Type 3 フォント 151
15.1.5. TrueType フォント 151
15.1.6. Multiple Master フォント 152
15.1.7. OpenType フォント 153
15.1.8. コンポジット フォント 154
15.2. PDF フォントの置換 154
15.2.1. 正確なフォント名の確認 154
15.3. フォントの埋め込みとサブセット 155
15.3.1. フォントの埋め込み 155
15.3.2. フォントのサブセット 156
15.4. 埋め込まれた見つからないフォント 156
15.4.1. 埋め込まれた見つからないフォントについて 156
15.4.2. 見つからないフォントを埋め込む手順 156

16. カラーの管理 158
16.1. カラー マネージメントについて 158
16.2. カラー モデル 158
16.2.1. RGB カラーモデル 158
16.2.2. CMYK カラーモデル 158
16.2.3. グレースケール モデル 159
16.3. 色域とカラースペース 159
16.3.1. 色域: カラー光線のデバイス依存サブセット 159
16.3.2. 装置依存色 160
16.3.3. 装置非依存色 160
16.4. レンダリング インテント 160
16.4.1. カラーをリマッピングするレンダリング インテント 160
16.4.2. 知覚的リマッピング 161
16.4.3. 彩度リマッピング 161
16.4.4. 相対的な色域を維持するリマッピング 162
16.4.5. 絶対的な色域を維持するリマッピング 162
16.5. Enfocus PitStop Server でのカラーマネージメントの使用 163
16.5.1. ICC プロファイルを使った作業 163
16.5.2. Enfocus PitStop Serverでの ICC プロファイルの使用 163

16.5.3. カラーマネージメントの無効化 165
16.6. 特色 166
16.6.1. 特色の使用 166
16.6.2. 定義の明確な特色 166
16.6.3. 特色を対応する CMYK プロセスカラーへ変換 167

17. サードパーティのライセンス情報 **168**

18. 著作権 **178**

1. Enfocus PitStop Serverドキュメント

完全な PitStop Server ドキュメントは複数のマニュアルから構成されています。

構成	説明／場所
リファレンス ガイド	PitStop Server の機能を詳細に説明します。 *http://www.enfocus.com/manuals/ReferenceGuide/PS/23/enUS/home.html*
アクションリストマニュアル	*http://www.enfocus.com/manuals/Extra/Actions/23/home.html*
ナレッジベース	*https://enfocus-community.force.com/customers/s/topic/0TO2p000000Jo6XGAS/pitstop-server*
レポートテンプレートのカスタマイズ	会社ロゴの追加、レポートで使用されるヘッダーまたは色の変更など、プリフライトレポートをカスタマイズする方法について説明します。 *http://www.enfocus.com/manuals/Extra/CustomReportTemplate/23/home.html*
プリフライトレポート ヘルプ	*http://www.enfocus.com/manuals/Extra/PreflightReportHelp/23/home.html*
ムービー	*http://www.youtube.com/enfocuscommunity*
ラーニングコンテンツ（eラーニング、製品ムービー、ウェビナー、ワークショップなど）	*https://www.enfocus.com/en/learn/pitstop/all*
エンドユーザ ライセンス契約	メニューバー: ヘルプ > 使用許諾契約 **(PDF)**

2. Enfocus PitStop Server の詳細

2.1. Enfocus PitStop Server バージョン

Enfocus PitStop Server は、ホットフォルダベースのスタンドアロンアプリケーションです。PDF ベースのワークフローの設定と管理を簡易化します。

ホットフォルダの定義

Enfocus PitStop Server のホットフォルダは、複数の PDF バッチ処理専用フォルダから構成されます。これらのフォルダは、コンピュータまたはネットワークドライブのハードディスク上に作成します。Enfocus PitStop Server は、ホットフォルダの入力フォルダに追加された PDF 文書を自動的に処理し、処理されたファイルを処理結果に対応する出力フォルダに移動させます。オリジナル PDF 文書とプリフライト結果は、処理結果に応じて同じフォルダまたは別のフォルダに保存されます。

ホットフォルダの入力フォルダは実行中のフォルダです。 Enfocus PitStop Serverは、ホットフォルダの入力フォルダを定期的な間隔で監視し、この入力フォルダに PDF 文書が追加されると、対応する自動アクションを開始します。

ホットフォルダは、相互にリンクされたフォルダです。ホットフォルダの中にあるフォルダにリンクを設定するには、ホットフォルダエディタを使用します。 PDF 文書が処理中に移動するパスはユーザが定義する必要があります。

コンポーネント

Enfocus PitStop Server は、PitStop Server アプリケーションと PitStop Server WatchDog を含む多数のコンポーネントで構成されています。Enfocus PitStop Server は PitStop Server アプリケーション と閉じた後でも、バックグラウンドでの処理が可能です。

- **PitStop Server**アプリケーションは、ユーザが実際に操作するためのインターフェイスです。このアプリケーションでは、ホットフォルダの定義や編集、実行中ジョブの監視、ジョブ履歴の表示などを行えます。2番目のコンポーネントであるWatchdogにより、ユーザインターフェイスが終了している場合でも、ファイルは処理できます。

- **PitStop Server WatchDog** は、必要なすべてのソフトウェアコンポーネントを確実に実行するアプリケーションです。コンポーネントが起動していなかったり、何らかの理由で終了したりすると、PitStop Server Watchdog は、そのソフトウェア コンポーネントを起動または再起動します。

注: ホットフォルダの編集処理は OS のアクセス権限によって制限される場合があります。アクセス権限の制限は有用ですが、PitStop Server Watchdog ユーザとホットフォルダを編集するユーザに対しては完全なアクセス権を割り当てておく必要があります。

2.2. Enfocus PitStop ServerとEnfocus Switch

SwitchのPitStop Serverを使用するために、Enfocusは2つのPitStop Serverコンフィギュレータを開発しました。

- **PitStop Server**: 自動でPDFファイルをプリフライトして処理します。単一のファイル（ジョブフォルダがない）だけを処理できます。
- **PitStop Server PDF2Image**: 全体または分版への分割としてPDFファイルを画像にレンダリングします。コンフィギュレータはPDFに関連付けられたSwitchメタデータも処理できます。

これらのコンフィギュレータはPitStop Server とともに自動的にインストールされ、このコンフィギュレータの前のバージョン（Switchでインストールされた古いバージョンなど）を上書きします。このように、コンフィギュレータは常に最新です。

Switchの*PitStop Server*コンフィギュレータ経由でジョブを処理しているときにPitStop Serverが実行中の場合は、PitStop Serverユーザーインターフェイスを使用してSwtichジョブを確認できます。標準のホットフォルダジョブのように次のことができます。

- ファイルが処理中（[ホットフォルダ]タブ）か前に処理された（[履歴]タブかどうかを確認します）。
- 大きいファイルなどのジョブの進行状況を追跡します（[進行状況]タブ）。
- 統計を生成（[履歴]タブの[統計]ボタン）します。

重要: Switchジョブ（ラッシュジョブ）は標準のホットフォルダジョブよりも優先されます。これはCLIジョブの場合にも該当します（*Enfocus PitStop Server CLI* 10 ページのを参照）。PitStop Server UI、Switch、およびCLIジョブは、 アイコンで識別できます。

互換性

- PitStop Serverのインストーラに含まれる**PitStop Server**コンフィギュレータは**Switch 12**以降にのみ対応しています。前のバージョンのSwitchは古いビルトインコンフィグレーターを使用しています。これはまだ有効ですがPitStop Server経由で自動的に更新されません。
- **PitStop Server PDF2Image** コンフィギュレータは、**Switch 12 update 3**以降（コンフィギュレータモジュールを購入したユーザー）または**Switch 13**以降（PitStop ServerとSwitchがあり、コンフィギュレータモジュールがないユーザー）に対応しています。

より詳しく知りたい場合

*Switch*マニュアルはEnfocus Webサイト（*http://www.enfocus.com/en/support/manuals/switch-manuals*）にあります。

2.3. Enfocus PitStop Server CLI

PitStop Server CLIはPitStop Serverのコマンドラインインターフェイスです。標準PitStop Serverリリースの一部で、他のアプリケーションとPitStop技術を統合できます。

CLI経由でファイルを処理しているときにPitStop Serverが実行中の場合は、PitStop Serverユーザインターフェイスを使用してCLIジョブを確認できます。標準のホットフォルダジョブのように次のことができます。

- ファイルが処理中（[ホットフォルダ]タブ）か前に処理された（[履歴]タブかどうかを確認します）。
- 大きいファイルなどのジョブの進行状況を追跡します（[進行状況]タブ）。
- 統計を生成（[履歴]タブの[統計]ボタン）します。

重要: CLIジョブ（ラッシュジョブ）は標準のホットフォルダジョブよりも優先されます。これはSwitchジョブの場合にも該当します（*Enfocus PitStop Serverと Enfocus Switch* 10 ページのを参照）。PitStop Server UI、Switch、およびCLIジョブは、 アイコンで識別できます。

PitStop Server CLIでは、ファイル処理に加え、PDFのページを全体または分版にして画像化することができます。この機能は標準製品では提供されていません。ただし、Switchユーザーは、Enfocus PitStop Server PDF2Imageコンフィギュレータからこの機能を使用できます。

より詳しく知りたい場合

PitStop Server CLIマニュアルはEnfocus Webサイト（*http://www.enfocus.com/en/support/manuals/pitstop-server-manuals*）にあります。

3. PitStop Serverのインストールとアクティベーション

PitStop Serverを使用する前に、次のことを行う必要があります。

1. アプリケーションのインストール。
2. アプリケーションのアクティベート。

インストールとアクティベートが完了したら、アプリケーションを開始できます。

3.1. PitStop Server のインストール

システム要件は*Enfocus Web*サイトをご覧ください。

注: PitStop Serverの以前のバージョンでは、Windows用の32ビットインストーラーが用意されていました。PitStop 2020の時点では、64ビットインストーラーしかありません。

PitStop Serverをインストールする手順

1. Enfocus PitStop Serverインストーラーをダウンロードします。
2. インストーラーを起動します。
3. 画面に表示されるインストーラの指示に従います。

Enfocus PitStop Server のインストールが完了したら、パスワードでEnfocus PitStop Serverをロックすることをお勧めします。詳細については、ロック設定ボタン 30 ページのを参照してください。

3.2. PitStop Serverのアクティベート

PitStop Serverを使用するには、製品をアクティベートする必要があります。

手順は購入したライセンスタイプによって異なります。

- 従来の永久ライセンスの場合、購入時に受け取った製品キーをアクティベートする必要があります。*PitStop Server*のアクティベート（従来のライセンス） 13 ページのを参照してください。
- サブスクリプションの場合、サブスクリプションIDをアクティベートして、契約期間を開始する必要があります。サブスクリプション*ID*のアクティベート（サブスクリプション） 22 ページのを参照してください。

  サブスクリプションライセンスは日本語と中国語には提供されていません。

Enfocus ID

ほとんどのEnfocus製品で、Enfocus IDが必要です。これはEnfocusとのすべてのコミュニケーションで使用される無料のアカウントです。これはEnfocus Webサイトのアカウントセクション（**Enfocus IDの取得リンクをクリック**）から作成できます。

3.2.1. PitStop Serverのアクティベート（従来のライセンス）

Enfocus PitStop Serverをインストールしたら、PitStop Serverダイアログからアクティベートできます。このダイアログはEnfocus PitStop Serverの初回使用時に自動的にポップアップ表示されます。自動的に開かない場合は、自分で開けます。*Enfocusのバージョン情報 PitStop Serverダイアログを開く* 13 ページのを参照してください。

次の2つのオプションを選択できます。

- 購入する前にアプリケーションを試用する場合、試用版としてアクティベートできます。このバージョンは30日間有効です。
- アプリケーションを購入した場合、永続ライセンスのアクティベートを行うことになります。

複数の方法でEnfocus PitStop Serverをアクティベートできます。

- 試用版をアクティベートする場合は、*30 日間の試用バージョンをアクティベート* 13 ページのを参照してください。
- インターネットに接続しないでEnfocus PitStop Serverをコンピュータにインストールした場合は、を参照してください。 *PitStop Server をアクティベートする(オフライン)* 14 ページの
- インターネットに接続してEnfocus PitStop Serverをコンピュータにインストールした場合は、*PitStop Server をアクティベートする(オンライン)* 14 ページのを参照してください。

3.2.1.1. Enfocusのバージョン情報 PitStop Serverダイアログを開く

バージョン情報PitStop Serverダイアログでは、PitStop Serverをアクティベートできます。

このダイアログを開く手順

1. [ヘルプ] > [**PitStop Server** バージョン情報]を選択します。
2. ライセンスを管理するには、ライセンスタブに切り替えます。

3.2.1.2. 30 日間の試用バージョンをアクティベート

30 日間の試用バージョンをアクティベートする手順

1. PitStop Serverを初めて起動すると、Enfocus PitStop Serverのバージョン情報ダイアログが自動的に表示されます。

   あるいは、自分で開くことができます。*Enfocusのバージョン情報 PitStop Serverダイアログを開く* 13 ページのを参照してください。

2. **Enfocus PitStop Server**のバージョン情報ダイアログボックスのライセンスタブで、Enfocus IDとパスワードを入力します。

Enfocus IDはすべての以前のEnfocusアカウント（Webショップ、製品アクティベーション、サポートポータルアカウント）に代わる新しいアカウントです。まだない場合は、**Enfocus ID**の作成リンクをクリックし、画面の手順に従います。

3. サインインをクリックします。
4. ［試用開始］をクリックします。

3.2.1.3. PitStop Server をアクティベートする(オンライン)

まずはじめに

- Enfocus Web サーバーと通信するためにインターネットアクセスが必要です。
- 製品キーが必要です。
- ファイアウォールを使用している場合は、必ずポート80と443を使用してPitStop Serverと*https://licensingservices.esko.com*との通信を許可します。

PitStop Serverをアクティベートする

1. **Enfocus PitStop Server**のバージョン情報ダイアログボックスのライセンスタブで、Enfocus IDとパスワードを入力します。

   Enfocus IDはすべての以前のEnfocusアカウント（Webショップ、製品アクティベーション、サポートポータルアカウント）に代わる新しいアカウントです。まだない場合は、**Enfocus ID**の作成リンクをクリックし、画面の手順に従います。
2. サインインをクリックします。
3. [製品キーのアクティベート]をクリックします。
4. 次のいずれかの方法でプロダクトキーを入力します。
   - [アクティベートされたライセンス]フィールドにプロダクトキーを入力するか、コピーして貼り付けます。
   - プロダクトキーライセンスファイル（例：LicensesBackup.html）を参照するか、[アクティベートされたライセンス]フィールドにドラッグします。
5. [アクティベート]をクリックします。
   Enfocus Web サーバーと通信し、PitStop Serverをアクティベートします。
6. ダイアログを閉じるには［閉じる］をクリックします。

3.2.1.4. PitStop Server をアクティベートする(オフライン)

まずはじめに

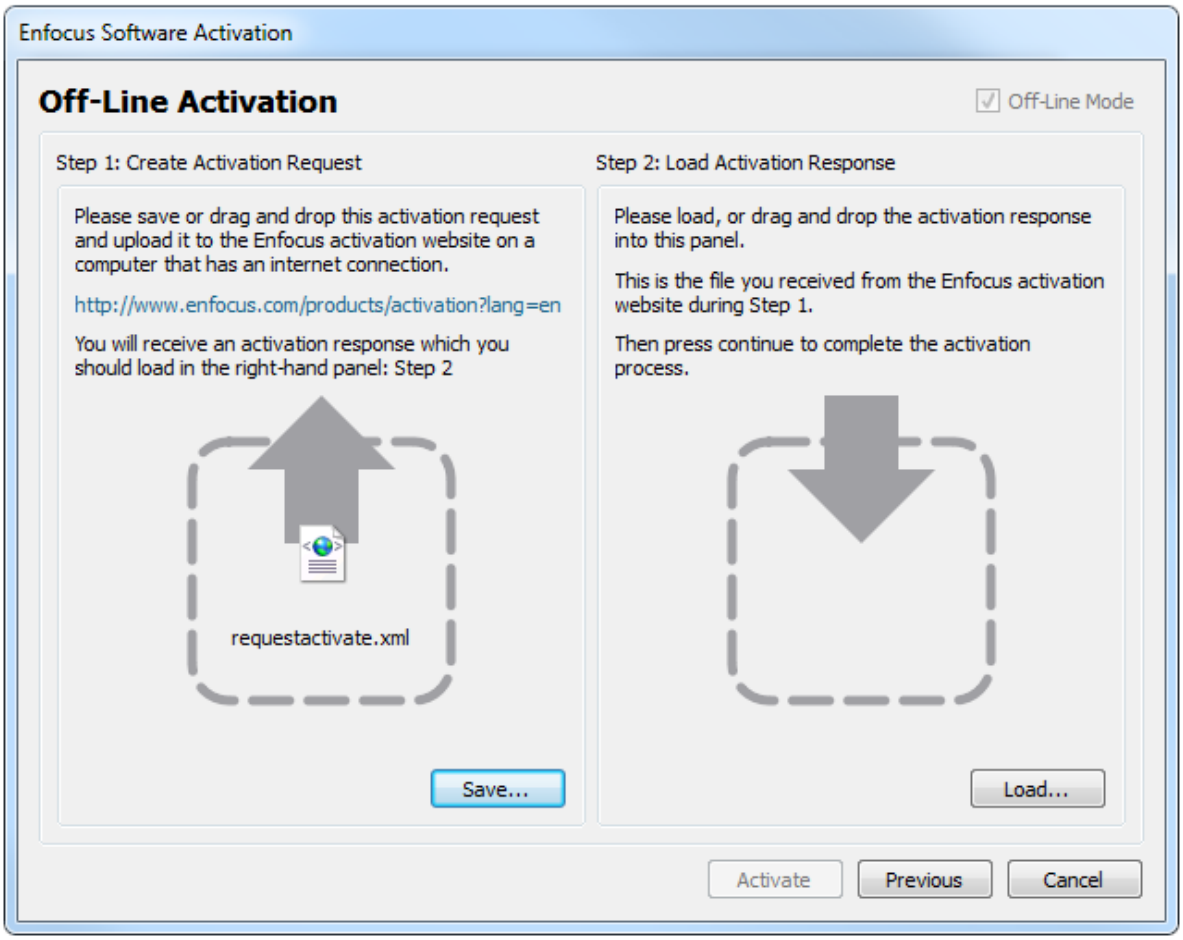
- PitStop Serverがインストールされているオフラインシステムの他に、Enfocus Web サーバーと通信するために、インターネットに接続したシステムが必要です。
- 製品キーが必要です。
- 以前にEnfocus製品をインストールしていない場合、まずアプリケ#ションを初期化する必要があります。「*PitStop Serverの初期化 (オフライン)* 17 ページの」を参照してください。

PitStop Serverをアクティベートする

1. PitStop Serverのあるオフラインシステム:
   a. **Enfocus PitStop Server**のバージョン情報ダイアログボックスのライセンスタブで、Enfocus IDとパスワードを入力します。

      Enfocus IDはすべての以前のEnfocusアカウント（Webショップ、製品アクティベーション、サポートポータルアカウント）に代わる新しいアカウントです。まだない場合は、**Enfocus ID**の作成リンクをクリックし、画面の手順に従います。
   b. サインインをクリックします。
   c. オフラインアクティベーションをクリックします。

      このボタンは、インターネット接続がないことがPitStop Serverで検出された場合に表示されます。何らかの理由でこのボタンが表示されない場合は、タブの下部のオフラインモードチェックボックスを選択します。
   d. [キーのアクティベート]をクリックします。
   e. 次のいずれかの方法でプロダクトキーを入力します。
      - [プロダクトキー]フィールドにプロダクトキーを入力するか、コピーして貼り付けます。
      - プロダクトキーライセンスファイル（例：LicensesBackup.html）を参照するか、[プロダクトキー]フィールドにドラッグします。
   f. [アクティベート]をクリックします。
      次のダイアログ ボックスが表示されます。



g. [ステップ**1**] で [保存]をクリックします。
PitStop Server がファイルrequestactivate.xmlを作成します。

2. requestactivate.xmlをオンラインシステムで使用できるようにします。

例：requestactivate.xmlをUSBスティックにコピーし、USBをオンラインシステムに接続します。

3. オンラインシステム:

a. *http://www.enfocus.com/products/activation?lang=en* にアクセスします。

b. requestactivate.xmlをアップロードし、[続行]をクリックします。

c. Enfocus IDパスワードを入力し、[続行]をクリックします。

d. [続行] をクリックして確認します。
Enfocus Web サーバーによって activation-response.xml が生成されます。

e. ファイルをダウンロードします。

4. PitStop Serverのあるオフラインシステム:

a. ステップ**2**で activation-response.xml をアップロードします。

b. [アクティベート]をクリックします。
PitStop Serverがアクティベートされます。

c. 確認ダイアログを閉じるには［閉じる］をクリックします。

PitStop Serverの初期化 (オフライン)

この手順はPitStop Serverを初期化する方法を説明します。この手順は、次の場合にのみ必要です。

- Enfocus製品を特定のコンピュータ上で初めてアクティベートする場合。
- PitStop Serverをオフラインでアクティベートする場合。インターネットへのアクセスができないコンピュータなどを使用している場合です。オンラインアクティベーションの場合、初期化はバックグラウンドで自動的に実行されます。

必要条件:

- Enfocus Webサーバーとの通信を行うには、インターネットにアクセス可能な追加のコンピュータが必要です。
- Enfocus IDが必要です。インターネットに接続しているコンピュータでEnfocus IDを作成するには、Enfocus Webサイトのアカウントセクションに移動し、画面の指示に従います。フォームへの入力が完了すると、Enfocus IDとパスワードが記載されたメールを受信します。

動作手順:

PitStop Serverの初期化には3つのステップがあります。

1. PitStop Serverをインストールしたコンピューター上で初期化の要求を作成します。
2. このファイルを、インターネットにアクセス可能な別のコンピューターに保存して、EnfocusアクティベーションWebサイトにアップロードします。Enfocusは応答ファイルをユーザに提供します。
3. PitStop Serverをインストールしたコンピューターに応答ファイルをアップロードします。

これらの各ステップについては以降で説明します。

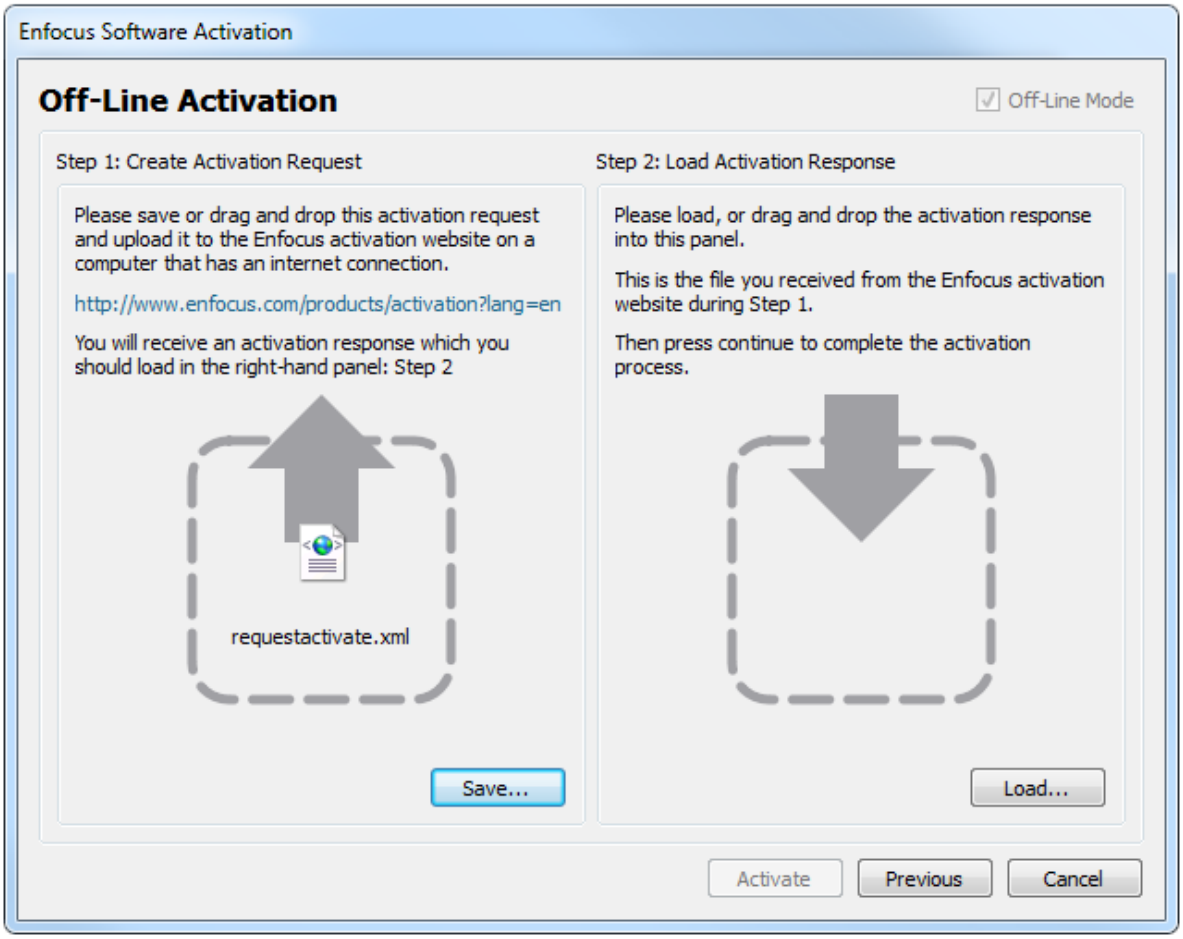
PitStop Server初期化の手順

1. PitStop Serverのあるオフラインシステム:
   a. **Enfocus** のバージョン情報**PitStop Server**ダイアログボックスのライセンスタブで、Enfocus IDとパスワードを入力します。

      Enfocus IDはすべての以前のEnfocusアカウント（Webショップ、製品アクティベーション、サポートポータルアカウント）に代わる新しいアカウントです。まだない場合は、**Enfocus ID**の作成リンクをクリックし、画面の手順に従います。
   b. サインインをクリックします。
   c. オフラインアクティベーションをクリックします。

      このボタンは、インターネット接続がないことがPitStop Serverで検出された場合に表示されます。何らかの理由でこのボタンが表示されない場合は、タブの下部のオフラインモードチェックボックスを選択します。
   d. [キーのアクティベート]をクリックします。
   e. 次のいずれかの方法でプロダクトキーを入力します。
      - [プロダクトキー]フィールドにプロダクトキーを入力するか、コピーして貼り付けます。
      - プロダクトキーライセンスファイル（例：LicensesBackup.html）を参照するか、[プロダクトキー]フィールドにドラッグします。

f. [アクティベート]をクリックします。
次のダイアログ ボックスが表示されます。



g. [ステップ**1**] で [保存]をクリックします。
PitStop Server がファイルrequestinitialize.xmlを作成します。

2. [requestinitialize.xml]をオンラインシステムで使用できるようにします。

例：requestinitialize.xmlをUSBスティックにコピーし、USBをオンラインシステムに接続します。

3. オンラインシステム:
   a. *http://www.enfocus.com/products/activation?lang=en* にアクセスします。
   b. requestinitialize.xmlをアップロードし、[続行]をクリックします。
   c. Enfocus IDパスワードを入力し、[続行]をクリックします。
   d. [続行] をクリックして確認します。
   Enfocus Web サーバーによってresponse.xmlが生成されます。
   e. ファイルをダウンロードします。

4. PitStop Serverのあるオフラインシステム:
   a. [ステップ**2**]（ダイアログの右側）でresponse.xmlをアップロードします。
   b. ［初期化］をクリックします。

PitStop Serverが初期化されます。

PitStop Serverを初期化すると、[オフラインアクティベーション]ダイアログが表示されます。直ちにオフラインアクティベーション手順のステップ1 (save requestactivate.xml) の最後のサブステップに進むことができます。

3.2.1.5. 使用するEnfocusライセンスを管理する

Enfocus PitStop Serverをインストールしたら、アプリケーション内からEnfocus PitStop Serverライセンスを管理できます。たとえば、他のEnfocusライセンスのステータスをチェックしたり、使用しているPitStop Serverのライセンスのアクティベート解除や修復をおこなったり、ライセンス情報を書き出したりすることなどが可能です。

別のシステムにライセンスを移動する前には、ライセンスを無効にする必要があります。これは、システムイメージを使用して1つのシステムを別のシステムに移動する場合にも必要です。

コンピュータのハードウェア特性が変更された場合（新しいネットワークカードまたはメモリを追加した場合など）は、ライセンスの修復が必要になることがあります。

PitStop Server をアクティベート解除する(オンライン)

たとえば、ライセンスを別のシステムに移動するときにこのタスクを使用します。

PitStop Serverをアクティベート解除する

1. **Enfocus** のバージョン情報**PitStop Server**ダイアログボックスのライセンスタブで、無効にするプロダクトキーを選択します。
2. アクティベーション解除中にライセンス情報を書き出しオプションを有効にします。
   ライセンスファイルをダウンロードできるようになるため、別のシステムで再有効化できます。
3. [アクティベート解除] をクリックします。
4. ダウンロード場所を参照し、[保存] をクリックします。
   PitStop Server がライセンスファイルLicensesBackup.htmlを作成します。PitStop Serverがアクティベート解除されます。
5. [閉じる]をクリックします。

PitStop Server をアクティベート解除する(オフライン)

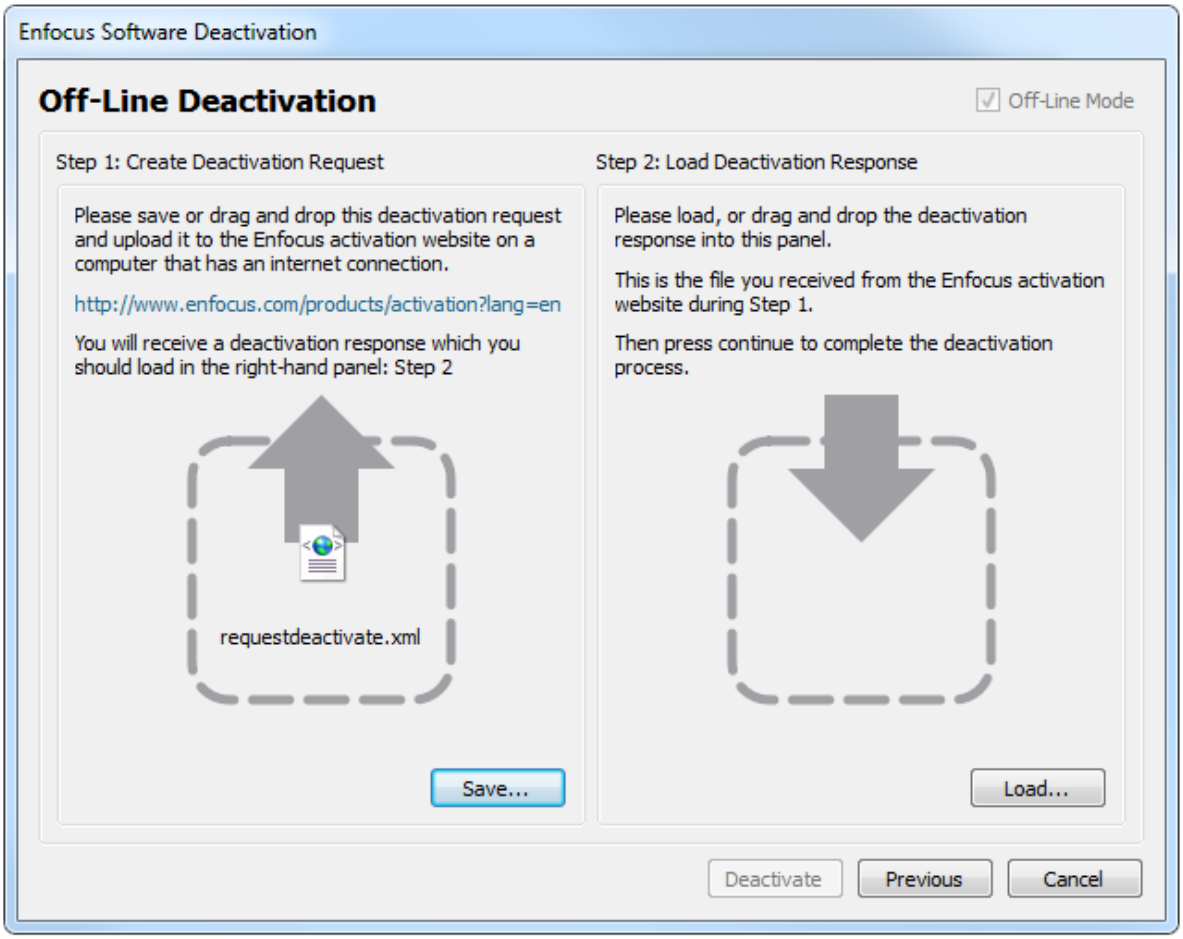
たとえば、ライセンスを別のシステムに移動するときにこのタスクを使用します。

PitStop Serverがインストールされているオフラインシステムの他に、Enfocus Web サーバーと通信するために、インターネットに接続したシステムが必要です。

PitStop Serverをアクティベート解除する

1. PitStop Serverのあるオフラインシステム:
   a. **Enfocus** のバージョン情報**PitStop Server**ダイアログボックスで、無効にするプロダクトキーを選択します。

b. ペインの下のオフラインモードを有効にします。
c. アクティベーション解除中にライセンス情報を書き出しオプションを有効にします。
ライセンスファイルをダウンロードできるようになるため、別のシステムで再有効化できます。
d. [アクティベート解除] をクリックします。
e. ダウンロード場所を参照し、[保存] をクリックします。
PitStop Serverはライセンスファイル**LicensesBackup.html**を作成し、次のダイアログボックスを開きます。



f. [ステップ**1**] で [保存]をクリックします。
PitStop Server がファイル**requestdeactivate.xml**を作成します。

2. requestdeactivate.xmlをオンラインシステムで使用できるようにします。

例：requestdeactivate.xmlをUSBスティックにコピーし、USBをオンラインシステムに接続します。

3. オンラインシステム:
a. *http://www.enfocus.com/products/activation?lang=en* にアクセスします。
b. requestdeactivate.xmlをアップロードし、[続行]をクリックします。
c. [続行] をクリックして確認します。
Enfocus Web サーバーによって deactivation-response.xml が生成されます。

   d. ファイルをダウンロードします。

4. PitStop Serverのあるオフラインシステム:
   a. ステップ**2**で deactivation-response.xml をアップロードします。
   b. [アクティベート解除] をクリックします。
      PitStop Serverがアクティベート解除されます。
   c. [閉じる]をクリックします。

PitStop Server の修復(オンライン)

PitStop Serverを使用し、ライセンスを修復する必要があることが示されるときにこのタスクを使用します。

PitStop Serverを修復する手順

1. **Enfocus** のバージョン情報**PitStop Server**ダイアログボックスのライセンスタブで、修復するプロダクトキーを選択します。
2. [オフラインモード] ダイアログが表示されます。
3. 修復をクリックします。
   システムがEnfocus Webサーバーと通信し、ライセンスを修復します。うまく行かない場合は Enfocus サポートポータル (*http://www.enfocus.com/en/supportportal*) から Enfocus にお問い合わせください。
4. [閉じる]をクリックします。

PitStop Server の修復(オフライン)

PitStop Serverを使用し、ライセンスを修復する必要があることが示されるときにこのタスクを使用します。

PitStop Serverがインストールされているオフラインシステムの他に、Enfocus Web サーバーと通信するために、インターネットに接続したシステムが必要です。

PitStop Serverを修復する手順

1. PitStop Serverのあるオフラインシステム:
   a. **Enfocus** のバージョン情報**PitStop Server**ダイアログボックスのライセンスタブで、修復するプロダクトキーを選択します。
   b. [オフラインモード]オプションを有効にします。
   c. 修復をクリックします。
      新しいダイアログ ボックスが表示されます。
   d. [ステップ**1**] で [保存]をクリックします。
      PitStop Server がファイルrequestrepair.xmlを作成します。
2. requestrepair.xmlをオンラインシステムで使用できるようにします。

   例：requestrepair.xmlをUSBスティックにコピーし、USBをオンラインシステムに接続します。

3. オンラインシステム:
   a. *http://www.enfocus.com/products/activation?lang=en* にアクセスします。
   b. requestrepair.xmlをアップロードし、[続行]をクリックします。
   c. Enfocus IDパスワードを入力し、[続行]をクリックします。
   d. [続行] をクリックして確認します。
      Enfocus Web サーバーによってresponse.xmlが生成されます。
   e. ファイルをダウンロードします。
4. PitStop Serverのあるオフラインシステム:
   a. ステップ**2**でresponse.xmlをアップロードします。
   b. 修復をクリックします。
      PitStop Serverが修復されます。うまく行かない場合は Enfocus サポートポータル (*http://www.enfocus.com/en/supportportal*) から Enfocus にお問い合わせください。
   c. [閉じる]をクリックします。

3.2.2. サブスクリプションIDのアクティベート（サブスクリプション）

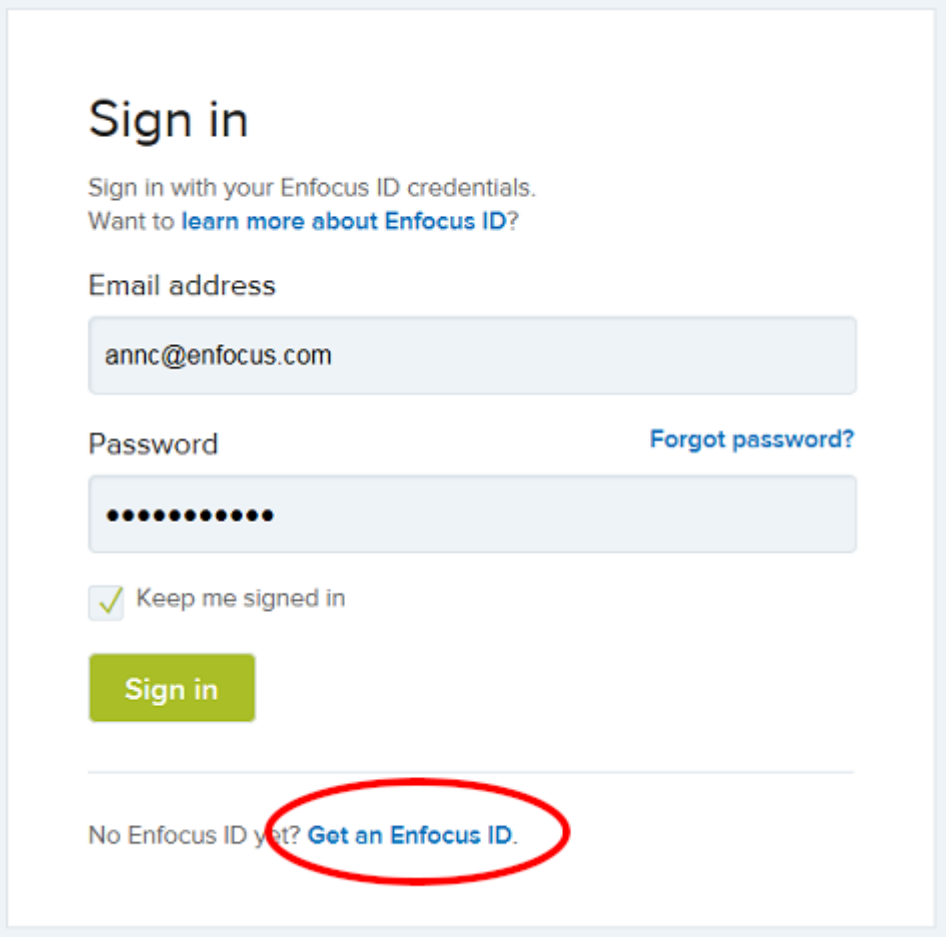
PitStop Serverサブスクリプションを購入した場合、サブスクリプションIDを受け取っています。契約期間を開始するには、このIDをアクティベートする必要があります。

注**:** Enfocus サブスクリプションは Esko ライセンスサーバーでチェックされます。そのため、お使いのプロキシサーバーとファイアウォールの設定 (もしあれば) が、HTTP および HTTPS プロトコルの両方で *.esko.com へのアクセスを許可しているか確認してください。

サブスクリプションIDをアクティベートする

1. Enfocus Webサイトにアクセスします。
2. Enfocus IDを使用してサインインします。

   Enfocus IDは、Enfocusとのすべてのコミュニケーションおよびインタラクションのためのアカウントです。まだ登録されていない場合は、**Enfocus ID** の取得リンクをクリックして、画面に指示に従います。



Enfocusの顧客ポータルであるMy Enfocusは新しいタブで開きます。

3. サイドバーの「顧客サービス」の下にあるサブスクリプションをアクティベートをクリックします。

4. サブスクリプションIDを入力して、アクティベートをクリックします。
   複数のIDを一度に入力することも可能です。スペースまたはカンマで区切ってください。
   サブスクリプションIDは、お客様のEnfocus IDにリンクされています。詳細に説明されているように、PitStop Serverを使って、すぐに作業を開始することができます。

   注: ライセンスを他の人が使用する場合は、サブスクリプションを管理リンクをクリックして、Enfocus IDを入力して該当者にライセンスを割り当てます。この方には、すべての関連情報が記載された電子メールが送信されます。

5. PitStop Serverを開きます。
   [Enfocus PitStop Serverについて] ダイアログ ボックスが表示されます。

6. [ライセンス]タブで、My Enfocus ID認証情報（電子メールアドレスとパスワード）を入力し、サインインをクリックします。

バックグランドでは、PitStop Serverがライセンスをチェックし、契約期間が終了するまでは、ソフトウェアへのアクセスを許可します。（サブスクリプションのキャンセルにより）終了した場合は、警告が表示されます。

Enfocus IDはサインインした状態です。次回PitStop Serverを起動したときに認証情報を入力する必要がありません。ただし、長期間（1か月以上）ソフトウェアを使用していない場合は、もう一度サインインし、PitStop Serverでライセンスがまだ有効であることを確認しなければならない場合があります。

注: 別のコンピュータでサブスクリプションライセンスを使用する場合は、サインアウト（PitStop Serverから）して、ライセンスを解放し、他のコンピュータでサインインする必要があります。

3.3. サポートを受ける

3.3.1. 問題の場合の対応

問題がある場合は、次のように続行してください。

1. Enfocus Webサイトのマニュアルを見る
   - アクティベーショントラブルシューティングガイドでは、ソフトウェアのアクティベーション関連の問題を解決する方法について明確に説明しています。 *http://www.enfocus.com/manuals/Extra/ActivationTroubleshooting/22/home.html*
   - **PitStop Server**製品ページのマニュアルには、アクションリストの操作、PitStopレポートテンプレートのカスタマイズ、プリフライトレポートメッセージの詳細など、ソフトウェアと関連トピックについて説明しています*https://www.enfocus.com/en/support/manuals/pitstop-server-manuals*。ヘルプ > オンラインリソース > オンラインドキュメント提供を選択すると、ソフトウェア内からこの情報にアクセスできます。
2. 既知の問題と解決方法のデータベースを参照してください。ヘルプ > プラグインヘルプ > **PitStop Server** ヘルプ > ソリューション情報を選択すると、アプリケーション内からこの情報にアクセスできます。
3. お近くのリセラーにお問い合わせください。お問い合わせ情報はEnfocus Webサイトにあります。 *http://www.enfocus.com/en/support/resellers/*
4. Enfocus のカスタマーサポートに問い合わせる問題のレポート 25 ページのを参照してください。

3.3.2. サポート情報の確認

お使いの Enfocus 製品のバージョン情報の確認

1. 次のいずれかを実行します。
   - Windowsでは、[ヘルプ] > **Enfocus PitStop Server**[バージョン情報]を選択します。

- Macでは、**[PitStop Server]** > **Enfocus PitStop Server**[バージョン情報]を選択します。

  [Enfocus PitStop Serverバージョン情報] ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [サポート] タブをクリックします。

   ソフトウェアのバージョン関連情報すべてとコンピュータシステムの構成が表示されます。

Enfocus サポートチームにこの情報を提供する場合は、クリップボードへコピーボタンをクリックして、*Enfocus* サポートポータルのケースの詳細フィールドに内容を貼り付けます。

3.3.3. 問題のレポート

問題を報告する前に

- 一度ソリューション情報をご確認ください。データベースに問題解決方法があるかもしれません。
- 無料サポートがライセンスに含まれているかどうか確認してください：サポートポリシー

問題を報告する手順

1. 次のいずれかを実行します。
   - Enfocus Webサイトの*Enfocus*サポートポータルにアクセスし、[問題を報告]をクリックします。
   - ソフトウェアでは、[ヘルプ] > [サポートに問い合わせ]を選択します。Enfocus Webサイトのサポートセクションが表示されます。問い合わせの下にある問題を報告をクリックします。
   - Enfocusサポートポータルに入るには、こちらをクリックします。
2. Enfocus ID (通常は電子メールアドレス) とパスワードを使ってログインします。
3. [新規ケースの作成]をクリックします。
4. オンラインフォームに必要事項を入力します。

   バージョン番号がわからない場合は、サポート情報の確認 24 ページのを参照してください。
5. [送信] ボタンをクリックします。

4. PitStop Serverの開始と終了

4.1. PitStop Server の起動

PitStop Server の起動手順

1. 次のいずれかを実行します。
   - スタートメニューで PitStop Server を選択します（Windows）
   - アプリケーション（PitStopServer.exeまたはPitStopServer.app）を見つけ、ダブルクリックしてPitStop Serverを起動します。

   PitStop Serverはデフォルトで次の場所にインストールされます。

   - *Windows*: C:\Program Files\Enfocus\Enfocus PitStop Server <バージョン番号>またはC:\Program Files (86x)\Enfocus\Enfocus PitStop Server <バージョン番号>
   - *Mac*: /Applications/Enfocus/Enfocus PitStop Server<バージョン番号>
2. PitStop Server Watchdog が実行中である必要があります (*Enfocus PitStop Server バージョン* 9 ページのを参照)。これが該当しない場合は、ダイアログが表示され、PitStop Server Watchdogを起動するように指示されます。[はい]をクリックします。

   備考:

   - *PitStop Server* を起動するたびに Watchdog を自動的に起動するには、[はい] ボタンをクリックする前に [今後はこのメッセージを表示しない] チェックボックスを選択します。このオプションをリセットするには、[ウィンドウ] > [環境設定] > [全般]に移動し、すべてのメッセージをリセットボタンをクリックします。
   - コンピュータを起動するたびにWatchdogを自動的に起動する場合は、サービス（Windows）またはデーモン（Mac）としてWatchdogを実行するように設定できます。*Windows でサービスとしてWatchdog を実行する* 26 ページのおよび*Macでデーモンとして*Watchdog を実行する* 27 ページのを参照してください。
3. About PitStop Serverダイアログが開く場合は、閉じるをクリックします。
   PitStop Serverを使用できます。

4.1.1. Windows でサービスとしてWatchdog を実行する

Microsoft Windowsでは、WatchdogはWindowsサービスとして動作できます。これにより、コンピュータの起動時にPitStop Serverが自動的に起動します。

注: マッピングされたネットワークドライブの読み込みが OS の制限によって失敗するのを防ぐため、デフォルトでは自動起動しません。Microsoft Windows では、ネットワークコンピュータまたはフォルダにドライブ文字を割り当てることで、マッピングされたドライブを作成することができます。マッピングされたドライブ文字（Zなど）

は、ローカルドライブ文字（Cなど）と同様に、ファイルまたはフォルダパス（ホットフォルダ設定など）で使用できます。ただし、ドライブマッピングは、ユーザーがシステムにログインし、サービスにはログインしていないするときに（ユーザーアカウントが関連付けられている場合でも）確立されます。

サービスとして実行するWatchdogを構成するには（Windowsのみ）

1. Windowsオペレーティングシステムで、スタート > コントロールパネル > 管理ツール > サービスに移動します。
2. サービスをダブルクリックします。
3. サービスのリストで、**Enfocus PitStop Server Watchdog**を見つけます。
4. このサービスを右クリックし、プロパティを選択します。
5. 全般タブの起動タイプドロップダウンメニューで、自動を選択します。
   PitStop Server WatchdogはPitStop Serverを起動するたびに自動的に起動します。
6. [ログオン] タブで管理権限を持つユーザ/ID が設定されていることを確認します。これにより、ホットフォルダに設定されたフォルダ (およびボリューム) での権限の問題を回避できます。
7. 全般タブに戻り、開始ボタンをクリックすると、PitStop Server Watchdogがサービスとして起動します。
   開始ボタンをクリックしない場合は、コンピュータを再起動するとすぐにWatchdogが起動します。

4.1.2. Macでデーモンとして**Watchdog** を実行する

Macでは、PitStop Serverをデーモンとして実行できます。これにより、コンピュータの起動時にPitStop Serverが自動的に起動します。

注:

- Macでは、Watchdogがユーザーアカウントにリンクされます。「PitStopServer」などのユーザーを十分な権限で作成することをお勧めします。このユーザーを使用してソフトウェアをインストールし、常にログインさせます。必要な場合は、PitStop Server Watchdog をこのユーザーのログイン項目として設定できます。
- PitStop Serverを**Catalina**上でデーモンとして実行する場合、*PitStop Serverのフルディスクアクセスを有効化*する必要があります。そうしないと、プリセット（アクションリスト、プリフライトプロファイルなど）などのユーザー固有のファイルを使用することができなくなります。

デーモンとして実行するWatchdogを構成するには（Macのみ）

1. /Applications/Utilities/Terminal.appを起動して、ターミナルウィンドウを開きます。
2. `sudo pico /Library/LaunchDaemons/PitStopServerWatchdog.plist`と入力し、**Enter**を押します。
3. 管理者パスワードを指定します。

ターミナルウィンドウ内でエディタが起動します。

4. OnDemand のキーについて、<true/> を <false/> で置換します。
5. エディタを終了するには、**Control-X**を押します。
6. 変更したバッファを保存するかどうかエディタに確認されたら、**Y** を押します。
7. そのバッファの保存先を選択するように求められます。場所を変更せずに **Enter** キーを押します。
   エディタが終了します。
8. ターミナルウィンドウを閉じます。
9. コンピュータを再起動します。
   ログインしていない場合でも Watchdog が実行されます。

4.1.2.1. PitStop Serverに対しフルディスクアクセスを有効化する（Catalina）

PitStop ServerをCatalina上でデーモンとして実行する場合、PitStop Serverのフルディスクアクセスを必ず有効化する必要があります。そうしないと、アクションリスト、プリフライトプロファイルなどのユーザー固有のファイルにアクセスすることができなくなります。

次の手順に従います。

1. [システム環境設定]を開き、[セキュリティとプライバシー]を選択します。
2. [プライバシー]タブに切り替えます。
3. 左の列において、サービス一覧から[フルディスクアクセス]を選択します。
4. 左下隅のロックアイコンをクリックし、必要に応じて（管理者）パスワードを入力します。[ロックを解除]をクリックします。
5. 次のいずれかを実行します。
   - 「+」ボタンをクリックし、PitStop Serverアプリを選択してから[開く]をクリック。または
   - PitStop Serverアプリを右のフィールドにドラッグアンドドロップ。

   PitStop Serverアプリは、次の場所にあります。Applications/Enfocus/Enfocus PitStop Server <#######>
6. [今すぐ終了]をクリックします。

4.2. PitStop Serverを終了する

PitStop Serverを終了するには

1. [ファイル] > [終了] (Windows) または**[Enfocus PitStop Server]** > **[Quit Enfocus PitStop Server**の終了] (Mac)をクリックします。

2. PitStop Serverを閉じた後に、ファイルを処理し続けるかどうかを決定します。
   - ファイルを処理し続けるには、はいをクリックします。ファイルを処理するPitStop Server Watchdogとすべてのソフトウェアコンポーネントは、バックグラウンドで実行され続けます。
   - ファイル処理を停止するには、いいえをクリックします。すべてのその他のソフトウェアコンポーネントを含む PitStop Server UI と Watchdog の両方が実行を停止します。

5. Enfocus PitStop Server の作業領域

5.1. ロック設定ボタン

PitStop Server作業領域の右上端にロック設定ボタンがあります。

- : このように表示されている場合は、PitStop Serverはロックされておらず、制限なく使用できます。
- : このように表示されている場合は、PitStop Serverがパスワードでロックされています。パスワードがわからない場合は、新しいホットフォルダを設定できません。

5.1.1. PitStop Server のロック

PitStop Server にはパスワードによるロック機能が用意されています。PitStop Server がロックされている間は、ジョブの監視およびキャンセル、履歴の管理、ホットフォルダの表示、などといった日常的なタスクのみが可能です。PitStop Server の設定はできなくなります。

PitStop Server のロック手順

1. PitStop Server の右上隅にある [ロック設定] ボタン をクリックします。
   [ロック設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [ロック済み] を有効にします。
3. パスワードの入力フィールドと確認フィールドに同じパスワードを入力します。
4. **[OK]** をクリックします。

5.1.2. PitStop Server のロック解除

PitStop Server のロック解除手順

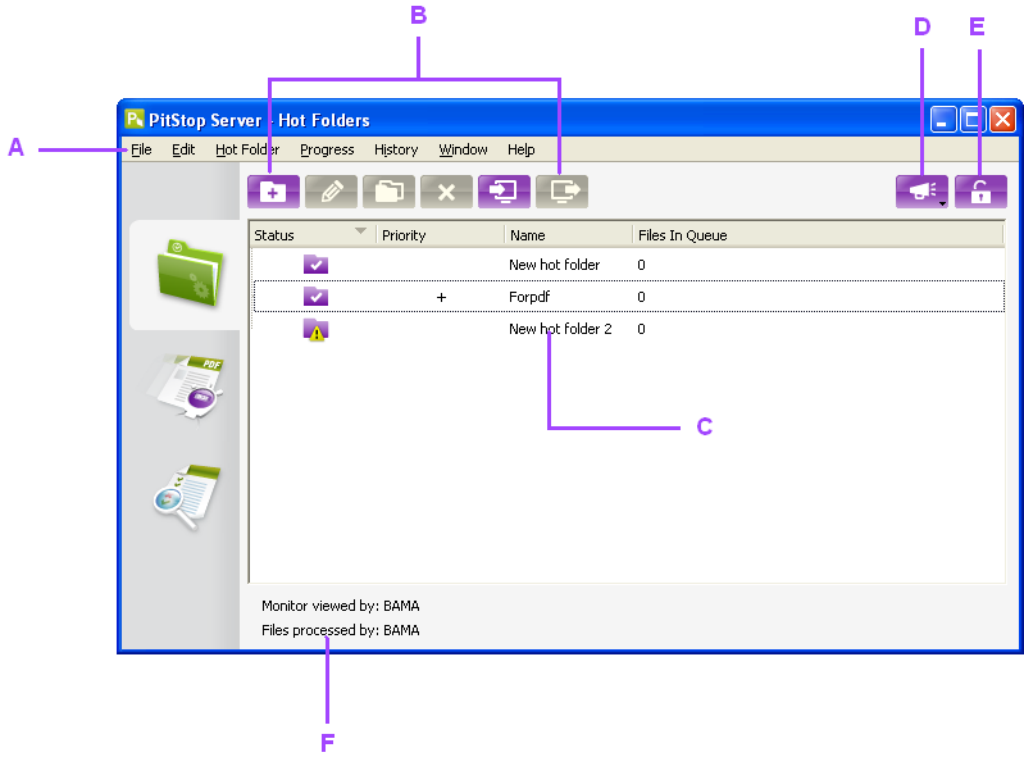
1. PitStop Server の右上隅にある [ロック解除設定] ボタン をクリックします。
   [ロック設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. パスワードを入力し、[ロック解除] ボタンをクリックします。
3. [ロック解除] を有効化します。
4. **[OK]** をクリックします。

5.2. PitStop Server の [ホットフォルダ] タブ

[ホットフォルダ] タブは デフォルトでは PitStop Server を起動直後に表示されます。[ホットフォルダ] タブからは次のアクションを実行できます。

- ホットフォルダの管理
- 特定のホットフォルダの状況の記録

ホットフォルダのコンテキストメニューからは、起動/停止、優先度の変更、ホットフォルダの管理、リストの並べ替え、入力フォルダや出力フォルダの参照など、さまざまな基本タスクを実行できます。



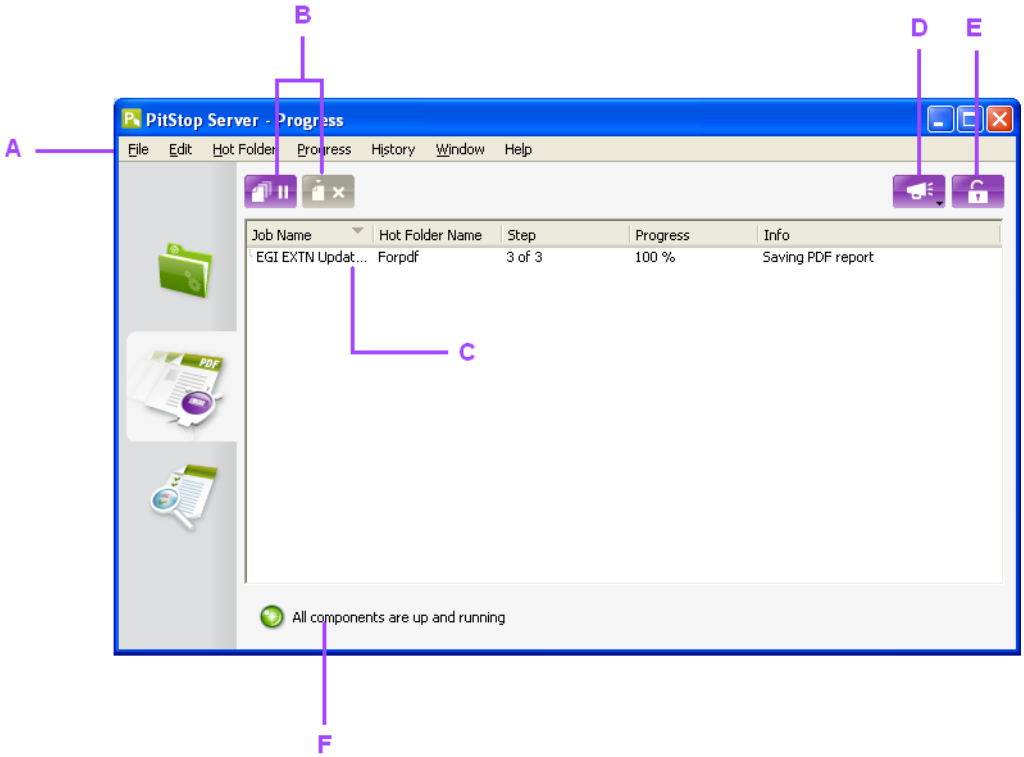
A. メニューバー
B. ホットフォルダの管理に使用するボタン
C. ホットフォルダステータス、優先度および名前
D. 特殊なイベントログ *(特殊なイベントのログ 78 ページのを参照)*
E. *[ロック設定]* ボタン *(ロック設定ボタン 30 ページの を参照)*
F. *PitStop Server* および*PitStop Server Watchdog* の現在のユーザー

注**:** ホットフォルダの管理の詳細については、ホットフォルダの操作 40 ページの を参照してください。ホットフォルダの設定の詳細については、ホットフォルダの設定 51 ページの を参照してください。

5.3. PitStop Server の [進行状況] タブ

[進行状況] タブには、PitStop Server の実行中のジョブに関する情報が表示されます。[進行状況] タブからは次のアクションを実行できます。

- PitStop Server で処理中のジョブの監視
- 特定のジョブ状況の記録



A. メニューバー
B. ジョブ処理の一時停止/再開、および選択したジョブの削除を実行するボタン
C. ジョブ名、ホットフォルダ、工程、進行状況、情報
D. 特殊なイベントログ *(特殊なイベントのログ 78 ページのを参照)*
E. *[ロック]* ボタン *(ロック設定ボタン 30 ページの を参照)*
F. *PitStop Server Watchdog* のステータス

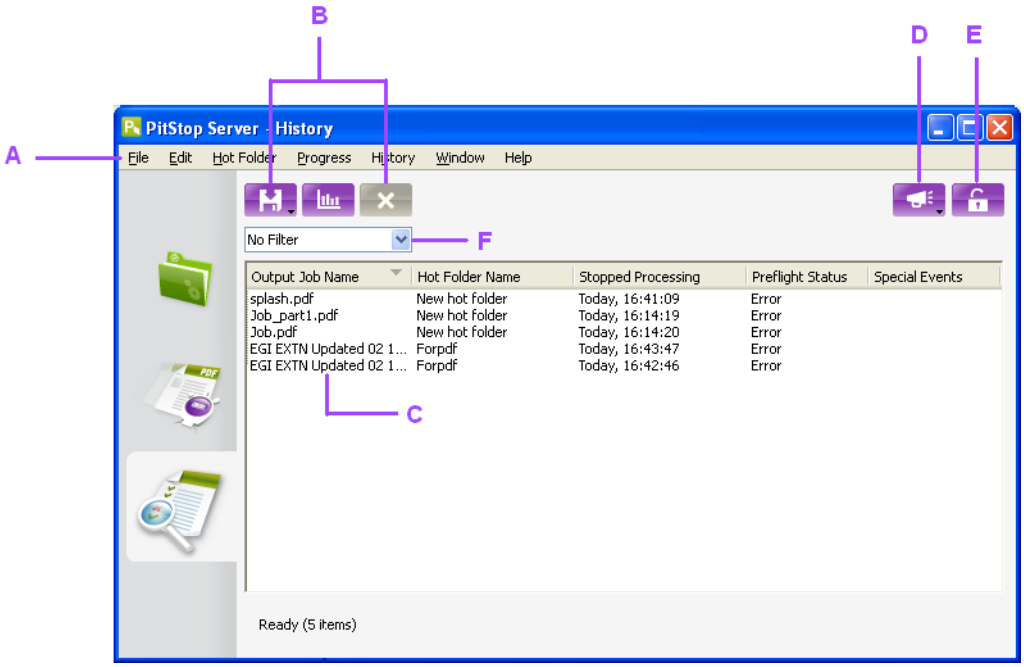
注: 処理中のジョブの詳細については、実行中ジョブの監視 74 ページの を参照してください。

5.4. PitStop Server の [履歴] タブ

履歴タブには、PitStop Server の完了したジョブに関する情報が表示されます。[履歴] タブからは次のアクションを実行できます。

- 完了したジョブの管理 (名前や日付などでフィルタを適用...)

- 完了したジョブのプリフライト状況のチェック
- 統計のチェック



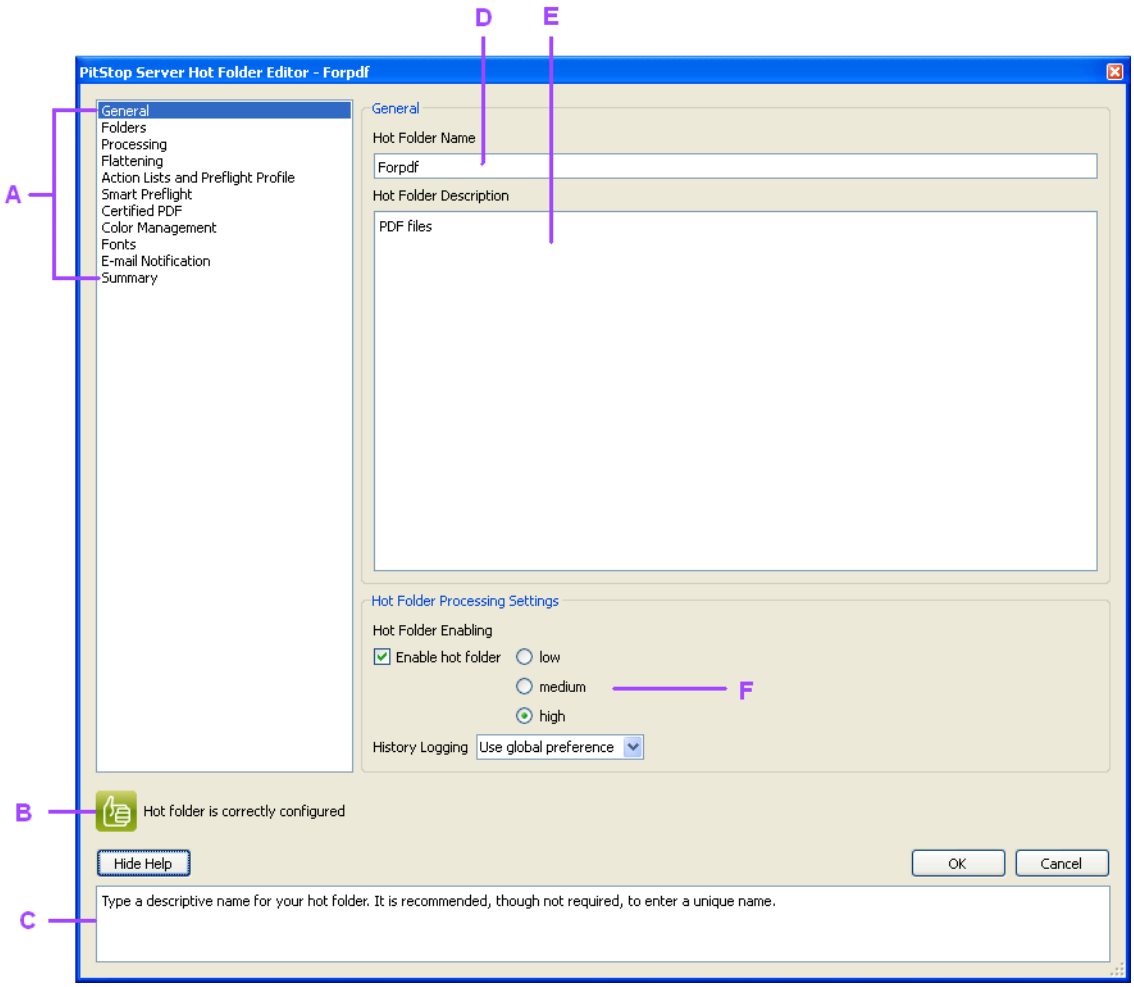
A. メニューバー
B. 履歴の管理用ボタン
C. 出力名、ホットフォルダ、日付、プリフライト状況、ジョブごとの特殊なイベント
D. 特殊なイベントログ *(特殊なイベントのログ 78 ページのを参照)*
E. *[ロック]* ボタン *(ロック設定ボタン 30 ページの を参照)*
F. 履歴に適用されているフィルタ（*履歴のフィルタリング 76 ページのを参照*）

注**:** 履歴ロギング詳細については、*完了したジョブの [履歴] タブでの表示* 76 ページの を参照してください。

5.5. ホットフォルダエディタ

ホットフォルダは、複数のフォルダを持ち、さまざまなプロパティから構成されます。

ホットフォルダのプロパティは、ホットフォルダエディタを使用して設定または変更できます。



A. ホットフォルダを定義するプロパティのカテゴリ。
B. ホットフォルダの状況と構成エラーの表示 (エラーがある場合)。
C. 選択中のカテゴリと設定に関するヘルプ
D. ホットフォルダに内容を表す名前を入力します。
E. ホットフォルダの説明は、入力しなくてもかまいません。
F. ホットフォルダを起動して、優先度を指定します。

5.5.1. ホットフォルダエディタダイアログの表示

[ホットフォルダ] タブで、次のいずれかの手順を実行します。

- 新しいホットフォルダのプロパティを設定する場合は、[新規ホット フォルダの作成] ボタン をクリックします。ホットフォルダの設定 51 ページの も参照してください。

- 既存のホットフォルダのプロパティを変更する場合は、リストでホットフォルダを選択して [選択したホットフォルダの編集] ボタンをクリックするか、リストのホットフォルダをダブルクリックします。

5.5.2. ホットフォルダエディタの使用

ホットフォルダエディタを使用する手順

1. ホットフォルダエディタでプロパティのグループを表示するには、カテゴリをクリックします。
2. 必要に応じてプロパティを変更します。

   注: 変更できるプロパティについては、ホットフォルダの設定 51 ページの を参照してください。

3. その他のプロパティを変更する必要がある場合は、対応するカテゴリをクリックして選択します。
4. **[OK]** をクリックします。
   変更が保存され、ホットフォルダタブに戻ります。

5.6. PitStop Server のメニュー

PitStop Server では、メニューからPitStop Server基本機能にすばやくアクセスできます。一部のメニュー項目は、特定の項目が選択されている場合にのみ使用できます。 たとえば、[ホットフォルダ]は、でホットフォルダが選択されていない場合は淡色表示されます。

5.6.1. [ファイル] メニュー

メニュー項目	**Windows**	**Mac**	詳細情報
[終了]	ALT + F4	cmd + Q	*PitStop Serverを終了する* 28 ページの Macでは、このオプションは「Enfocus PitStop Serverの終了」と

メニュー項目	Windows	Mac	詳細情報
			呼ばれ、**Enfocus PitStop Server**メニューにあります。

5.6.2. [編集] メニュー

メニュー項目	Windows	Mac	詳細情報
すべて選択	CTRL + A	cmd + A	
すべて選択解除	CTRL + SHIFT + A	cmd + SHIFT + A	

5.6.3. [ホットフォルダ] メニュー

メニュー項目	Windows	Mac	詳細情報
新規	CTRL + N	cmd + N	ホットフォルダの作成 46 ページの
編集	CTRL + E	cmd + E	ホットフォルダの編集 47 ページの
取り込み	CTRL + O	cmd + O	ホットフォルダの取り込み 48 ページの
書き出し	CTRL + S	cmd + S	ホットフォルダの書き出し 48 ページの
削除	Del	Backspace	ホットフォルダの削除 48 ページの
複製	CTRL + D	cmd + D	ホット フォルダの複製 47 ページの
有効化			ホットフォルダのステータス 49 ページの
無効			ホットフォルダのステータス 49 ページの
優先度			ホットフォルダの優先度 50 ページの
参照			Finder またはエクスプローラで選択した入力フォルダや出力フォルダを表示します。

メニュー項目	Windows	Mac	詳細情報
ホットフォルダの表示	CTRL + 1	cmd + 1	

5.6.4. [進行状況] メニュー

メニュー項目	Windows	Mac	詳細情報
すべてのジョブの一時停止			すべての実行中ジョブを一時停止する 74 ページの
すべてのジョブを再開			すべてのアクティブジョブを再開する 74 ページの
ジョブを取り消す	Esc	cmd + .	実行中ジョブのキャンセル 75 ページの
進行状況の表示	CTRL + 2	cmd + 2	実行中ジョブの監視 74 ページの

5.6.5. [履歴] メニュー

メニュー項目	Windows	Mac	詳細情報
書き出し履歴			履歴の書き出し 78 ページの
統計データの表示	CTRL + I	cmd + I	統計の表示 78 ページの
履歴から削除	Del	Backspace	リストからジョブを削除する 77 ページの
特殊なイベントログの表示			特殊なイベントのログ 78 ページの
履歴を表示	CTRL + 3	cmd + 3	履歴のフィルタリング 76 ページの

5.6.6. [ウィンドウ] メニュー

メニュー項目	Windows	Mac	詳細情報
[プリフライト...]	CTRL + ALT + P	cmd + opt + P	ホットフォルダプロパティ：アクションリストとプリフライトプロファイル 64 ページの

メニュー項目	**Windows**	**Mac**	詳細情報
[アクションリスト...]	CTRL + ALT + A	cmd + opt + A	ホットフォルダプロパティ：アクションリストとプリフライトプロファイル 64 ページの
[変数セット...]	CTRL + ALT + V		スマートプリフライト 117 ページの
[列を選択...]	-	-	現在のタブで列を表示または非表示にできます。 あるいは、現在表示されている列以外の列を表示するには、ホットフォルダタブの列ヘッダーを右クリックし、列の表示をクリックします。
[環境設定...]	CTRL + ALT + K	cmd + opt + K または cmd + ,	Macでは、環境設定は**Enfocus PitStop Server**メニューに表示されます。 *Enfocus PitStop Server*環境設定 80 ページの

5.6.7. ダッシュボード

メニュー項目	詳細情報
マイ **PitStop Server**ダッシュボード	これは、Enfocus WebサイトのPitStop Serverダッシュボードへの直接リンクです。オプトインすると、プリフライトされたファイルの数、失敗した回数、成功した回数などのPitStop Serverの使用に関する多くの情報が得られます。このデータは Enfocus ID にリンクされています。これは、PitStop Serverダッシュボードにオプトインするために使用された Enfocus ID です。

メニュー項目	詳細情報
オプトイン/オプトアウト	いつでもオプトアウトできます。希望する場合は、後で使用できるようにデータを保存することができます。

5.6.8. [ヘルプ] メニュー

メニュー項目	Windows	Mac	詳細情報
Enfocus PitStop Server バージョン			Macでは、[アプリケーション]メニューに表示されます。このダイアログでは、バージョン、ライセンス、サポート情報を確認できます。このダイアログでは、PitStop Serverライセンスを管理できます。
ライセンス			Enfocusライセンスを管理するには、このメニュー項目をクリックします。
Enfocus ホームページ			あるいは、*http://www.enfocus.com*をクリックします。
購入申し込み			あるいは、をクリックします。 *http://www.enfocus.com/en/products/pitstop-server/*
アップデートの確認			このオプションをクリックすると、バージョンが最新かどうかを確認します。
PitStop Server ヘルプ（**HTML**）			このオプションをクリックすると、PitStop Serverリファレンスガイドを開きます。
使用許諾契約 **(PDF)**			
オンラインリソース			リンク先： • Enfocus Webサイトのオンラインドキュメント提供 • プリフライトプロファイルライブラリ • アクションリストライブラリ
解決策の記事			問題の場合の対応 24 ページの
サポートに問い合わせ			問題の場合の対応 24 ページの

6. ホットフォルダの操作

6.1. ホットフォルダとは

6.1.1. ホットフォルダの定義

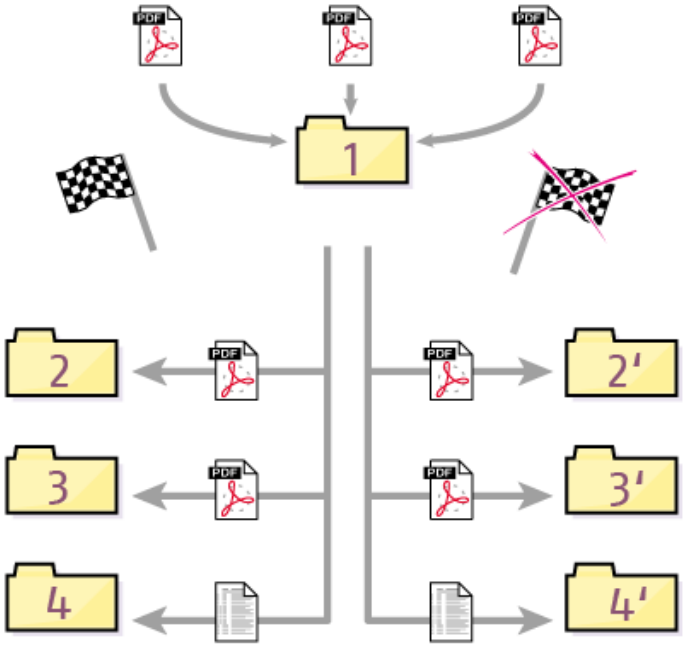
Enfocus PitStop Serverのホットフォルダは、自動化された複数の PDF 処理専用フォルダから構成されます。これらのフォルダは、コンピュータまたはネットワークドライブのハードディスク上に作成します。Enfocus PitStop Serverは、このホットフォルダの入力フォルダに追加されたPDF 文書を自動的に処理し、処理されたファイルを指定された出力フォルダに移動させます。オリジナルPDF 文書とプロセスレポートは、処理結果に応じて同じフォルダまたは別のフォルダに保存されます。

ホットフォルダの入力フォルダは実行中のフォルダです。 Enfocus PitStop Serverは、ホットフォルダの入力フォルダを定期的な間隔で監視し、この入力フォルダに PDF 文書が追加されると、対応する自動アクションを開始します。

ホットフォルダは、相互にリンクされたフォルダです。ホットフォルダの中にあるフォルダにリンクを設定するには、ホットフォルダエディタを使用します。 PDF 文書が処理中に移動するパスはユーザが定義する必要があります。

6.1.2. ホットフォルダワークフローの図解

以下の図に、典型的なホットフォルダの設定とワークフローを示します。



1. Enfocus PitStop Serverは、入力ファイルフォルダの入力PDF 文書が検出され、自動的に処理されます。
2. Enfocus PitStop Serverでは、処理結果に応じてオリジナルPDF 文書が別のフォルダに移動されます。処理が成功した場合はフォルダ2へ、PDF 文書の処理中にエラーが発生した場合はフォルダ2'へ移動されます。
3. Enfocus PitStop Serverでは、正常に処理されたPDF 文書は専用フォルダ (3) に保存され、エラーが発生したPDF 文書はフォルダ (3') に保存されます。
4. Enfocus PitStop Server によってプリフライトレポートが生成され、対応するフォルダに保存されます。

6.1.3. 有効なホットフォルダの主要規則

ホットフォルダは、アクションリストや プリフライトプロファイルがなければ機能しません。ホットフォルダを正常に起動するには、ホットフォルダに プリフライトプロファイルまたは 1 つ以上のアクションリストを設定する必要があります。例を挙げると、ホットフォルダは次の場合に有効化されます。

- プリフライトプロファイルが 1 つあり、アクションリストがない
- 1 つ以上のアクションリストがあり、プリフライトプロファイルがない
- プリフライトプロファイルと 1 つ以上のアクションリストがある

ホットフォルダには、複数のアクションリストを設定できますが、プリフライトプロファイルは 1 つしか設定できません。

ホットフォルダを有効化するにはその他の要件も満たす必要があります。 たとえば、ホットフォルダの入力フォルダと出力フォルダには有効なパスを設定する必要があります。ホットフォルダが無効な場合は、解決すべきエラーがダイアログボックスの下部と要約に表示されます。 「ホットフォルダのプロパティ：要約 72 ページの」を参照してください。

6.2. プロセスとは何か

6.2.1. 処理中の定義

Enfocus PitStop Server 環境にあるホットフォルダでは、追加した文書に対して自動的に「プロセス」が実行され、プロセスの成功または失敗に応じて、これらの文書が特定のフォルダに保存されます。では、プロセスから何が分かるのでしょうか。

プロセスには以下のものが含まれます。

- PDF 文書は プリフライトプロファイルと照合されて適宜修正されます。プリフライトプロファイルはユーザが定義する基準の集合で、PDF 文書が出力条件を満たしているかどうかを判断します。
- アクションリストはPDF 文書に適用できます。アクションリストはPDF 文書の編集や修正を自動的に行う、連続したタスクの集合です。アクションリストを使用して要素をチェックすることもできます。
- PDF プロファイルとアクションリストは、「プリフライトと自動修正」という 1 つの処理方法として組み合わせることができます。
- PDF 文書以外の文書も、ホットフォルダの入力フォルダに追加されることがあります。Enfocus PitStop Serverによって文書のファイル形式が PDF ではないと判断されると、これらの文書が指定したフォルダに移動されます。

注: プリフライトプロファイルやアクションリストは、Adobe Acrobat のプラグインである Enfocus PitStop Proなどの製品を使用してデザインできます。PitStop 13以降では、PitStop ServerのPitStop Serverメニューで、プリフライトプロファイルとアクションリストを設計できます。

6.2.2. アクションリストとプリフライトプロファイル: プロセスに必要な「燃料」

アクションリストと プリフライトプロファイルは、ホットフォルダの「燃料」と言えます。ホットフォルダの処理を開始するには、ホットフォルダにアクションリスト 1 つ以上、プリフライトプロファイル 1 つ、またはその組み合わせが設定されていなければなりません。アクションリストも プリフライトプロファイルもないホットフォルダは機能しません。各ホットフォルダでは以下のものを指定できます。

- 1 つ以上のアクションリスト (順番に実行されます)

および/または

- 1 つの プリフライトプロファイル

実行順序

PDFがホットフォルダに到着する場合：

1. まず、ホットフォルダの順序でアクションリストが実行されます。
2. 次にプリフライトプロファイルが実行されます。このプロファイルに埋め込みアクションリストが含まれる場合：
   a. 最初に、埋め込まれたアクションリストで定義された変更点が適用されます。
   b. 次に、埋め込まれたアクションリストで定義されたチェックが適用されます。
   c. 最後に、プリフライトプロファイルに含まれる変更点とチェックが適用されます。

注: アクションリストが埋め込まれるかどうかによって、最終結果が異なる場合があります。チェックの結果が正確であることを確認するために、プリフライトプロファイルにすべてのアクションリストを埋め込むことをお勧めします。関連項目 プリフライトプロファイルへのアクションの追加 115 ページの

6.2.3. プロセスの結果

処理した文書は、以下のいずれかの結果になります。

結果	意味
成功	処理された PDF 文書は、プリフライトプロファイルに指定されているすべての基準を満たしています。Enfocus PitStop Server による介入処理は行われませんでした。 および/または アクションリストが正常に適用されました。また、チェック/検出したプロパティに対する「警告」あるいは「エラー」は記録されませんでした。
警告	処理された PDF 文書は、プリフライトプロファイルに指定された 1 つ以上の基準を満たしておらず、「警告」というラベルが付けられました。 または アクションリストでチェックまたは検出した 1 つ以上のプロパティが、「警告」としてログに記録されています。
修正済み	処理された PDF 文書は、アクションリスト、 PDF プロファイル、または PDF プロファイルのアクションリストによって修復され、プリフライトプロファイルで指定されているすべての基準を満たしています。
重大ではないエラー	PDF 文書の処理中に失敗が発生したため、Enfocus PitStop Server が要求された修正を実行できませんでした (埋め込む必要があるフォントがシステムに用意されていない場合など)。失敗がアクションリストで「重大ではない失敗」と設定されているか、PDF プロファイルによる修正時に発生しました。
エラー	処理された PDF 文書は、プリフライトプロファイルに指定された 1 つ以上の基準を満たしておらず、「エラー」というラベルが付けられました。

結果	意味
	または 1 つ以上のアクションリストを正常に適用できなかったか、1 つ以上のチェックしたプロパティまたは検出されたプロパティが「エラー」としてログに記録されています。
重大なエラー	PDF 文書の処理中に失敗が発生したため、Enfocus PitStop Server がタスクを実行できませんでした (埋め込む必要があるフォントがシステムに用意されていない場合など)。失敗がアクションリストで「重大な失敗」と設定されています。
PDF 以外	入力フォルダに入れた文書は PDF 形式ではありません。

6.3. フォルダのタイプ

6.3.1. Enfocus PitStop Serverの作業環境の整理

ホットフォルダを設定するときは、すべてのフォルダを指定し、作業環境に最適な方法でこれらのフォルダを整理できます。たとえば、プロセスの結果 (OK、警告、エラーなど) に応じて、処理した文書を別個のフォルダに保存したり、処理したすべての文書を同じフォルダに保存したりできます。オリジナルの文書、非 PDF ファイル、プロセス レポートも、同じように設定できます。

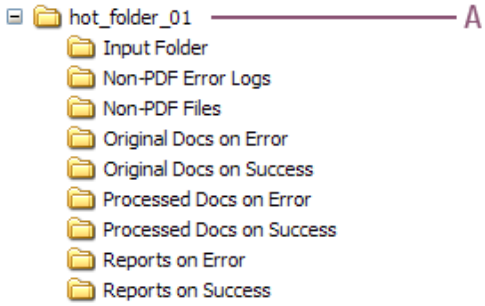
ここでは、ホットフォルダエディタを使って指定できるフォルダの概要について説明します。

6.3.2. ベースフォルダ

ベースフォルダはルートフォルダです。他のフォルダはここを基点として自動的に作成されます。ベースフォルダの定義は必須ではないためベースフォルダを定義した場合でも、その直下に各種フォルダを配置する必要はありませんが、そのようにすることをお勧めします。

入力フォルダと出力フォルダを定義する際には、絶対パスと相対パスの両方を使用できます。相対パスでは、ベースフォルダが「開始位置」として使用されます。

たとえば、以下の例に示しているように、各ホットフォルダにベースフォルダを定義できます（ベースフォルダ(A)とサブフォルダ）。



6.3.3. 入力フォルダ

「入力フォルダ」は、ワークフローの開始点です。このフォルダは、新しい文書が追加されていないかどうか Enfocus PitStop Server によって監視されます。追加された文書が Enfocus PitStop Server によって検出されると、処理が開始されます。文書の処理が開始されると、入力ファイルは入力フォルダから削除され、「オリジナル文書」フォルダに移動されます。入力ファイルが読み取られ、処理されて、処理済み文書の出力フォルダに保存されます。

6.3.4. オリジナル文書のフォルダ

入力フォルダに追加された文書は、 Enfocus PitStop Serverで処理するだけでなく処理前のオリジナルを保存しておくこともできます。オリジナルは、プロセスの結果に応じて、以下のいずれかのフォルダに入れられます。

- 処理に成功したファイルのオリジナル文書を保存するフォルダ
- 処理中に注意が発生したファイルのオリジナル文書を保存するフォルダ
- 処理中に修正が加えられたファイルのオリジナル文書を保存するフォルダ
- 処理中にエラーが発生したファイルのオリジナル文書を保存するフォルダ
- 処理中に重大な失敗が発生したファイルのオリジナル文書を保存するフォルダ
- 処理中に重大ではない失敗が発生したファイルのオリジナル文書を保存するフォルダ
- 非 PDF ファイルのオリジナル文書を保存するフォルダ

6.3.5. 処理した文書のフォルダ

オリジナル文書と同様、処理された文書もプロセスの結果ごとに専用フォルダへ移動させることができます。

6.3.6. 非 PDF ファイルの出力フォルダ

非 PDF ファイルは処理できないため、「処理済み」ファイル用の出力フォルダはありません。これらのファイルは、入力フォルダから、非 PDF ファイル用の出力フォルダに移動されます。これらのフォルダには、次のようなファイルがすべて格納されます。

- オリジナルの PostScript ファイル

- Acrobat Distiller が作成したログファイル

Enfocus PitStop Serverは、このイベントに関するレポート (「エラーログ」) も生成します。このレポートは、「非 PDF エラーログ」フォルダに格納されます。

上記の仕様を活用すると、たとえば顧客から受け取ったファイルをまとめて入力フォルダにドロップして処理を開始し、処理完了後に非 PDF フォルダ内のファイル (画像、PostScript ファイル、Word 文書など) を確認して、手動処理が必要なファイルの有無を確認することができます。

6.3.7. レポート用のフォルダ

入力フォルダに PDF 文書が追加されると、Enfocus PitStop Server は 1 つ以上のアクションリストと プリフライトプロファイルのどちらかまたは両方を実行します。このプロセスでは通常、PDF 文書で次のイベントが発生します。

- PDF 文書を分析し、特定のプロパティに関する情報を収集する
- PDF 文書の一部のプロパティを変更する

これらのイベントの詳細情報はログに記録され、プリフライトレポートに要約が表示されます。プリフライト レポートは、特殊なタイプの PDF 文書です。このファイルには、処理した PDF 文書の警告あるいはエラーなど、潜在的な問題へのハイパーリンクが含まれています。このリンクは、たとえば文書に「Certified Not OK」というラベルが付けられた理由を判断する場合や、処理が成功した PDF 文書にある注意すべきプロパティをチェックする場合に役立ちます。

デフォルトでは、プリフライトレポート名にはオリジナル PDF 文書の名前に「_log.pdf」というサフィックスを追加した名前がつけられますが、これはファイルの名前変更オプションを使って変更できます (ファイル名 58 ページの を参照)。レポートには、PDF 文書のプロセスの結果ごとに専用フォルダを指定できます。

6.4. ホットフォルダの管理

ホットフォルダは、PitStop Server の [ホットフォルダ] タブから管理できます。次に記載するすべてのオプションは、[ホットフォルダ] タブで **Ctrl** キーを押しながらクリックするか、右クリックすると表示されるコンテキストメニューからアクセスできます。

6.4.1. ホットフォルダの作成

ホットフォルダの作成手順

をクリックします。

これで、ホットフォルダエディタが開きます。構成する個々の設定の詳細については、ホットフォルダの設定 51 ページの を参照してください。

6.4.2. ホットフォルダの編集

注: 入力フォルダの監視と処理は、ホット フォルダの編集中も古い設定に基づいて継続されます。 このため、編集時にはホットフォルダを無効にしてください。入力フォルダのサブフォルダ名を変更/削除する場合は、必ずホット フォルダを無効にしてください。

ホットフォルダの編集手順

次のいずれかを実行します。

- リストでホットフォルダを選択し、をクリックします。
- リスト内のホットフォルダをダブルクリックします。

構成する個々の設定の詳細については、ホットフォルダの設定 51 ページの を参照してください。

6.4.3. ホット フォルダの複製

ホットフォルダの複製とは、既存のホットフォルダのコピーを作成することです。これは、リストにある既存のホットフォルダの設定を少しだけ変更したホットフォルダを新たに作成したい場合などに便利です。

ホットフォルダを複製する手順

1. 次のいずれかを実行します。
   - ホットフォルダのリストでホットフォルダを選択し、をクリックします。
   - リストでホットフォルダを右クリックして選択し、[管理] > [複製]をクリックします。

   選択したホットフォルダのコピーがリストに表示されます。複製されるホットフォルダの設定は、停止/無効に設定される点を除き、複製元の設定と完全に同一です。
2. 複製されたフォルダを編集するには、選択してをクリックします。
3. 任意のプロパティを変更して、**[OK]** をクリックします。構成する個々の設定の詳細については、ホットフォルダの設定 51 ページの を参照してください。

注: ホットフォルダを作成したら、必ず入力フォルダと出力フォルダを確認してください。複製ホットフォルダの入出力フォルダには、複製元と同じフォルダが設定されています。

6.4.4. ホットフォルダの削除

ホットフォルダの削除とは、リストからホットフォルダを削除することを指します。削除したホットフォルダは、Enfocus PitStop Server によって監視されなくなります。実際のフォルダはハード ディスクから削除されません。

ホットフォルダを削除する手順

1. 次のいずれかを実行します。
   - ホットフォルダのリストでホットフォルダを選択し、をクリックします。
   - リストでホットフォルダを選択し、[ホットフォルダ] > [削除]をクリックします。
2. [OK] をクリックします。

6.4.5. ホットフォルダの書き出し

ホットフォルダの書き出しとは、指定したホットフォルダの全設定を含むファイルをハードディスク上に作成することを指します。書き出した設定は、後でホットフォルダの [取り込み] 機能を使って取り込むことができます。

ホットフォルダを書き出す手順

1. をクリックします。
2. ダイアログボックスが開き、ホットフォルダ設定ファイルの名前と場所を定義します。
3. 表示されたダイアログボックスで、ホットフォルダの名前と場所を定義し、保存をクリックます。

   .ehf という拡張子のファイル 1 つに設定がまとめられます。

6.4.6. ホットフォルダの取り込み

ホットフォルダの取り込みとは、新しくホットフォルダを作成し、そのフォルダに [書き出し] 機能で書き出した別のホットフォルダの設定を適用することを指します。ホットフォルダの取り込み/書き出しは、ホットフォルダ設定の交換、バックアップ、リストアを行う最適な方法です。

ホットフォルダを取り込む手順

1. をクリックします。
2. 表示されるダイアログで、該当するホットフォルダ設定ファイル(*.ehf)を選択し、開くをクリックします。

3. ホットフォルダの場所を選択します。
4. まだシステムに存在しないリソースのみ（アクションリスト、PDFプロファイルなど）を保存するには、チェックボックスを選択します。

   チェックボックスがオフになると、すべてのリソースが保存されます。
5. [次へ] をクリックします。
6. すべてのリソースのリストを確認して、[次へ]をクリックします。
7. 必要に応じて、新規のベースフォルダを定義します。
   a. ベースフォルダをリマップチェックボックスを選択します。
   b. 任意のフォルダを選択します。
8. 作成するフォルダのリストをチェックし、取り込みをクリックします。
   新しいホットフォルダが取り込まれ、リストに追加されます。オプションで、チェックボックスを選択すると、新しいホットフォルダを直ぐにホットフォルダエディタで開くことができます。
9. [完了] をクリックします。
10. 任意のプロパティを変更して、**[OK]** をクリックします。構成する個々の設定の詳細については、ホットフォルダの設定 51 ページの を参照してください。

> **注:** ホットフォルダを作成したら、必ず入力フォルダと出力フォルダの確認および変更を行ってください。ホットフォルダの入出力フォルダには、取り込み元と同じフォルダが設定されています。

6.5. ホットフォルダのステータス

ホットフォルダタブのホットフォルダリストでは、先頭のアイコンがホットフォルダの状況を示します。状況には次のようなものがあります。

ステータス	意味
	ホットフォルダは正しく構成され、起動されています。
	ホットフォルダは起動されていますが、正しく構成されていません。ホットフォルダをダブルクリックし、見つからない設定または正しくない設定を確認および修正します。

ステータス	意味
	ホットフォルダは起動されておらず、正しく構成されていません。ホットフォルダをダブルクリックし、見つからない設定または正しくない設定を確認および修正します。
	ホットフォルダは起動されていません。ホットフォルダをダブルクリックし、全般カテゴリで有効化します。

6.6. ホットフォルダの優先度

ホットフォルダタブのホットフォルダリストでは、ホットフォルダの優先度が表示されます。ジョブを処理する順序は優先度によって決定されます。

Enfocus PitStop Server では、ホットフォルダ内にあるジョブのうち、優先度が「高い」に設定されているものから処理が開始されます。優先度が高いジョブの処理が完了すると、ホットフォルダ内で優先度が「普通」に設定されているジョブが次に処理されます。優先度が「高い」または「普通」のすべてのジョブの処理が完了すると、最後に優先度が「低い」に設定されているジョブの処理が開始されます。

ジョブの優先度が同じ場合、処理は送信時刻順に行われます。 つまり、最初に送信されたジョブが最初に処理されます (First In First Out、FIFO 方式)。

7. ホットフォルダの設定

7.1. ホットフォルダの設定

ホットフォルダを設定する手順

1. をクリックして、新規ホットフォルダを作成します。
2. ホットフォルダエディタで、ホットフォルダの名前と説明を全般カテゴリに設定します。
   まだ（ダイアログの下部）ホットフォルダを有効化（アクティブ化）しないでください。ファイルを処理する前に、ホットフォルダを完全に設定する必要があります。
3. 各カテゴリですべてのプロパティを設定します（詳細説明を参照）。
   [要約] カテゴリには、すべての設定とエラーの概要があります。続行する前に、エラーを必ず修正します。エラーのフォルダを保存する場合、感嘆符アイコンが表示され、ファイルの処理を開始できません。ホットフォルダのステータス 49 ページの も参照してください。
4. 準備ができたら、全般カテゴリに戻ります。
   a. ホットフォルダの有効化オプションと該当する優先度を選択します。
   b. [履歴のログ記録] 設定を適切に指定します。ホットフォルダエディタで設定しなかった場合は、グローバル環境設定([ウィンドウ] > [環境設定] > [処理中] - 履歴ログセクション)で定義されたデフォルトのオプションが使用されます。

   注: ホットフォルダでファイルの処理をまだ開始しない場合は、この手順をスキップし、後でホットフォルダを有効化できます。ホットフォルダの有効化 52 ページのを参照してください。

5. **[OK]** をクリックします。

7.2. ホットフォルダのプロパティ：全般

ホットフォルダエディタの [全般] カテゴリでは、ホットフォルダの名前と説明を定義できます。

このカテゴリでは次のことができます。

- ホットフォルダーをアクティベートして、優先レベルを選択(ホットフォルダの有効化)
- 処理されたファイルのログが保持されるかどうかを指定(履歴のログ記録)

注: グローバル環境設定を使用を選択すると、PitStop Serverユーザー環境設定で設定されたオプション(ウィンドウ > 環境設定 > 処理 - 履歴ログセクション)が適用されます。

7.2.1. ホットフォルダの有効化

ホットフォルダを設定しても、PDF 文書の処理はすぐには始まりません。まずは、フォルダを起動または有効化する必要があります。ホットフォルダを起動または有効化する際には、優先度を指定することもできます。 優先度には、「低い」、「普通」、「高い」があります。

注: 一時的にホットフォルダの使用を停止または無効化する場合は、また、ホットフォルダの設定を変更する場合も、ホットフォルダを無効化することをお勧めします。
「ホットフォルダの編集 47 ページの」を参照してください。

ホットフォルダの有効化手順

1. ホットフォルダタブで、有効化するホットフォルダをダブルクリックします。
2. [全般] カテゴリを選択します。
3. ダイアログの下部で、ホットフォルダの有効化を選択し、優先度レベルを選択します。
   優先度の設定はオプションです。選択しない場合は、中優先度に設定されます。

   注: ホットフォルダエディタによってホットフォルダを有効化する代わりに、フォルダを右クリックし、コンテキストメニューから有効化を選択できます。この場合は、優先度レベルを指定する必要がありません。

   - 新しいフォルダの場合、優先度がデフォルトで中に設定されます。
   - 前に有効化したフォルダの場合、前に設定された優先度が記憶され、使用されます。

4. **[OK]** をクリックします。

7.3. ホットフォルダのプロパティ：フォルダ

ホットフォルダエディタのフォルダカテゴリでは、必要なフォルダと元のファイルと処理されたファイル、レポートの移動先を定義できます。

詳細については、*Enfocus PitStop Serverの作業環境の整理* 44 ページのを参照してください。

ベースフォルダと詳細フォルダ構造

フォルダ構造を作成するときには、基本フォルダ構造（成功、エラー、非PDFの3つのフォルダタイプのみ）と、詳細フォルダ構造（警告、修正、および重大または非重大エラーなどのその他識別）を選択できます。

詳細フォルダを定義する場合は、タイプごとに1つのフォルダがあります（ステータス「警告」のファイルは「警告」フォルダに移動されるなど）。詳細フォルダを定義していない場合、出力は次の表のようにルートされます。

- 警告、修正済み、および重大ではない失敗に対しては「成功」出力フォルダが使用される。
- 重大な失敗に対しては「エラー」出力フォルダが使用される。

処理されたファイルのプリフライト結果	詳細フォルダでのルーティング	ベースフォルダでの リルーティング
成功	成功	成功
警告	警告	
修正済み	修正済み	
重大ではないエラー	重大ではないエラー	
エラー	エラー	エラー
重大なエラー	重大なエラー	
PDF 以外	PDF 以外	PDF 以外

7.3.1. フォルダ構造の作成

[基本セットアップの作成] は、ベースフォルダ直下に基本的なフォルダ構造を作成するシンプルなオプションです。ベースフォルダとは、入力フォルダや関連する出力フォルダを作成する場所のルートフォルダを指します。したがってベースフォルダは、関連フォルダのすべて (またはほとんど) をベースフォルダ以下に配置する場合にのみ作成します。

[基本セットアップの作成] オプションは、コンピュータのハードディスクやネットワークドライブ上の既存のフォルダで使用できます。また、[新しいフォルダ] ボタンを使用して新しい物理フォルダを作成することもできます。

注: ハードディスクで完全なフォルダ構造をすでに作成している場合は、基本設定の作成オプションを使用する必要がありません。この場合、詳細/簡易オプションボタン（画面の下）を使用して、詳細または基本フォルダ構造を準備（上述）し、正しいフォルダを割り当てることができます。フォルダ構造の手動編集 54 ページのを参照してください。

フォルダ構造の作成手順

1. ホットフォルダエディタで、[フォルダ] カテゴリに移動します。
2. [基本セットアップの作成] ボタンをクリックします。
3. 該当するラジオボタンを選択します。
   - 詳細フォルダ（プリフライトステータスごとに1つのフォルダ）を定義するには、すべてのサブフォルダを作成を選択します。

- 基本フォルダのみを定義するには（結果、エラー、非PDFのフォルダのみ）、サブフォルダの最小セットを作成を選択します。

4. 次のいずれかを実行します。
   - ベースフォルダとして使用する既存のフォルダに移動します。
   - 新規フォルダを作成する場所に移動し、[新しいフォルダ] をクリックします。新規フォルダが仮の名前で表示されます。この名前を、わかりやすい名前 (「**hot_folder_01**」など) に変更します。
5. 新規または既存のフォルダを選択し、**[OK]** をクリックします。
   フォルダカテゴリのフィールドは自動的に入力されます。フォルダの場所は、基本フォルダと相対的に定義されます。
6. 各フォルダで、該当する場合は必要な変更を行います。
   - 代替名を入力します。デフォルト名「成功時のレポート」を「ReportsOK」などに変更します。
   - ディスクの既存のフォルダを割り当てるには、をクリックして、選択します。
   - ベースフォルダに相対的にする代わりに、サブフォルダを絶対にするには、をクリックし、サブフォルダを絶対パスで指定を選択します。詳細については、絶対パスと相対パスの切り替え 55 ページのを参照してください。
   - パスを削除するには、をクリックします。

   注: [詳細オプション]および[簡易オプション]ボタンでは、詳細設定および基本設定を切り替えることができます。ベースフォルダから詳細フォルダに切り替えると、パスがコピーされ、次のリルートと同じ結果になります。
   - 警告、修正済み、および重大ではない失敗で、「成功」パスがコピーされる。
   - 「エラー」パスが重大な失敗の出力にコピーされる。
7. **[OK]** をクリックします。
8. フォルダが存在しない場合は、作成するかどうかを確認するダイアログがポップアップ表示されます。[はい]をクリックします。
   フォルダ構造が作成されました。

7.3.2. フォルダ構造の手動編集

必要に応じて、フォルダ構造を手動で変更できます。

フォルダ構造の手動編集手順

1. ホットフォルダエディタで、[フォルダ] カテゴリに移動します。
2. 必要な変更を行います。
   - 新しい名前を入力します。必要に応じて、デフォルト名「成功時のレポート」を「ReportsOK」などに変更します。

- ディスクの既存のフォルダを割り当てるには、をクリックして、割り当てるフォルダを選択します。選択したフォルダのパスが表示されます。異なる出力に同じパスを割り当てたりする場合には、フォルダのパスを入力または貼り付けることもできます。
- ベースフォルダに相対的にする代わりに、サブフォルダを絶対にするには、絶対パスと相対パスの切り替え 55 ページのを参照してください。
- パスを削除するには、をクリックします。
- 詳細設定と基本設定を切り替えるには、詳細オプションまたは簡易オプションをクリックします。

注: ベースフォルダから詳細フォルダに切り替えると、パスがコピーされ、次のリルートと同じ結果になります。

- 警告、修正済み、および重大ではない失敗で、「成功」パスがコピーされる。
- 「エラー」パスが重大な失敗の出力にコピーされる。

3. **[OK]** をクリックします。

7.3.3. 絶対パスと相対パスの切り替え

定義するフォルダのパスは、絶対パスと相対パスのどちらでも入力、表示できます。絶対パスはフォルダの完全な場所を示し、ドライブ文字から始まります。相対パスは、ベースフォルダを基点にするフォルダの場所を示します。たとえば、「./input」というパスは、ベースフォルダ内のフォルダ「input」を示します。

相対パスと絶対パスを切り替えるには、[参照] ボタンの横にある ボタンを使用します。

相対パスと絶対パスを切り替えるには、次の手順を行います。

1. すべてのパスを絶対または相対パスに切り替える手順
   a. ベースフォルダの横にある ボタンをクリックします。
   b. 次のいずれかを実行します。
      - すべてのパスを絶対パスに変更するには、すべてのサブフォルダを絶対パスにするを選択します。
      - すべてのパスを相対パスに変更するには、すべてのサブフォルダを相対パスにするを選択します。

   すべてのフォルダの表示が絶対パスまたは相対パスに変更されます。
2. *1* つのパスを絶対または相対パスに変更する手順
   a. 指定したフォルダの横にある ボタンをクリックします。
   b. 次のいずれかを実行します。
      - サブフォルダを絶対パスで指定するを選択します。
      - サブフォルダをベースフォルダの相対パスで指定するを選択します。

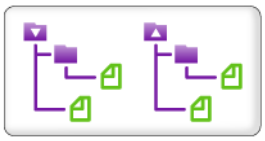
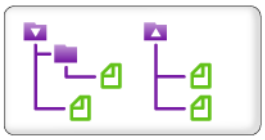
   フォルダのパスが絶対パスまたは相対パスに切り替わります。

7.4. ホットフォルダのプロパティ：処理

ホットフォルダエディタの [プロセス] カテゴリでは、フォルダ処理、レポート生成、出力ファイルの名前変更の各方法を定義できます。このカテゴリの各セクションは後述します。

7.4.1. サブフォルダ処理

入力フォルダには、ファイルを個別に追加する方法の他に、フォルダごとドロップする方法があります。サブフォルダ処理セクション（ホットフォルダエディタの処理カテゴリの上部）のオプションは、これらのサブフォルダを処理する方法を定義します。

オプション	結果	入力と出力
サブフォルダを入力フォルダで処理しない	入力フォルダのルート直下に配置されたファイルだけが処理されます。サブフォルダ以下にあるファイルは無視されます。	
フォルダ構造を維持してサブフォルダを処理する	サブフォルダ内のファイルは処理されます。サブフォルダ構造は入力フォルダから出力フォルダへ引き継がれ、出力ファイルも同名のサブフォルダに格納されます。	
フォルダ構造を解除してサブフォルダを処理する	サブフォルダ内のファイルは処理されます。すべての出力ファイルは出力フォルダのルート直下に格納されます。	
入力フォルダ内の空のサブフォルダを削除する	処理後に空になったサブフォルダが削除されます。	

7.4.2. レポート生成

レポート生成セクションでは、プリフライトレポートの形式（PDF、XML、および/またはJSON）と表示言語を定義できます。

PDF レポート

レポートを生成するときには、ニーズに合ったレポートレイアウトスタイルを選択できます。

3つの注釈付きレポートがあります（最初の3つは次の表を参照）。注釈付きレポートは、オリジナル文書とレポートの組み合わせです。レポート情報はさまざまなメモやブックマークとしてオリジナル文書に統合されているため、Acrobat Readerやブラウザで、Enfocusソフトウェアを使用せずに、簡単にエラーや警告に移動できます。

その他の3つのレポートスタイル（標準、最小、連続）には、オリジナル文書のコピーは含まれません。

レポート スタイル	説明
注釈付きレポート	注釈が付いたレポート。レポートは処理されたPDFのコピーであり、変更と修正に注釈が付きます。
低解像度の注釈付きレポート	低解像度画像を使用した注釈付きレポート。レポートのファイルサイズが小さくなります。
スケーリングされた低解像度の注釈付きレポート(最大 A4)	注釈が付いたレポート。文書全体がスケーリングされ、低解像度です。このレポートのページ サイズは A4 サイズを超えず、画像もより小さなサイズに圧縮されます。 **注:** 電子メールで大きい形式の文書のレポートを送信する場合に有効です。
標準	処理されたPDFを含まないレポート。一般ファイル情報と、修正、失敗、警告、エラーの概要（ある場合）のみが含まれます。
最小	最小情報の標準レポート。
連続	標準レポートのようにトピック間に改ページ（修正と一般ファイルの情報、フォント情報など）を含まない標準レポート。

独自のプリフライトレポートテンプレートを作成した場合は、これも選択できます。レポートテンプレートのカスタマイズの詳細については、enfocus.com（*https://www.enfocus.com/en/support/manuals/pitstop-server-manuals*）のPitStopレポートテンプレートマニュアルを参照してください。

注: PitStop Proとは異なり、PitStop Serverは安全な注釈付きレポートをサポートしません。

XML レポート

XML レポートでは、バージョン 2（**v2**）およびバージョン 3（**v3**）を選択できます。

XML レポート用に使用されるスキーマはXMLのバージョンで定義されます。v2レポートは以前のバージョンのPitStop（PitStop 10.1）に対応していますが、v3レポート（PitStop 2018以降に対応）はより使いやすく、より簡単に処理できるようになっています。バージョンは異なりますが、同じ情報が含まれています。

カテゴリごとのアイテム数やアイテムごとのオブジェクト数をトランケートすることもできます。その結果として不完全なレポートが生成されることがありますが、サイズの制限を課すことができます。

注: [カテゴリごとの最大レポート アイテム数]をxに設定すると、カテゴリごとにx件の警告と（該当する場合は）リストが不完全であるというメッセージが表示されます。[ア

イテムごとの最大レポート オブジェクト数]についても同じです。デフォルト値は100です。

JSON レポート

PitStop 2023でJSONレポートが導入されました。XML レポートの場合と同様に、カテゴリーごとのアイテム数やアイテムごとのオブジェクト数をトランケートして、レポートサイズに制限をかけることができます。

注**:** [カテゴリごとの最大レポート アイテム数]をxに設定すると、カテゴリごとにx件の警告と（該当する場合は）リストが不完全であるというメッセージが表示されます。[アイテムごとの最大レポート オブジェクト数]についても同じです。デフォルト値は100です。

言語

また、レポートの作成言語も定義できます。この設定は、PDF レポート、XML レポート、および/または JSON レポートの言語、およびジョブの E メール通知を指定します。

PitStop Server環境設定で定義された既定の言語を使用するには、既定の言語を選択します。

7.4.3. 保存時の最適化

[保存時の最適化] セクションでは、出力ファイルの最適化に役立つ設定を行うことができます。次の 3 つのオプションを選択できます。

1. [ファイルサイズと **Web** ダウンロードを最適化]

   このラジオボタンを選択すると、出力ファイルが最適化されたファイルサイズが小さくなります。さらに、PDF 内のオブジェクトが並べ替えられ、PDF の表示速度が速くなります。ファイル内の重複したオブジェクトを結合してファイルがリニア化されるため、Web プレビューの表示速度が速くなります。ただし、ファイル品質は変わりません。

   たとえば、PDF ファイルの 1 ページ目がその他の部分が読み込まれる (またはダウンロードされる) 前に表示されます。この場合、[ファイルサイズのみを最適化] を使用した場合よりもファイルが若干大きくなります。

2. [ファイルサイズのみを最適化]

   このラジオボタンを選択すると、出力ファイルが最適化されたファイルサイズが小さくなります。ファイル内の重複したオブジェクトを結合してファイルサイズが縮小されます。ただし、ファイル品質は変わりません。

3. [最適化された保存内容を無効化]

   このラジオボタンを選択すると、出力ファイルは最適化されません。最適化は一切実行されず、ファイル品質は変わりません。

7.4.4. ファイル名

ファイル名セクションでは、出力ファイルの名前を設定できます。

デフォルトでは、ファイルの名前変更は「%Current Document Name%」に設定されており、出力ファイルには元の入力ファイルと同じ名前が付けられます。ただし、「%User Company %」、「%User Name%」、「%Date%」などの変数を使用して、別の出力名を設定できます。変数を選択すると、変数の使用ダイアログの下に、「現在の値」が表示されます。

また、テキストを入力して、レポートファイルの名前に「_log」などの文字列を追加するか、変数と固定値を1つのファイル名で組み合わせることもできます。

次の表では、使用可能な変数の概要を示します。

変数	意味	例
%User Company%	パーソナル情報で定義される会社名([ウィンドウ] >]環境設定] > [パーソナル情報]を参照)	Enfocus
%Current Doc Name%	入力ファイルのファイル名	examplefile.pdf
%User Name%	パーソナル情報で定義される会社名([ウィンドウ] >]環境設定] > [パーソナル情報]を参照)	ユーザ
%Time%	現在時刻 (時分秒単位)	08_43_28
%Unique ID	固有の連続する ID 番号	45
%Date%	現在の日付	2007-06-18
%Document Status%	文書の現在のプリフライト状況	NOK (Not OK)
%Subfolder Name%	サブフォルダの名前	
%Hot Folder Name%	ホットフォルダの名前	

7.5. ホットフォルダのプロパティ：分割処理

ホットフォルダエディタの分割処理カテゴリで、分割処理の透明度の設定を選択できます。

7.5.1. 透過効果の分割について

透過効果の分割は、PDF 文書の透明オブジェクトを複数の不透明オブジェクトに変換する処理です。変換されたオブジェクトは、一部ベクトル画像であり、一部ラスター画像（ピクセル画像）です。

使用方法

印刷機で PDF 文書を印刷するときに、PDF 文書はまずラスター画像プロセッサで処理されます。一部のラスター画像プロセッサは透明オブジェクトを正しく処理しません。問題を回避するために、ラスター画像プロセッサに送信する前に、これらのオブジェクトを分割できます。

プロセス

1. PitStop Server は Adobe 分割処理エンジンを使用して文書を分割し、分割処理カテゴリのオプションを考慮します。
2. 設定すると、PitStop Server は一部の追加処理を実行します。
   - ICC プロファイルを削除。
   - 画像を再圧縮。

7.5.2. 透過効果の分割の設定

PitStop Serverで透過分割をグローバルに設定できません。ホットフォルダごとに設定する必要があります。

透過分割を設定する手順

1. ホットフォルダのカラーマネージメントが有効なことを確認します。

   カラー マネージメントは、次の2つの手順を実行して有効にすることができます。

   - PitStop Server（[ウィンドウ] > [環境設定] > カラーマネージメント）。
   - この特定のホットフォルダのグローバルオプションを上書き（**PitStop Server** ホットフォルダエディタ > カラーマネージメント）
2. **PitStop Server** ホットフォルダ エディタで [分割処理] カテゴリを選択します。
3. 透過効果を分割処理オプションを有効にし、必要な他のオプションを設定します。

7.5.3. 分割処理 カテゴリ: オプション

オプション	説明
透過効果をフラット化	有効: PDF 文書内の透明オブジェクトが分割されます。
ラスター/ベクトルバランス	分割時、透明オブジェクトは、一部不透明ベクトル画像に、一部不透明ラスター画像（ピクセル画像）に変換されます。 可能な値: • **100**: ほとんど（またはすべての）透明オブジェクトが不透明ベクトル画像に変換されます。 • **0**: すべての（不透明を含む）オブジェクトが不透明ラスター画像に変換されます。 • その他の値：その中間。

オプション	説明
	注: グラデーションオブジェクトは常にラスター画像に変換されます。
ラインアートとテキストの解像度	透明ラインアートとテキストを不透明ラスター画像に変換するときの解像度。
グラデーションとメッシュの解像度	透明グラデーションとメッシュを不透明ラスター画像に変換するときの解像度。
すべてのテキストをアウトラインに変換	有効: 分割前に、PDF 文書のすべてのテキストがアウトラインに変換されます。 このオプションを有効にすると、次の間の差異を回避できます。 • 分割時に変換される透明テキスト。 • 分割時に保持される不透明テキスト。 注: [ラスター／ベクトルバランス]が0 %のときには使用できません。
すべてのストロークをアウトラインに変換	有効: 分割前に、PDF 文書のすべてのストロークがアウトラインに変換されます。 このオプションを有効にすると、次の間の差異を回避できます。 • 分割時に変換される透明ストローク。 • 分割時に保持される不透明ストローク。 注: [ラスター／ベクトルバランス]が0 %のときには使用できません。
複合領域をクリップ	有効：分割後、クリップパスが、不透明ラスター画像に変換されるオブジェクトに配置されます。 このオプションを有効にすると、次の間の差異を低減できます。 • 不透明ベクトル画像に変換される透明オブジェクトのパーツ。 • 不透明ラスター画像に変換されるオブジェクトのその他のパーツ。 注: [ラスター／ベクトルバランス]が0または100 %のときには使用できません。
オーバープリントを保持	有効：分割時、透明アートワークの色を背景色とブレンドし、オーバープリント効果を作成します。 ラスター画像プロセッサがオーバープリントを正しく処理しないときにこのオプションを有効にします。

オプション	説明
	注: [ラスター／ベクトルバランス]が0 %のときには使用できません。
ページレベル透明ブレンドカラースペース	ファイルのブレンドカラースペースを、カラーマネージメント設定 (なしを選択) またはリストから選んだ特定のカラースペースで上書きする場合は、このチェックボックスを有効にします。 無効: • ページにブレンドカラースペースがある場合は、このカラースペースが使われます。 • ページにブレンドカラースペースがない場合、カラーマネージメント設定で設定された ICC プロファイルが使われます。 有効: • なしを選ぶと、カラーマネージメント設定が使われます。 • リストから特定のカラースペースを選ぶと、中間ブレンドカラースペースとして使われます。 注: オブジェクトのカラースペースが出力デバイスのカラースペースに変換される前に、中間ブレンドカラースペースに変換されます。ここで選択したオプションで中間カラースペースが決まります。透明分割処理時の色の計算にのみ使われます。 この表の下の「Adobe Acrobat と PitStop Server の分割処理」も参照してください。

分割処理後に**ICC**プロファイルを削除	有効: 分割後、PDF 文書内のすべてのオブジェクトのICC プロファイルが削除されます。
	分割時、Adobe 分割エンジンは次の処理を実行します。
	• 不透明オブジェクトを現状通り保持します。つまり、次の作業が可能です。
	  • オブジェクトにICCプロファイルが割り当てられていない場合は、現状通り保持します。
	  • オブジェクトにICCプロファイルが割り当てられている場合は、現状通り保持します。
	• 透過オブジェクト変換します。
	  • オブジェクトにICCプロファイルが割り当てられていない場合は、1 つ割り当てます。
	  • オブジェクトにICCプロファイルが割り当てられている場合は、割り当てを保持します。
	このオプションを有効にすると、次の間の差異を回避できます。

オプション	説明
	• 変換され、ICC プロファイルが割り当てられる透明パーツ。 • 保持され、ICC プロファイルが割り当てられていない可能性のある不透明パーツ。
画像の再圧縮	有効：分割後、PDF文書のすべての画像（Adobe 分割エンジンで作成された画像以外も含む）が指定したオプションで再圧縮されます。 注: **ASCII** フィルタオプション:以前は、E メールまたはインターネット経由で PDF ファイルを確実に転送するのに ASCII エンコードが必要でした。しかし、現在のほとんどのE メール ソフトウェアは標準で非 ASCII 文書を処理できるため、文書に ASCII エンコードを使用する必要性はなくなっています。ASCII エンコードを使用すると、ファイル サイズが非常に大きくなることがあります。

Adobe Acrobat と ***PitStop Server*** の分割処理

Adobe Acrobat を使って画像を分割処理することもできます。分割処理オプションは印刷プロダクションツールパネル (分割処理のプレビューオプション) にあります。

以下のオプションは PitStop Server と Adobe Acrobat の両方にあります。

- 透過効果をフラット化
- ラスター/ベクトルバランス
- ラインアートとテキストの解像度
- グラデーションとメッシュの解像度
- すべてのテキストをアウトラインに変換
- すべてのストロークをアウトラインに変換
- 複合領域をクリップ
- オーバープリントを保持

Adobe Acrobat の設定と類似する PitStop Server の設定がもう1つあります。ページレベル透明ブレンドカラースペースです。下の表では両設定とその機能を比較しています。

PitStop Server のページレベル透明ブレンドカラースペース	**Acrobat** のページレベル透明ブレンドカラースペース
有効にも無効にもできます。無効にすると、そのページのブレンドカラースペースが使われます (上を参照)。	常に有効です。そのページのブレンドカラースペースを使いたい場合は、ドロップダウンから選択する必要があります。
なしに設定すると、CMM 設定が使われます。それ以外の場合は選んだカラースペースが使われます。	なしに設定すると、CMM 設定が使われます。それ以外の場合は選んだカラースペースが使われます。
DeviceCMYK に設定すると、DeviceCMYK 出力が作成されます。	DeviceCMYK に設定すると、CMM 設定が使われます。つまり、Acrobat では DeviceCMYK 出力を作成できないことになります。

PitStop Server のページレベル透明ブレンドカラースペース	**Acrobat** のページレベル透明ブレンドカラースペース
特定のカラースペースを選択した場合、このカラースペースは透明分割処理時の色の計算にのみ使われます。 たとえば、ページに透明な部分がなければリストから値を選んでもページに影響はありません。	特定のカラースペースを選択した場合、このカラースペースはそのページのブレンドスペースに即座に使われます。 たとえば、ページに透明な部分がなくてもAcrobat のドロップダウンを変更すればページが変更されます。

7.6. ホットフォルダプロパティ：アクションリストとプリフライトプロファイル

ホットフォルダエディタのアクションリストとプリフライトプロファイルカテゴリでは、プリフライトで使用するアクションリストとプリフライトプロファイルを選択できます。

アクションリストとプリフライトプロファイルは、プリフライト プロセスの「燃料」とも呼べる存在です。詳細な概要については、*PDF 文書のプリフライトとチェック* 94 ページのとアクションリストの使用 88 ページのを参照してください。

注: ホットフォルダエディタを使用すると、該当するアクションリストとプリフライトプロファイルの割り当てのみ可能です。変更、新しいアクションリストまたはプリフライトプロファイルの作成、内容の表示などを行う場合は、PitStop Server ウィンドウメニュー(ウィンドウ > アクションリストおよびウィンドウ > プリフライト)を開く必要があります。

7.6.1. 1 つ以上のアクションリストをホット フォルダに追加する

このトピックでは、個別のファイルとして1つ以上のアクションリストをホットフォルダに追加する（プリフライトプロファイルには埋め込まれない）方法について説明します。

注: ホットフォルダにアクションリスト（「チェック」アクション）とプリフライトプロファイルがある場合は、このプリフライトプロファイルに基づいて、処理された文書を認証できません。アクションリストからのチェックとプリフライトレポートからのチェックを識別できないため、認証はできません。この設定では次のようになります。

- PitStop Serverの[履歴]タブを確認すると、この文書のプリフライトステータスが「エラー」になります。
- この文書のCertified PDFステータスを確認すると、ステータスが「未定義」（グレイアイコン）になります。「*PDF 文書の Certified PDF 状況の確認* 147 ページの」を参照してください。

アクションリストをプリフライトプロファイルに埋め込むことを推奨します。これにより、PDF文書をプロファイルでプリフライトし、ステータスを決定することができます。

1 つ以上のアクションリストをホット フォルダに追加する手順

1. ホットフォルダ エディタで、[アクションリストとプリフライトプロファイル] カテゴリを選択します。
2. 選択したアクションリスト領域のしたで、 をクリックします。
3. データベースから 65 ページの または ファイルから 66 ページの のいずれかから、追加する 1 つ以上のアクションリストを選択します。

   Shift または Ctrl キー (Windows の場合)、あるいは apple キー (Mac の場合) を押しながら選択すると、複数のアクションリストをまとめて選択できます。
4. **[OK]** をクリックします。
   選択したアクションリストが [選択したアクションリスト] リストの一番下に追加されます。必要に応じてアクションリストの順番を変更します。アクションリストを選択し、上に移動 または下に移動 ボタンをクリックします。

   アクションリストは、リストに表示される順番でPDF上で実行されます。アクションリストの一番上にあるが最初に開始されます。他の順序では、異なる結果が生じるため、この順序が正しいことを確認することが重要です。

7.6.2. プリフライトプロファイルをホットフォルダに追加する

プリフライトプロファイルをホットフォルダに追加する手順

1. ホットフォルダ エディタで、[アクションリストとプリフライトプロファイル] カテゴリを選択します。
2. 選択したプリフライトプロファイル領域の下で、 をクリックします。
3. データベースから 65 ページの または ファイルから 66 ページの のいずれかから、追加するプリフライトプロファイルを選択します。
4. **[OK]** をクリックします。
   プリフライトプロファイルの名前および説明が表示されます。

7.6.3. アクションリストとプリフライトプロファイルの参照先

ホットフォルダに追加するアクションリストやプリフライトプロファイルは、次の場所で見つけられます。

7.6.3.1. データベースから

アクションリストまたはプリフライトプロファイルを選択するときのオプションの1つは、「データベースから」です。これは、Enfocus PitStop Server と共にコンピュータのハードディスクにインストールされるプリセットデータベースを参照します。これらのデータベースには次のものがあります。

- 標準データベースの定義済みアクションリスト/プリフライトプロファイル。これらはアプリケーションとともにインストールされ、コンピュータのすべてのユーザーが使用できます。標準データベースおよびその内容は変更できません。

- ローカルデータベースのユーザーが作成したアクションリスト/プリフライトプロファイル。ローカルデータベースレベルへは、現在のユーザのみがアクセスできます。内容は変更できません。

注: プリセットデータベースには、Enfocus PitStop ProまたはEnfocus Connectなどの他のEnfocus製品によって作成または更新されたアクションリスト/プリフライトプロファイルも含まれます。追加のフォルダはPitStop Pro環境設定（プリセットデータベースカテゴリ）を使用して追加できます。

7.6.3.2. ファイルから

アクションリストとプリフライトプロファイルをホットフォルダに追加するときには、コンピュータのハードディスクまたはネットワークドライブに保存されているアクションリストまたはプリフライトプロファイルを使用できます。たとえば、誰かがアクションリストまたはプリフライトプロファイルを電子メールで送信した場合です。アクションリストのデフォルトの拡張子は *.eal です。プリフライトプロファイルのデフォルトの拡張子は *.ppp です。

[閲覧] ボタンを使用すると、使用するアクション リストまたはプリフライトプロファイルを選択できます。

7.6.3.3. Enfocus アクションリストライブラリ

アクションリストは、Enfocus Web サイトの Enfocus アクションリストライブラリページ (*http://www.enfocus.com/en/support/downloads/pitstop-action-lists*)。

Enfocus PitStop Serverからこのページにアクセスすることもできます: [ヘルプ] > [オンラインリソース] > [アクションリストライブラリ]。

次の手順に従います。

1. アクションリストまたは Enfocus アクションリストライブラリの全てのアクションリストを選択してアーカイブファイルをダウンロードします。
2. アーカイブファイルのアクションリストをファイルに抽出または展開します。
3. ホットフォルダエディタのアクションリストとプリフライトプロファイルカテゴリに戻り、ファイルからオプションを使用して該当するアクションリストを選択します。

7.6.3.4. Enfocus プリフライトプロファイル ライブラリ

プリフライトプロファイルは、Enfocus Web サイトの Enfocus プリフライトプロファイルライブラリページ (*http://www.enfocus.com/en/support/downloads/pitstop-preflight-profiles*) で検索できます。

Enfocus PitStop Serverからこのページにアクセスすることもできます: [ヘルプ] > [オンラインリソース] > [プリフライトプロファイルライブラリ]。

次の手順に従います。

1. プリフライトプロファイルまたは Enfocusプロファイル ライブラリ全体を選択してアーカイブ ファイルをダウンロードします。
2. アーカイブファイルのプリフライトプロファイルをファイルに抽出または展開します。
3. ホットフォルダエディタのアクションリストとプリフライトプロファイルカテゴリに戻り、ファイルからオプションを使用して該当するプリフライトプロファイルを選択します。

7.7. ホットフォルダ プロパティ：スマートプリフライト

ホットフォルダエディタのスマートプリフライトカテゴリでは、必要に応じてスマートプリフライトオプションを有効にします。

スマートプリフライトは、1つのプリフライトプロファイルだけを使用して、多くの異なるジョブタイプと仕様を処理できる機能です。これは、ジョブチケットから取得される「変数」、固定値ではなく動的変数を使用することで可能になります。

詳細については、スマートプリフライトの章を参照してください。この章には、スマートプリフライトの設定方法があります（該当する変数を使用した変数セットの作成、プリフライトプロファイルでの該当するチェックへの変数の適用など）。

また、PitStop Serverで有効化された変数とともにプリフライトプロファイルを使用するには、次の手順が必要です。

- 正しい変数セットを選択します（選択したプリフライトプロファイルで使用される変数がこの変数セットに含まれることを確認）
- スマート変数の値を提供するジョブチケットであるファイルを指定します。

7.7.1. 変数セットの適用

スマートプリフライトを使用するには、ホットフォルダエディタのアクションリストとプリフライトプロファイルカテゴリで選択されたプリフライトプロファイルまたはアクションリストで使用される変数を含む変数セットを適用する必要があります。変数セットがプリフライトプロファイルまたはアクションリストで使用されているものと一致しない場合は、ワークフローはアクティブ化されません。

変数セットを適用するには

1. PitStop Serverで、ホットフォルダエディタを開きます。
2. スマートプリフライトを選択します。
3. をクリックし、適用する変数セットを選択します。

4. **[OK]** をクリックします。

7.7.2. ジョブチケットの使用を有効にする

変数値がジョブチケットから取得される場合は、ホットフォルダ設定で名前を定義してください。

PitStop Serverでジョブチケットの使用を有効化するには

1. PitStop Serverで、ホットフォルダエディタを開きます。
2. スマートプリフライトを選択します。
3. ジョブチケットファイル照合の下で、該当する選択をします。
   - ジョブチケットを使用チェックボックスを選択し、関連付けられたジョブチケットファイルの名前を入力するか、変数を使用してファイル名パターンを定義します。ソース PDF ファイル名の複製およびファイル拡張子用の 2 つの変数を挿入できます。ホットフォルダはPDFファイルと一致するジョブチケットXML/JDFファイルという組み合わせで受信ファイルを処理します。両方の必要なファイルのいずれかが入力フォルダに到達している限り、PitStop Serverはもう一方のファイルを待機します。
   - タイムアウトチェックボックスを選択し、孤立した文書またはジョブチケットを拒否する前にPitStop Serverが待機する時間を指定します。孤立したファイルの移動先を決定します。フォルダが指定されていない場合は、ファイル（孤立した元のドキュメントとジョブチケット）が削除されます。
   - ジョブチケットの転送リストから該当するオプションを選択し、処理後にジョブチケットで実行する処理を指定します。ホットフォルダ設定（レポート、オリジナル、処理済み文書）のフォルダのいずれかに移動するか、削除できます。
4. **[OK]** をクリックします。

7.8. ホットフォルダ プロパティ: Certified PDF

ホットフォルダエディタの **[Certified PDF]** カテゴリでは、追加された Certified PDF 文書の処理方法を定義できます。

Enfocus Certified PDF ワークフローの詳細については、*Certified PDF 文書の操作* 141 ページの を参照してください。

7.8.1. 投入された の **Certified PDF** 状況の変更

ホットフォルダの入力フォルダに追加される PDF 文書は、Certified PDF 文書であったり通常の文書であったりします。Enfocus PitStop Server では、Enfocus Certified 状況を変更することができます。状況を変更するには、ホットフォルダの入力フォルダに文書が追加された場合に PDF 文書に対して即座に実行するアクションを設定します。

- 文書状況を変更しない
- ホットフォルダのプリフライトプロファイルを使用して文書を **Certified PDF** にする
- 文書状況を非 **Certified PDF** に設定する

注: 入力文書の Enfocus Certified 状況をホットフォルダで変更するように設定すると、以下のような処理を実際に PDF 文書に実行する前に状況が変更されます。

- アクションリストの実行を開始する
- 文書をプリフライトプロファイルに照合する

次の表は、選択されたオプションに従い、受信PDFへの効果の概要と、受信ファイルのCertified PDFステータスを示します。

選択 オプション	受信 **Certified PDF**以外	受信 **Certified PDF**
文書状況を変更しない	そのPDF 文書は未承認のままになります。	PDFは承認され、埋め込まれたプロファイルを保持します。
ホットフォルダのプリフライトプロファイルを使用して文書を Certified PDF にする	PDFは、ホットフォルダで定義されたプリフライトプロファイルを使用して承認されます。	[入力文書が既に **Certified PDF** の場合、オリジナルの **Certified** プリフライトプロファイルを維持する]オプション（以下の領域）が選択されている場合を除き、PDFはホットフォルダで定義されたプリフライトプロファイルを使用して承認されます。
文書状況を非 Certified PDF に設定します。	そのPDF 文書は未承認のままになります。	そのPDF 文書は承認されません。

7.8.2. Certified オプション

Certified PDF 文書では、ロールバックシステムを使用してセッションコメントを追加できます。これは、オプションの [ホットフォルダ プリフライトプロファイルを使用して文書を **Certified PDF** にする] の使用時、および [文書の状況を変更しない] の使用時に追加された Certified PDF 文書に限られます。

7.8.2.1. 以前のバージョンへのロールバックの許可

Certified PDF ワークフローには、強固なロールバックメカニズムが用意されています。これにより、ユーザは物理的には 1 つの PDF ファイルのみを管理しながら、Certified PDF ワークフローの前の段階に戻ったり、PDF 文書の別バージョン同士を比較したりすることができます。

ロールバック機能を利用しない場合は、**[Certified PDF** 保存を完全に実行] の実行 **(**以前のセッションにロールバックできません**)** をオンにします。前のバージョンのPDFには戻せません。ただし、これによってファイルサイズが小さくなり、サイズが問題の場合には推奨されます。

注**:** このオプションはCertified文書のみに適用可能です。[文書を通常の **PDF** にする] の使用時には使用できません。

7.9. ホットフォルダ プロパティ：カラーマネージメント

ホットフォルダエディタのカラーマネージメントカテゴリでは、PitStop Server環境設定(ウィンドウ > 環境設定 > カラーマネージメント)のグローバルカラー設定を上書きする代替カラーマネージメント設定を設定できます。

特定のホットフォルダに *ICC* プロファイルを使用する 164 ページのを参照してください。

詳細情報はカラーの管理 158 ページのにあります。

7.10. ホットフォルダのプロパティ：フォント

フォントフォルダ
ホットフォルダエディタのフォントカテゴリで、選択したホットフォルダのフォント設定を管理できます。

- システムフォントを使用する場合、[システムフォントの使用]チェックボックスを有効にします。
- 適用可能な場合は、（[追加]ボタンをクリックし）使用する追加のフォントフォルダを選択します。

Enfocus PitStop Server用の汎用フォントフォルダは、*PitStop Server* 環境設定で設定します。フォントは、最初にシステムフォント、次に汎用フォントフォルダ、最後にホットフォルダ固有のフォントフォルダの順に検索されます。

ライセンス制限

フォントライセンス制限により、アウトラインに変換などのフォント操作を行うことができない場合があります。この場合、ホットフォルダの設定に関わらず、PitStop Server は変換を行いません。

ただし、フォント提供者と契約している場合やライセンス条件を確認している場合には、希望する操作が許可されていることを確認してください。この場合、フォントライセンス制限に合意 チェックボックスをオンにして、フォントライセンス制限を無効にしてください。ダイアログが表示されます。よくお読みいただき、ご同意のうえ、**[Yes]**をクリックしてください。フォントライセンス制限を遵守する責任があります。

[一般フォント環境設定の編集] ボタンは、[環境設定] のフォント設定へのショートカットとして使用できます。

関連項目:

- フォントの管理 149 ページの
- *Enfocus PitStop Server環境設定* 80 ページの

7.11. ホットフォルダプロパティ：電子メール通知

ホットフォルダエディタの電子メール通知カテゴリでは、処理された文書の電子メール通知を設定できます。

Enfocus PitStop ServerはバックグラウンドでPDFを処理するため、Enfocus PitStop Serverが動作していることを通知しないこともできます。ユーザは、必要に応じてプロセスの進行状況のフィードバックを取得できます。フィードバックは電子メールメッセージとして受け取れます。

後述のとおり、メールを送信するタイミング、送信先、実際の内容を設定できます。

7.11.1. Eメール通知の設定

Eメール通知の設定手順

1. ホットフォルダエディタ を開きます。
2. [電子メール通知] カテゴリを表示します。
3. 電子メール メッセージを送信する状況を 1 つ以上選択します。例：
   - 文書が正常に処理された場合
   - 文書で警告、修正、重大、非重大の失敗、またはエラー（必要な場合）が生成された場合
   - 処理された文書が PDF ファイルでない場合
   - 文書のタイムアウトがあった場合

   注: ジョブごとに1つの電子メールだけが送信されます。

4. 送信するメッセージを設定します。

   たとえば、プリフライトレポートまたはPDFファイル自体を電子メールに追加することも可能です。変数またはフリーテキストを使用して、添付ファイルのサイズを制限し、メールサーバーで通知がブロックされないようにできます。

   注: 電子メールの言語は、**PitStop Server** ホットフォルダエディタの [プロセス（**Processing**）] > [レポート生成（**Report Generation**）] セクションの言語設定に依存します。

5. 通知先の電子メールアドレスを入力します。

   セミコロンを使用して、複数のアドレスを区切ります。

ヒント: 自分自身の電子メール アドレスをまず入力し、[テスト通知の送信] をクリックすると、電子メール通知が適切に送信されるか確認できます。問題がある場合は、電子メールの環境設定を編集ボタンをクリックし、*PitStop Server 環境設定*を再確認します。

6. **[OK]** をクリックします。

7.12. ホットフォルダのプロパティ：要約

ホットフォルダエディタの [概要] には、ホットフォルダの構成に含まれるすべての注意とエラーの概要が表示されます。重大なメッセージは、ホットフォルダエディタの左下隅にあるホットフォルダの状況行にも表示されます。

8. PitStop Server の実行中ジョブ

入力フォルダにファイルをドロップすると、そのファイルはホットフォルダに送信されて処理されます。

ファイルが追加されたかどうかは、[環境設定] の [処理中] カテゴリのオプション、[時間間隔] に設定されている間隔でチェックされます。デフォルトでは、入力フォルダは 10 秒間隔でチェックされます。

フォルダをドロップしたり手動で作成したりして入力フォルダにサブフォルダを作成した場合、追加されたサブフォルダはホットフォルダ エディタの [処理中] カテゴリで定義されている設定に基づいて処理されます。「サブフォルダ処理 56 ページの」を参照してください。

9. 実行中ジョブの監視

[ホットフォルダ] タブでは、特定のホットフォルダにある待機中のジョブ数を確認できます。ジョブを個別に監視する場合は、[進行状況] タブを使用します。

PitStop Server の [進行状況] タブでは、すべての実行中ジョブを監視できます。各ジョブの表示項目は次の通りです。

- ジョブの名前。これは入力ファイルの名前になります。
- ジョブを処理しているホットフォルダ
- 現在のステップ
- ステップの進行状況
- 補足情報

9.1. 実行中ジョブを並べ替える

リスト上のアクティブジョブは並べ替える手順

1. PitStop Server の [進行状況] タブに移動します。
2. アクティブジョブを並べ替える項目のコラムヘッダをクリックします。
3. 昇順または降順に変更するには、同じヘッダをもう一度クリックします。

9.2. すべての実行中ジョブを一時停止する

すべての実行中ジョブを一時停止する手順

1. PitStop Server の [進行状況] タブに移動します。
2. ボタンをクリックして、すべてのジョブを一時停止します。

9.3. すべてのアクティブジョブを再開する

すべての実行中ジョブを再開する手順

1. PitStop Server の [進行状況] タブに移動します。
2. ボタンをクリックして、すべてのジョブの処理を再開します。

9.4. 実行中ジョブのキャンセル

アクティブなジョブをキャンセルする手順

1. PitStop Server の [進行状況] タブに移動します。
2. 実行中ジョブを 1 つ以上選択します。
3. ボタンをクリックして、選択したジョブをキャンセルします。

10. 完了したジョブの [履歴] タブでの表示

ジョブが完了したら、ジョブが履歴タブに表示されます。

注: これは、ホットフォルダの履歴のログ記録が有効な場合にのみ適用されます。ホットフォルダのプロパティ：全般 51 ページのを参照してください。

PitStop Server の [履歴] タブには、完了したすべてのジョブの概要が表示されます。 これには、出力ジョブ名、ホットフォルダ名、日付、プリフライト状況、および発生した特殊なイベントなどが含まれます。

PitStop Server の [履歴] タブ 32 ページのを参照してください。

10.1. 履歴リストの管理

リスト上部のフィルタを使用すると、日付、ファイル名、プリフライト状況などを定義して表示するジョブを絞り込むことができます。これを活用すると、特定の顧客/ホットフォルダのジョブだけを表示したり、エラーが発生したジョブだけを確認したりできます。

また、コラムヘッダをクリックすると、クリックしたコラムでリストを並べ替えられます。

新しい列を追加するには、ウィンドウ > 列の選択をクリックし、目的の列を選択します。

10.1.1. 履歴のフィルタリング

リストに表示されているジョブには、ドロップダウンリストを使用してフィルタを適用できます。選択したフィルタの種類によっては、ドロップダウンリストや入力フィールドが追加表示されます。

フィルタ	パラメータ（ドロップダウン/入力フィールド）	表示されるジョブ
フィルタなし		すべてのジョブ
過去のファイル数	(入力フィールド = n)	過去 n 件のジョブ
次の期間内に処理された	日数/時間数/分数/秒数 (入力フィールド = n)	過去 n 日/時間/分/秒の間に実行されたジョブ。
処理完了	前/後 (入力 = 日付yyyy/mm/dd hh:mm:ss)	入力した時刻よりも前または後に完了したジョブ。

フィルタ	パラメータ（ドロップダウン/入力フィールド）	表示されるジョブ
出力ジョブ名	次で始まる/次を含む (入力 = 文字列)	入力ファイル名が指定した文字列で始まるか、その文字列を含むジョブ。
ホットフォルダ名	次で始まる/次を含む (入力 = 文字列)	出力ファイル名が指定した文字列で始まるか、その文字列を含むジョブ。
PitStop Server CLI ID	(入力 = n = PitStop Serverにジョブを送信したCLIの処理ID、4012や98765など)	PitStop Serverのコマンドラインインターフェイスを使用して処理されたジョブ。IDが入力されない場合、すべてのラッシュジョブが表示されます。特定のIDを入力すると、特定のCLIで送信されたすべてのラッシュジョブが表示されます。
プリフライト状況	最高/最低/重要度レベルのみ=特定のプリフライト状況	プリフライト結果でソートされたジョブ。プリフライト中に検出された問題のタイプ（警告、エラーなど）。 例えば、「重要度レベルが成功」は、エラーまたは警告なく処理されたジョブを表示します。「最高重要度レベルが警告」は、警告またはエラーで処理されたジョブを表示します。
特殊なイベントなし	-	特殊なイベントがないジョブ。正常に処理されたジョブなど。
特殊なイベントあり	-	何らかの理由で処理が失敗したジョブ。受信PDFファイルが破損しているなど。

10.1.2. リストからジョブを削除する

リストからジョブを削除する手順

1. [履歴] タブに移動します。
2. 削除するジョブを選択します。
3. ボタンをクリックします。

10.2. 履歴の書き出し

履歴タブの情報は、テキストファイルに書き出してアーカイブしたり統計に活用したりできます。ファイルの書き出し時には詳細情報を含めるかどうかを指定でき、形式はタブ区切りテキスト (TXT) と XML から選択できます。

履歴の情報を書き出す手順

1. [履歴]タブに移動します。
2. 履歴を書き出すジョブを選択します。
3. [履歴書き出し] ボタン をクリックします。
4. 書き出しするファイルタイプを選択します。
   - XML として書き出し
   - TXT として書き出し
5. 表示されたダイアログボックスで、ファイルの名前と場所を定義します。
6. **[OK]** をクリックします。

10.3. 統計の表示

統計からは、ホットフォルダごとに処理されたファイル数、処理時間、ジョブごとの平均ページ数などをチェックできます。

統計の表示手順

1. [履歴] タブに移動します。
2. ボタンをクリックします。
   ダイアログボックスが開き、ホットフォルダごとのファイル数、処理時間、ジョブごとのページ数および合計に関する統計が表示されます。この統計は、選択されたフィルタを考慮に入れて出されるものです。

10.4. 特殊なイベントのログ

このログを表示するには、 ボタンをクリックします。 特殊なイベントのログには、何らかの理由で処理できなかったジョブがすべて表示されます。たとえば、入力文書の PDF ファイルが破損していて処理できなかった場合、そのジョブはこのログに記録されます。特殊なイベントのログには、Server 自体のコンポーネントが不足している場合や、Enfocus PitStop Server のアクセス権限が変更されてフォルダにアクセスできない場合など、ジョブに関連しないエラーも表示されます。

特殊なイベントのログは、ワークフローから外されて特殊フォルダに移されるような、(*PitStop Server の設定*の設定のとおり) 隔離されるファイルに関しても報告します。LibProcessor (実際に PDF ファイルを処理する PitStop Server プロセス) がクラッシュしたり、結果ファイルの出力フォルダへの移動に失敗したりすると発生します。

11. Enfocus PitStop Server環境設定

PitStop Server環境設定は複数のカテゴリにグループ化されます。次の表では、異なるカテゴリの概要を示し、含まれる環境設定のタイプを説明します。

注: 環境設定は、PitStop Server Watchdogの実行中にのみ変更できます。

カテゴリ	関連項目...
全般	PitStop Server、処理、ログ記録で使用する単位 (ポイント、パイカ、インチ、フィート、cm、mmまたはm)。「測定単位を設定する 81 ページの」を参照してください。
言語	ログ記録と処理に使用する言語、および PitStop Server の表示言語。「言語の設定 81 ページの」を参照してください。
フォルダ	PitStop Server の一時ファイル、隔離ファイルおよびログファイルのフォルダの場所。「ホットフォルダの設定 82 ページの」を参照してください。
処理中	ホットフォルダのチェック、最適化保存の実行間隔など。プロセスの環境設定を行う手順 83 ページのを参照してください。
ファイルのクリーンアップ	処理後のファイルの自動削除。「ファイルのクリーンアップの環境設定 83 ページの」を参照してください。
フォント	フォントの場所。フォントの (再) 埋め込みのときなど、Enfocus PitStop Server がフォントを検索するハード ディスクまたはネットワーク ドライブ上のフォルダを指定します。「フォント環境設定の設定 84 ページの」を参照してください。
カラー マネージメント	使用するカラーマネージメントとカラーモデルの有効化/無効化。「カラーマネージメントの環境設定を行う 84 ページの」を参照してください。
E メール	電子メール通知に使用する SMTP サーバーの設定と、PitStop Server の特殊イベント用の電子メール設定。「電子メールの環境設定を設定する 86 ページの」を参照してください。
パーソナル情報	電子メール送信時などに使用する名前、会社名、住所、電子メールアドレス、電話番号など。「パーソナル情報を設定する 86 ページの」を参照してください。
アップデート	アプリケーションアップデートの確認、および PitStop Server 管理者への電子メール通知の送信設定。「更新環境設定を行う 86 ページの」を参照してください。

11.1. 測定単位を設定する

測定単位を設定する手順

1. PitStop Server で、[ウィンドウ] > [環境設定...] の順に選択します。(Windows)またはアプリケーション > 環境設定（Mac）を選択します。
2. [全般] カテゴリを選択します。
3. 処理とログで使用するデフォルト測定単位を選択します。

   デフォルト測定単位は PitStop Server で情報を処理する際に使用されます。つまり、PDF レポート、XML レポート、または JSON レポートの測定単位になります。
4. PitStop Serverで表示する測定単位を選択します。

   これらの計測は、PitStop Server での表示で使用されます。たとえば、プリフライトプロファイル エディタなどのエディタ パネルの測定単位になります。

   デフォルト測定単位を選択した場合は、同じ単位（前の手順で選択した単位）がプリフライトレポートとPitStop Server UIで使用されます。
5. 非表示の警告メッセージを表示するには、すべてのメッセージをリセットボタンをクリックします。

   このメッセージを表示しないチェックボックスを選択するすべてのメッセージに適用されます。

11.2. 言語の設定

アプリケーションの言語を設定するには

1. PitStop Server で、[ウィンドウ] > [環境設定...] の順に選択します。(Windows)またはアプリケーション > 環境設定（Mac）を選択します。
2. [言語] カテゴリを選択します。
3. デフォルト言語リストから、PitStop Server処理とログの言語を選択します（プリフライトレポートで使用される言語）。

   サポート対象の言語：

   - 英語
   - フランス語
   - ドイツ語
   - オランダ語
   - イタリア語
   - スペイン語
   - ポーランド語
   - ブラジルポルトガル語

- 中国語（PitStopの中国語のライセンスがある場合のみ）
- 日本語（PitStopの日本語のライセンスがある場合のみ）

プリセット（アクションリスト、プリフライトプロファイルなど）は英語でのみ使用できます。日本語のユーザーは、Enfocus PitStop Serverをインストールするのに日本語のインストーラを使用する (Windows) か、システムの言語が日本語に設定されている場合（Mac）にのみ日本語のプリセットを取得できます。

注: 該当するホットフォルダの処理中タブで、必要に応じて、特定のホットフォルダのレポート言語を変更できます。レポート生成 56 ページの も参照してください。

4. 表示言語リストから、PitStop Server GUIを表示する言語を選択します。

   デフォルト言語は、前の手順で選択した言語です。

5. **[OK]** をクリックします。

6. PitStop Serverの表示言語を変更した場合は、Adobe Acrobatを再起動します。

11.3. ホットフォルダの設定

フォルダカテゴリの環境設定を行うには

1. PitStop Server で、[ウィンドウ] > [環境設定...] の順に選択します。(Windows)またはアプリケーション > 環境設定（Mac）を選択します。

2. [フォルダ] カテゴリを選択します。

3. PitStop Server が一時ファイルを保存するフォルダを定義します。

   - デフォルトの場所に保存するには、デフォルトを使用ボタンをクリックします。
   - 別のフォルダを選択するには、参照ボタンをクリックします。

   注: 一時ファイルフォルダの変更を反映させるには、PitStop Server Watchdog を再起動する必要があります。

4. 隔離ファイルを保存するフォルダを定義します。

   隔離ファイルとは、処理ワークフローから除外する必要があるファイルです。LibProcessor (実際に PDF ファイルを処理する PitStop Server プロセス) がクラッシュしたり、結果ファイルを一次フォルダから出力フォルダに移動できなかったりした場合のみ発生します。特殊なイベントのログで通知されますが、電子メールのアラートが有効な場合は電子メールのアラート受信します。クラッシュが起こった場合、Enfocus サポートに報告してください。

   このフォルダに対する適切な権限があることと、ハードディスクに十分な空き容量があることをチェックしてください。

   注: ネットワークは常に安定しているとかぎらないため、問題を回避するために、隔離されたファイルのネットワークフォルダを使用できません。

5. PitStop Server による特殊なイベントのログ ファイルの保存先となるフォルダを定義します。

   特殊なイベントのログ ファイルとは、PitStop Server で発生する可能性のある特殊なイベントに関する情報を含むファイルを指します。このフォルダに対する適切な権限が設定されていることをチェックしてください。

11.4. プロセスの環境設定を行う手順

プロセスの環境設定を行う手順

1. PitStop Server で、[ウィンドウ] > [環境設定...] の順に選択します。(Windows)またはアプリケーション > 環境設定（Mac）を選択します。
2. [プロセス] カテゴリを選択します。
3. 必要に応じて、オプションを設定します。
   - 同時に実行できる処理数を定義します。高い数値はPitStop Serverが低下する可能性があります。
   - 新しいファイルの入力フォルダを確認する頻度と、送信されたファイルが処理されるまでの時間を定義します。
   - 処理されたファイルのログを保持するかどうかを指定し、履歴をクリアするまでの日数を入力します。

     注: 履歴のログ記録は、各ホットフォルダに個別に設定する必要があります（ホットフォルダ設定（全般カテゴリ））。履歴のログ記録がグローバル環境設定を使用に設定されている場合、ここで選択されたオプションが適用されます。

   - 特殊なイベントのログを保持する日数を設定します。
   - アプリケーションを閉じたときに、PitStop Server でファイルのバックグラウンド処理を続行するどうかを指定します。ユーザーに確認は、Enfocus PitStop Serverを閉じるときの選択肢があることを意味します。
4. **[OK]** をクリックします。

11.5. ファイルのクリーンアップの環境設定

ファイルのクリーンアップの環境設定を行う手順

1. PitStop Server で、[ウィンドウ] > [環境設定...] の順に選択します。(Windows)またはアプリケーション > 環境設定（Mac）を選択します。
2. [ファイルのクリーンアップ] カテゴリを選択します。
3. ファイルを削除する基準を、保存期限、ファイルサイズ (メガバイト数)、ファイル数のいずれかで定義します。

4. 空のサブフォルダを削除するかどうかを定義します。
5. 自動的に削除するファイルの種類を定義します。

注: Enfocus PitStop Serverは、処理済みのファイルとフォルダのみを削除します。

11.6. フォント環境設定の設定

フォントの環境設定を行う手順

1. PitStop Server で、[ウィンドウ] > [環境設定...] の順に選択します。(Windows)またはアプリケーション > 環境設定（Mac）を選択します。
2. [フォント] カテゴリを選択します。
3. [追加...] ボタンをクリックします。
4. ハード ディスクまたはネットワーク ドライブ上で必要なフォント フォルダを選択し、**[OK]** をクリックします。

   選択したフォント フォルダが、**[Enfocus PitStop Server** 環境設定] パネルの [フォント フォルダ] ペインに表示されます。

   注: 特定のホットフォルダ用のフォントフォルダは、ホットフォルダの設定時に追加できます。ホットフォルダのプロパティ：フォント 70 ページの も参照してください。
5. フォント フォルダを削除するには、[削除] ボタンをクリックします。
6. **[OK]** をクリックします。

11.7. カラーマネージメントの環境設定を行う

カラーマネージメントの環境設定を行う手順

1. PitStop Server で、[ウィンドウ] > [環境設定...] の順に選択します。(Windows)またはアプリケーション > 環境設定（Mac）を選択します。
2. [カラーマネージメント] カテゴリを選択します。
3. [全般] タブで全般的なカラーマネージメント設定を編集します。
4. [画像]タブ：
   - 画像にも一般設定を適用するには、一般カラー設定の適用チェックボックスを選択します。
   - 一般カラー設定を上書きし、画像に個別の設定を行うには、カラーマネージメントの有効化チェックボックスを選択します。

5. 各カラー スペースについて、デフォルトのソースおよびターゲットの ICCプロファイルを選択します。

6. 優先するレンダリングインテントを選択します。

   レンダリング インテントは、異なるデバイス間でカラーを変換する際に使用される解析方法です。異なるデバイス間で画像の外観を維持するには、特定の出力デバイス (カラー プリンタ) で再現できないカラーを、出力デバイスのカラー範囲の中で最も近いカラーにリマッピングする必要があります。このリマッピングは、レンダリング インテントと呼ばれる特定の方式に従って実行されます。

   次のリマッピング方法のいずれかを選択します。

   - 定義されたオブジェクト: オブジェクト自体のレンダリングインテントが使用されます。

     注: オブジェクトのレンダリングインテントを確認するには、Enfocus インスペクタを開き、プリプレス > 出力インテントをクリックします。

     以下のリマッピング方法は、PDF内のオブジェクトに定義されているレンダリングインテントを考慮しません。

   - 相対的な色域を保持: 色域に含まれないカラーは、同じ明度で異なる彩度のカラーで置き換えられます。

   - 絶対的な色域を維持：色域に含まれないカラーは色域の境界線にあるカラーに変更されます。変更先の色域で表示できないカラーは失われます。

   - 彩度：全てのカラーを最も明るい彩度にスケーリングします。彩度 (色度とも呼ばれる) は同じになりますが、一部のカラーは明るくまたは暗くなります。この方式は業務用のグラフィックに最も適しており、業務用のグラフィックでは、カラー間の関係性の精度よりも、カラーの彩度を鮮明にする方が重要になります。

   - 知覚的：変更先のカラースペースの色域内で、オリジナルの色域の再スケーリングを行いますが、カラー間の関係は残しています。この方式では、カラー間の視覚的な関係が維持されますが、カラー値自体は変更されることがあります。

7. （該当する場合）[ブラックポイント補正を使用]チェックボックスを選択します。

   ブラックポイント補正のオプションは、あるデバイス上で実現可能な黒の再も暗いレベルと別のデバイス上で実現可能な黒の再も暗いレベルとの間の差異によって生じる、カラー変換に関する問題に対処するためのAdobe Photoshopの機能です。

   注: ホットフォルダに固有のカラーマネージメントを設定する場合は、ホットフォルダの設定時に設定できます。*Enfocus PitStop Server でのカラーマネージメントの使用* 163 ページの も参照してください。

8. **[OK]** をクリックします。

11.8. 電子メールの環境設定を設定する

電子メールの環境設定を設定する手順

1. PitStop Server で、[ウィンドウ] > [環境設定...] の順に選択します。(Windows)またはアプリケーション > 環境設定（Mac）を選択します。
2. [E メール] カテゴリを選択します。
3. メールの送信に使用するサーバーの名前とポートを指定します。

   E メールプログラムに登録した情報を参照するか、システム管理者にお問い合わせください。
4. ユーザ名とパスワードがある場合は、入力します。
5. 特殊なイベントの発生時に PitStop Server から E メール通知を送信するユーザを定義します。

   複数の電子メールアドレスを入力できます（セミコロンで区切る）。
6. [OK] をクリックします。

11.9. パーソナル情報を設定する

パーソナル情報は、PitStop Serverサーバーで作成されるCertified PDF文書に保存されます。詳細を登録しておくと、問題が発生したときに Certified PDF 文書の受信者が問い合わせることができます。

パーソナル情報を設定する手順

1. PitStop Server で、[ウィンドウ] > [環境設定...] の順に選択します。(Windows)またはアプリケーション > 環境設定（Mac）を選択します。
2. [パーソナル情報] カテゴリを選択します。
3. 名前、会社名、住所、およびその他のパーソナル情報をすべて入力します。

   システムタブの情報は編集できません。システム情報 には、PitStop Serverを登録したユーザーの詳細情報に加えて、お使いのオペレーティング システム、ネットワークおよびコンピュータから取得された情報が含まれます。この情報は変更できないため、たとえば、責任の所在を特定するための信頼できる情報源になります。
4. [OK] をクリックします。

11.10. 更新環境設定を行う

更新カテゴリの環境設定を行うには

1. PitStop Server で、[ウィンドウ] > [環境設定...] の順に選択します。(Windows)またはアプリケーション > 環境設定（Mac）を選択します。
2. [アップデート] カテゴリを選択します。
3. PitStop Server がアプリケーションアップデートをチェックする間隔（毎週、毎月など）を定義します。

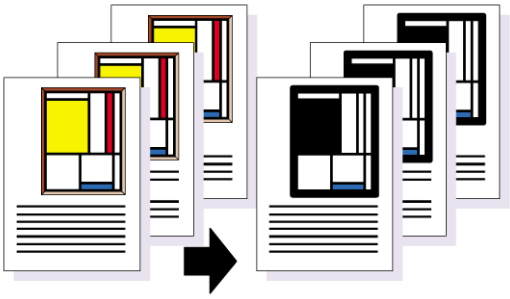
   手動を選択すると、PitStop Serverは更新を通知しません。新しいバージョンは、*Enfocus Webサイト*で確認できます。
4. 電子メールの環境設定で定義した PitStop Server 管理者またはユーザー（通知）が、使用可能なアップデートに関する通知を受け取る間隔を定義します。
5. **[OK]** をクリックします。

12. アクションリストの使用

Enfocus PitStop Server の主要機能の 1 つに PDF 文書の自動編集機能があります。これを有効にするには、ホットフォルダにアクションリストを 1 つ以上追加する必要があります。アクション リストとは、いくつかの連続するタスクを 1 つのファイルに保存したものです。たとえば、カラーやオブジェクトを変更するタスクなどです。Enfocus PitStop Server によって、定義した順序でそれぞれのタスクが自動的に実行されます。

たとえば、いくつかの PDF 文書に線画オブジェクトがあると仮定します。そして、全 PDF 文書でこのオブジェクトの以下のプロパティを変更します。

- オブジェクトで一部のエリアに指定された塗りのカラー
- 特定の線幅よりも細いオブジェクト中の線。



このジョブは、図に示したように、いくつかの連続するタスクで構成されます。Enfocus PitStop Server を使用すると、指定したホットフォルダに追加されるすべての PDF 文書にこれらのタスクを適用できます。

備考

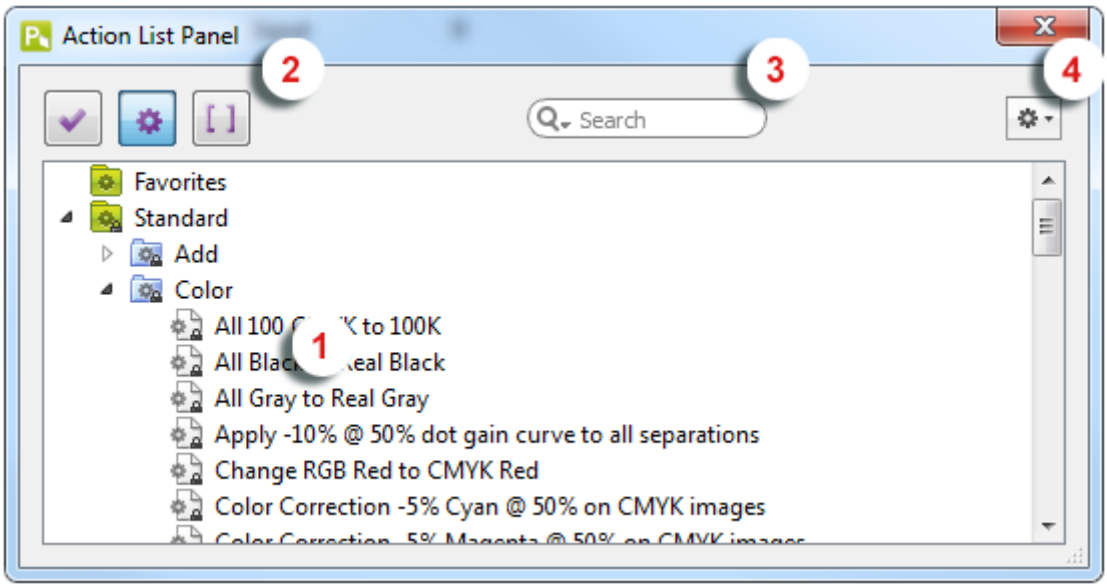
次のトピックでは、PitStop Serverでアクションリストを管理（インポート、エクスポート、複製）する方法を説明します。これらのアクションリストを1つ以上のPDFに適用するには、次のことを行う必要があります。

- プリフライトプロファイルに1つ以上のアクションリストを埋め込みます（さらに、このプリフライトプロファイルをホットフォルダに追加します）。（推奨）を参照してください。プリフライトプロファイルにアクションリストを追加する
- 個別のファイルとしてアクションリストをホットフォルダに追加します。「*1 つ以上のアクションリストをホット フォルダに追加する* 64 ページの」を参照してください。

12.1. PitStop Serverのアクションリストの場所

PitStop Server でアクションリストを管理するには、[ウィンドウ] > [アクションリスト...] の順に選択します。

これでアクションリストパネルを開きます。



このパネルは、以下の要素で構成されています。

#	
1	使用可能なアクションリストが表示されるワークスペース。アクションリストは、「データベース」フォルダで整理されます。既定では、次のフォルダがあります。 • お気に入り：アクションリストはお気に入りに設定されます。これにより、頻繁に必要なアクションリストにすばやくアクセスできます。 • 標準：PitStop Server（カラー、フォント、イメージなどのサブフォルダでグループ化）でインストールされた既定のアクションリスト。 • ローカル：編集および作成したアクションリストはローカルに保存されます。
2	プリフライトプロファイル（ ）、アクションリスト 、変数セット [ ]（スマートプリフライトについての章を参照）を切り替えるボタン。
3	検索フィールド（特定のアクションリストを検索可能）
4	[アクション] メニューこのメニューを使用すると、次のことができます。 • アクション リストの作成または編集 • アクションリストの削除 • アクションリストの複製 • アクションリストの取り込みまたは書き出し • アクション リストの名前変更 • このパネルのアクションリストの順序を変更（上に移動、下に移動） あるいは、アクションリストを選択して、コンテキストメニューを使用して、次の処理を実行できます。

注: PitStop 13では、PitStop Serverで直接アクションリストを作成および編集できます。PitStop Proは必要ありません。

12.2. アクションリストの編集

PitStop 13では、PitStop Serverで直接既存のアクションリストを編集できます。

たとえば、会社の背景をPDFに追加する場合、「Enfocus背景の追加」アクションリストを編集（デフォルトでは標準フォルダ）を編集し、Enfocus背景画像を独自の背景画像に変更できます。

ヒント: アクションリストの操作の詳細については、*Enfocus Webサイト*のアクションマニュアル（「アクションリストによる作業の自動化」の章）を参照してください。

アクション リストを編集する手順

1. Enfocus PitStop Server で、[ウィンドウ] > [アクションリスト...] の順に選択します。
2. アクションリストパネルで編集するアクションリストをダブルクリックします。

   または、編集をするアクションリストを選択し、 > [編集]をクリックします。

   注: アクションリストが完全にロックされている場合、アクションリストのコンテンツを見る前にパスワードを要求されます。もし部分的にロックされている場合、アクションリストのコンテンツを見ることはできますが、変更を行う前に[ロック]アイコンをクリックし、パスワードを入力する必要があrます。
3. 必要に応じてアクションを追加、削除、またはアクションの属性の変更を行い、アクションリストをデザインします。
4. 必要なすべての変更を行った後、**[OK]**をクリックします。
   変更されたアクションリストがローカルデータベース（フォルダ）に保存されます。

12.3. アクションリストの作成

PitStop 13では、PitStop Serverで直接独自のアクションリストを作成できます。

ヒント: アクションリストの操作の詳細については、*Enfocus Webサイト*のアクションマニュアル（「アクションリストによる作業の自動化」の章）を参照してください。

アクション リストを作成する手順

1. Enfocus PitStop Server で、[ウィンドウ] > [アクションリスト...] の順に選択します。
2. アクションリストパネルで、次のいずれかの手順を実行します。
   - 既存のアクションリストから新規に作成するには、 > [新規] > [既存から新規作成/ファイルから新規作成]をクリックし、基にするアクションリストを選択します。[既

存から新規作成]オプションでは、標準データベースの既存のアクションリストを選択することができます。また、[ファイルから新規作成]オプションでは、コンピュータのファイル（*.eal）を選択することができます。

- 新しいアクションリストを最初から作成するには、 > [新規] > [新規]をクリックします。

3. 必要に応じて[プロパティ]セクションを入力します。
   - [全般情報] を選択し、アクション リストの名前、作成者、会社、アクション リストの説明を設定します。
   - [ロック情報]を選択し、適切なオプションを選択してください。Enfocus Webサイトでアクションマニュアルを参照してください（「アクションリストのロック」）。
4. 必要に応じてアクションを追加、削除、またはアクションの属性の変更を行い、アクションリストをデザインします。
5. 必要なすべての変更を行った後、**[OK]**をクリックします。

12.4. アクションリストの書き出し

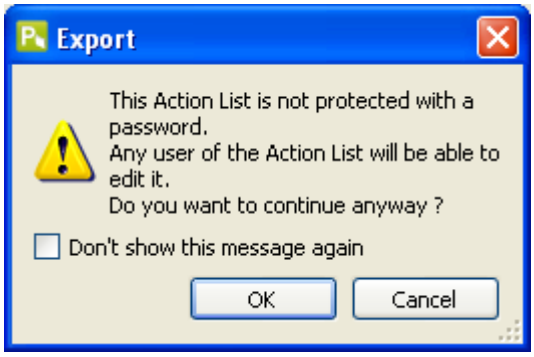
アクションリストの書き出しとは、別のファイルとしてリストを保存することです。

この操作は、たとえば、次のようなさまざまな理由で行う場合があります。

- このアクションリストを後で再利用するため
- アクションリストを他のユーザと共有するため
- サービスビューロ、その他の PDF 文書の受信者/提供者にアクションリストを送信するため
- バックアップコピーを作成するため

アクションリストを書き出す手順

1. Enfocus PitStop Server で、[ウィンドウ] > [アクションリスト**...**] の順に選択します。
2. [アクションリスト パネル] で、書き出すアクション リストを選択します。
3. ［アクション］メニュー（ ）上で、［書き出し］をクリックします。
   アクションリストをパスワードで保護していない場合、次のメッセージが表示されます。



4. アクションリストのファイル名と場所を指定します。
5. [保存] をクリックします。

12.5. アクションリストの取り込み

アクションリストの取り込みとは、[アクションリスト パネル] にアクションリストをロードすることです。これは、同僚または顧客からアクションリストを受け取った場合に有効なことがあります。Enfocusアクションリストライブラリ（Enfocus Webサイトで提供）からもアクションリストをダウンロードできます。

アクションリストを取り込む手順

1. Enfocus PitStop Server で、[ウィンドウ] > [アクションリスト...] の順に選択します。
2. アクション リストの取り込み先のカテゴリ（フォルダ）を選択します。
3. ［アクション］メニュー（ ）上で、［インポート］をクリックします。
4. 取り込むアクションリストを選択します。
5. [開く] をクリックします。

   Enfocus PitStop Server の[アクションリスト パネル] で選択したカテゴリの一番最後に、取り込んだアクション リストが表示されます。

12.6. アクションリストの複製

アクションリストの複製とは、アクションリストのコピーを保存することです。

アクションリストを複製する手順

1. Enfocus PitStop Server で、[ウィンドウ] > [アクションリスト...] の順に選択します。
2. [アクションリスト パネル] で、複製するアクションリストを選択します。
3. ［アクション］メニュー（ ）上で、［複製］をクリックします。

   Enfocus PitStop Server により、選択したアクション リストのコピーが作成され、「(元の名前) のコピー」という名前が付けられます。このコピーも [アクションリスト パネル] に表示されます。

12.7. アクションリストの削除

アクション リストを削除すると、[アクションリスト パネル] に表示されなくなり、ハード ディスクから削除されます。

アクションリストを削除する手順

1. Enfocus PitStop Server で、[ウィンドウ] > [アクションリスト...] の順に選択します。
2. [アクションリスト パネル] で、削除するアクション リストを選択します。
3. ［アクション］メニュー（ ）上で、［削除...］をクリックします。

13. PDF 文書のプリフライトとチェック

Enfocus PitStop Server を使用すると、PDF 文書を画面上または用紙に出力する前に、その PDF 文書を簡単にチェックして調整できます。また本製品は、PDF 文書のプロパティを選択した プリフライトプロファイルの指定プロパティと確実に一致させます。これらのプリフライトアクションの結果はプリフライトレポートに表示され、ログフォルダに保存されます。

13.1. プリフライトとは

13.1.1. プリフライトの定義

プリフライトという用語は航空業界に由来しています。パイロットには、離陸前に航空機の耐空性を判断する責任があります。つまり、パイロットは各フライトの前に多数のチェックを行う必要があります。

PDF 文書のプリフライトも基本的には同じことです。パイロット (PDF 文書を作成または処理する人) は、文書が「フライト準備完了」 (「出力準備完了」) であることを事前に確認する必要があります。

「出力に適している」ということは、PDF 文書が「使用可能である」ということを意味します。たとえば、次のような状態です。

- 4 色の印刷機で印刷する PDF 文書に含まれている画像が全て CMYK 画像であり、必要なフォントが全て含まれていること
- オンラインで表示することを目的とした PDF 文書に含まれている画像が全て RGB 画像であること

さらに、プリフライト チェックの要件に適合しないPDF 文書のすべてのプロパティは、「問題」として報告されて同じ処理の中で修復できます。

13.1.2. プリフライトプロファイルs

PDF 文書をプリフライトするには、プリフライトプロファイルを使用します。プリフライトプロファイルは、PDF 文書を出力するにあたって満たす必要がある基準をまとめたファイルです。各基準では、次のことを指定できます。

- チェック対象にするかどうか
- プリフライト レポートで、「警告」や「エラー」として表示するか
- 問題がある場合にどのように修正するか

基準の例としては、RGB カラーがあります。PDF 文書で RGB カラーを使用したくない場合、これをチェックして、全ての RGB カラーを CMYK に変換できます。

13.1.3. Enfocus PitStop Serverのプリフライト

Enfocus PitStop Server ではプリフライトはどのように行われるのでしょうか。プリフライトチェックの通常の段階は次のとおりです。

1. ホットフォルダ設定で、使用するプリフライトプロファイルを選択します。

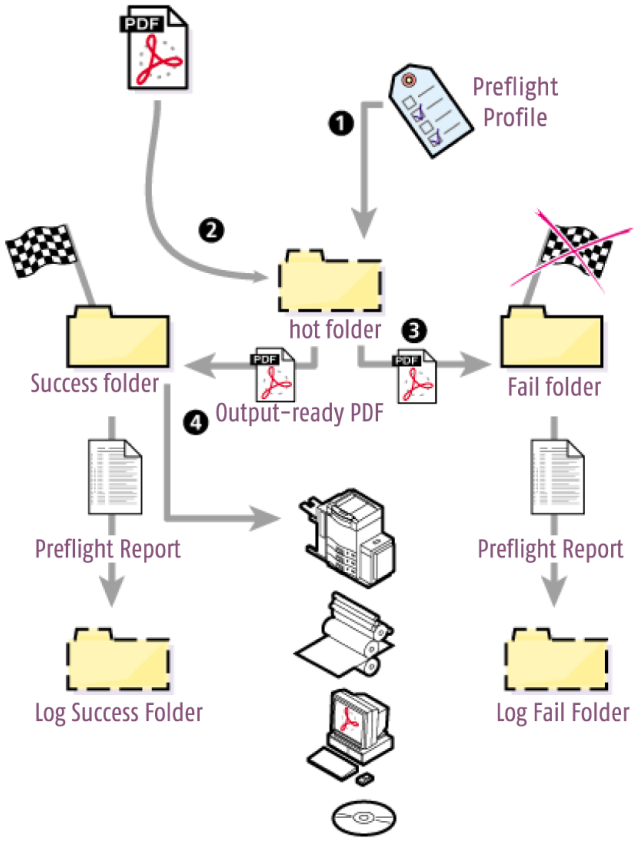
   プリフライトプロファイルパネル（ウィンドウ > プリフライト）で、デフォルト以外のプリフライトプロファイルを作成、編集、または取り込みができます。

2. チェックして自動的に修復する PDF 文書を入力フォルダ（ホットフォルダ設定で定義）に入れます。

3. Enfocus PitStop Serverでは、PDF 文書がチェックされ、問題が検出された場合は、プリフライトプロファイルに基づき問題が修正されます。プリフライトレポートが生成され、そのレポートがログフォルダに保存されます。

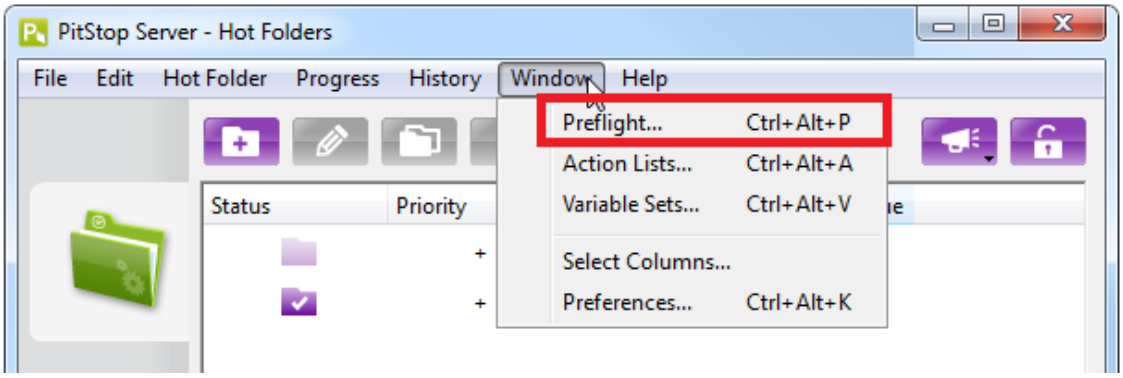
4. PDF 文書の出力準備が整い最終的な出力段階 (印刷、オンライン表示など) に移行できる状態になるまで、必要に応じて PDF 文書のチェックを繰り返します。

   次の図は、Enfocus PitStop Serverでの一般的なプリフライトワークフローの例を示します。



13.2. PitStop Serverのプリフライトプロファイルの場所

PitStop Server で、[ウィンドウ] > [プリフライト] の順に選択します。

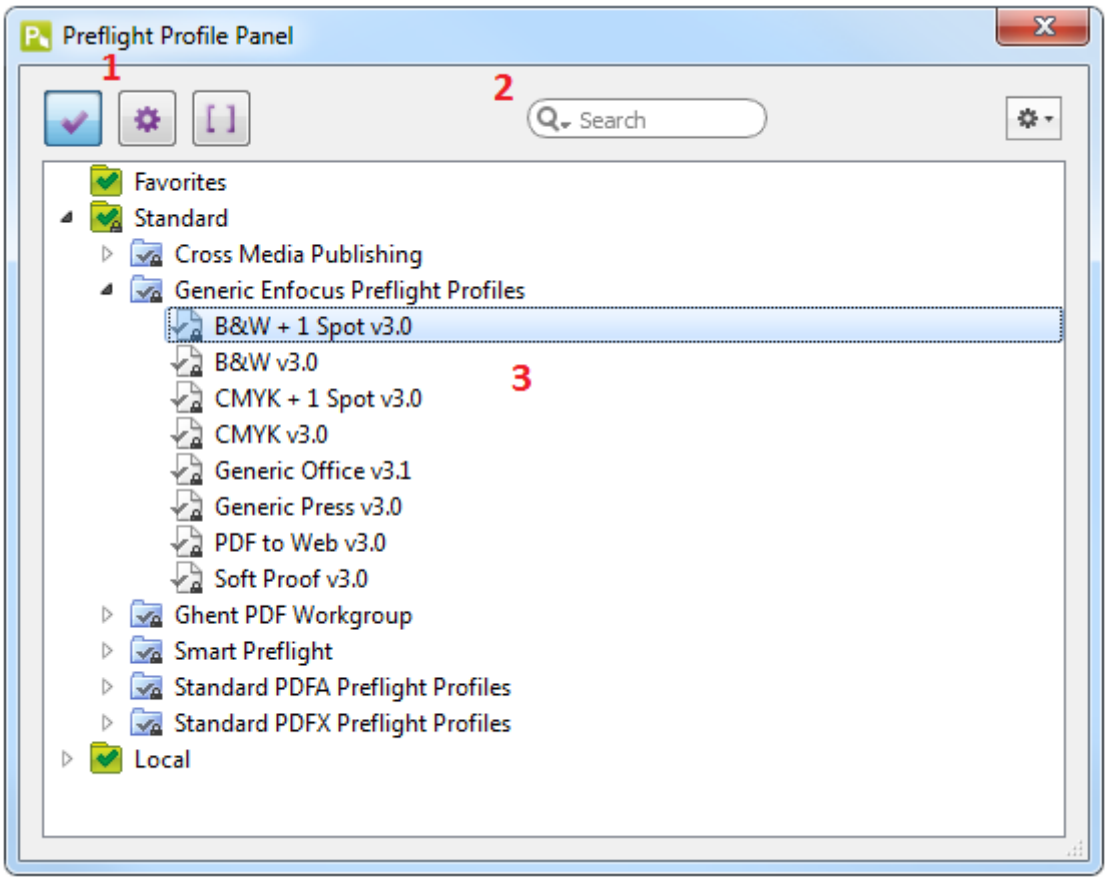


13.2.1. プリフライトプロファイル パネル

プリフライトプロファイル パネルでは、プリフライトプロファイルを整理してアクセスできます。

- 既存のプロファイルまたは空のプロファイル（新しいプロファイル作成）を開くことができます。
- プリフライトプロファイルのインポート、エクスポート、複製、およびグループ化ができます。

注: このダイアログからは、プリフライトプロファイルを実行できません。代わりに、ホットフォルダ設定に関連するプリフライトプロファイルを選択する必要があります（アクションリストとプリフライトプロファイルカテゴリ）。



[プリフライトプロファイル]ダイアログには次の画面パーツがあります。

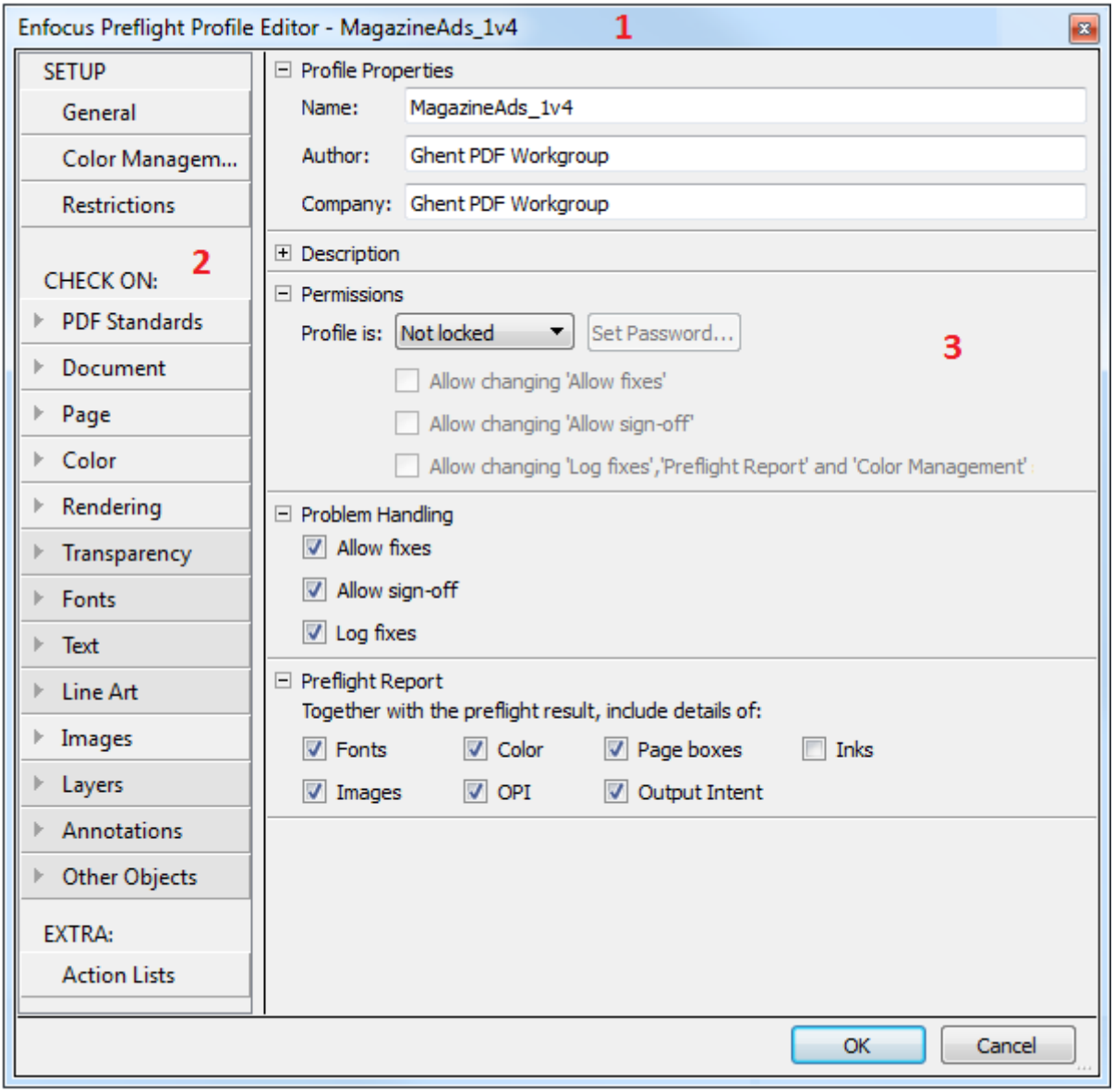
#	説明
1	プリフライトプロファイル（）とアクションリスト（）または変数セット[ ]を切り替えるボタン。変数セットの詳細については、Enfocus WebサイトのPitStop Serverガイド（スマートプリフライトの章）を参照してください。
2	検索フィールド（特定のプリフライトプロファイルを検索）とメニュー（プリフライトプロファイルの整理）。
3	使用可能なプリフライトプロファイルが表示されるワークスペース。プリフライトプロファイルは、「データベース」フォルダで整理されます。既定では、次のフォルダがあります。 • お気に入り：プリフライトプロファイルはお気に入りに設定されます。これにより、頻繁に必要なプリフライトプロファイルにすばやくアクセスできます。 • 標準: PitStop Serverでインストールされるデフォルトのプリフライトプロファイル（汎用Enfocusプリフライトプロファイル、Ghent PDFワークグループプロファイル、標準 PDF/AまたはPDF/X プロファイルなどのサブフォルダでグループ化）。

#	説明
	ヒント: 特定のプリフライトプロファイルに含まれるチェックを表示するには、プロファイルをダブルクリックします。 • ローカル：編集および作成したプリフライトプロファイルはローカルに保存されます。

13.2.2. Enfocus プリフライトプロファイル エディタ

Enfocusプリフライトプロファイルエディタは[プリフライトプロファイル]パネルからアクセスできます。プリフライトプロファイルをダブルクリックするか、コンテキストメニューの[新規] > [新規]を選択すると、このダイアログが表示されます。プリフライトプロファイルの内容を変更できます。

- プリフライトプロファイルの一般設定または説明を変更します。
- プリフライトプロファイルをパスワードで保護できます。
- カラーマネージメントを有効化または無効化し、必要に応じて制限を追加または削除できます。
- 必要に応じて、チェックと修正を有効化または無効化できます。
- プリフライトプロファイルに埋め込むアクションリストを追加できます。



[**Enfocus**プリフライトプロファイルエディタ]には次の画面パーツがあります。

#	説明
1	編集中のプリフライトプロファイルの名前。

2	エディタの左側には3つのメインカテゴリがあります。
	• 設定は次から構成されます。
	  • 全般設定。プロファイルの名前と作成者、環境設定（権限、問題処理など）
	  • カラーマネージメント設定
	  • 制限。特定のチェックを制限する特定の選択（ページXのすべてのテキスト、特定のタイプのすべての画像など）を定義できます。

#	説明
	• チェックオンには、PDF標準、文書などのすべての使用可能なチェックがカテゴリでグループ化されて一覧表示されます。チェックは有効な場合にだけ実行されます（さらに参照）。ほとんどのチェックは自動修正があります。 注: 濃いグレイの背景のカテゴリのチェックは有効ではありません。 • 追加の下で、プリフライトチェックの一部として実行するアクションリストを追加または削除できます。
3	エディタの左の部分の項目をクリックしたら、対応する情報がダイアログの右側に表示されます。上の例では、右側のペインに[設定]>[全般]の内容が表示されます。

13.3. プリフライトプロファイルを作成および編集する方法

この章では、PitStop Serverでプリフライトプロファイルを作成および編集する方法について説明します。

13.3.1. プリフライトプロファイルを編集または作成する

新しいプリフライトプロファイルを作成するか、既存のプリフライトプロファイルを編集する手順

1. プリフライトプロファイル パネルを開きます。

   「*PitStop Serverのプリフライトプロファイルの場所* 96 ページの」を参照してください。

2. 新しいプリフライトプロファイルを作成するか、既存のプロファイルを編集します。

   - 既存のプリフライトプロファイルから新規に作成するには、 > [新規] > [既存から新規作成/ファイルから新規作成]をクリックし、基にするプリフライトプロファイルを選択します。

     [既存から新規作成]オプションでは、標準データベースの既存のプリフライトプロファイルを選択することができます。また、[ファイルから新規作成]オプションでは、コンピュータのファイル（*.ppp）を選択することができます。
   - 新しいプリフライトプロファイルを最初から作成するには、 > [新規] > [新規]をクリックします。
   - 既存のプリフライトプロファイルを編集するには、ダブルクリックします。または、目的のプリフライトプロファイルを選択し、 > [編集]をクリックします。

   もしプリフライトプロファイルが完全にロックされている場合、プリフライトプロファイルのコンテンツを見る前にパスワードを要求されます。

もし部分的にロックされている場合、プリフライトプロファイルのコンテンツを見ることはできますが、変更を行う前に[ロック]アイコンをクリックし、パスワードを入力する必要があります。プリフライトプロファイルをパスワードでロックする 116 ページのを参照してください。

3. 異なるカテゴリの設定を構成します。
   - プリフライトプロファイルの全般プロパティの定義 101 ページの
   - プリフライトプロファイルのカラーマネジメント設定を定義する 102 ページの
   - プリフライトプロファイルの制限の定義 104 ページの
   - チェックの設定 109 ページの
   - プリフライトプロファイルへのアクションの追加 115 ページの
4. **[OK]** をクリックします。

新しいプリフライトプロファイルまたは編集したプリフライトプロファイルを実行し、Enfocusナビゲータまたはプリフライトレポートでプリフライトチェックの結果を確認できます。

13.3.1.1. プリフライトプロファイルの全般プロパティの定義

プリフライトプロファイルの全般プロパティを定義する手順

1. Enfocusプリフライトプロファイルエディタで、設定 > 全般カテゴリで、必要に応じてプロファイルプロパティを確認して変更します。
   - 名前
   - 作成者
   - 会社
2. [プリフライトプロファイル]の[説明]にチェックを入れ、必要に応じて変更します。
3. [権限]セクションでは、プリフライトプロファイルを（部分的に）ロックして、ユーザーがプリフライトプロファイルを変更することを防ぐことができます。「プリフライトプロファイルをパスワードでロックする 116 ページの」を参照してください。
4. [問題の処理] セクションでは、エラーが発生したときにどうするかを決定できます。
   - 修正を許可：有効にすると、PitStop Serverは問題を解決しようとします。無効にすると、問題はログに記録されますが、解決はされません。
   - サインオフを許可: 有効にすると、ユーザーはサインオフフラグが設定されている問題（以下を参照）をサインオフすることができます。これにより、ユーザーはエラーがそこまで深刻ではない場合、警告として扱うことができます。無効にすると、ユーザーはサインオフフラグが設定されている場合でもエラーをサインオフすることができません。このサインオフは、certified PDFウィンドウの一部としてのみ可能です。

- 修正をログに記録:有効にすると、PDFに行われた全ての修正がプリフライトレポートに記録されます。

5. [プリフライトレポート]セクションでは、プリフライトの詳細とともに、フォント、カラー、ページボックス、インク、レイヤー、画像、OPI、出力インテント、ページカラータイプ、および制限名に関する情報を収集できます。
各チェックボックス（最後のチェックボックスを除く）は、プリフライトレポートの情報の章に対応しています。たとえば、レイヤーチェックボックスを選択すると、プリフライトレポートには PDF のレイヤーとそのプロパティに関する章が含まれることになります。ページカラータイプの章では、空白、白黒、カラーページの数について説明します。制限名チェックボックスが選択されている場合、制限名が適用されるメッセージの前に表示されます。

13.3.1.2. プリフライトプロファイルのカラーマネジメント設定を定義する

カラーマネージメントは、プリフライト時および補正時にカラー変換が行われる際、どのICCプロファイルを使用するかを定義できます。これは、デバイス間でカラーの相違を最小限に抑える場合に便利です。カラーマネジメントを有効にしない場合、お使いのオペレーティングシステムの一般的なカラー変換が使用されます。

このトピックでは、プリフライト中のカラー変換の際に使用するカラーマネジメント設定を定義する方法を説明しています。

注: ここで定義される設定は[PitStop Server環境設定]で定義された設定よりも優先されます。

カラーマネジメント設定を定義する手順

1. [Enfocusプリフライトプロファイルエディタ]の[セットアップ] > [カラーマネジメント]カテゴリで、カラーマネジメントを以下のように有効にします。
   - Enfocusデフォルトプリセットを使用するには、[カラーマネージメントを有効にする]チェックボックスを選択します。
   - 特定のカラーマネジメントプリセットを使用する手順
     1. [アクション]メニューをクリックします。
     2. [カラーマネージメントプリセットを使用]を選択します。
     3. 目的のカラーマネジメントプリセットを、データベースまたはコンピュータのファイルから選択します。
     4. **[OK]** をクリックします。

   選択されたプリセットで定義された設定が表示されます。必要に応じて変更することができます。

2. 各カラースペースに対して、適切なソースおよびターゲットICC プロファイルを選択してください。
   - 必要に応じて[選択した**ICC**プロファイルよりも出力インテントを優先]を選択します。

- 目的のプロファイルがソースプロファイルと異なる場合、[ソースと別の**ICC**プロファイルを使用する]を有効にし、正しい目的のICCプロファイルを選択します。

3. 優先するレンダリングインテントを選択します。

レンダリング インテントは、異なるデバイス間でカラーを変換する際に使用される解析方法です。異なるデバイス間で画像の外観を維持するには、特定の出力デバイス (カラー プリンタ) で再現できないカラーを、出力デバイスのカラー範囲の中で最も近いカラーにリマッピングする必要があります。このリマッピングは、レンダリング インテントと呼ばれる特定の方式に従って実行されます。

次のリマッピング方法のいずれかを選択します。

- 定義されたオブジェクト: オブジェクト自体のレンダリングインテントが使用されます。

  注: オブジェクトのレンダリングインテントを確認するには、Enfocus インスペクタを開き、プリプレス > 出力インテントをクリックします。

  以下のリマッピング方法は、PDF内のオブジェクトに定義されているレンダリングインテントを考慮しません。

- 相対的な色域を保持: 色域に含まれないカラーは、同じ明度で異なる彩度のカラーで置き換えられます。

- 絶対的な色域を維持：色域に含まれないカラーは色域の境界線にあるカラーに変更されます。変更先の色域で表示できないカラーは失われます。

- 彩度：全てのカラーを最も明るい彩度にスケーリングします。彩度 (色度とも呼ばれる) は同じになりますが、一部のカラーは明るくまたは暗くなります。この方式は業務用のグラフィックに最も適しており、業務用のグラフィックでは、カラー間の関係性の精度よりも、カラーの彩度を鮮明にする方が重要になります。

- 知覚的：変更先のカラースペースの色域内で、オリジナルの色域の再スケーリングを行いますが、カラー間の関係は残しています。この方式では、カラー間の視覚的な関係が維持されますが、カラー値自体は変更されることがあります。

4. 必要に応じて［ブラックポイント補正を使用］チェックボックスを選択します。

ブラックポイント補正のオプションは、あるデバイス上で実現可能な黒の再も暗いレベルと別のデバイス上で実現可能な黒の再も暗いレベルとの間の差異によって生じる、カラー変換に関する問題に対処するためのAdobe Photoshopの機能です。

5. [画像]タブに切り替えます。

6. 次のいずれかを実行します。

- 同じカラーマネジメント設定をPDFのすべてのオブジェクトに設定するには（すなわち[全般]タブで定義されている設定）、[全般的なカラー設定を適用]チェックボックスを選択します。

- 画像に異なる設定を使用するには、[カラーマネージメントを有効化]チェックボックスを選択し、手順2～5を繰り返します。異なるプリセットで開始する（手順1）ことはできません。

13.3.1.3. プリフライトプロファイルの制限の定義

制限

プリフライトプロファイルの制限

制限は、プリフライトチェックの範囲を制限する方法です。すべてのチェックを文書全体に適用するのではなく、各チェックに対してチェックを実行するPDFの部分を定義できます。これは、PDFページボックス、特定のページ、PDFの特定の領域または特定の要素、またはPDFファイル内の異なるレイヤーにすることができます。

制限はアクションリストとアクションの選択のみで定義されます。独自の制限アクションリストを作成するか、PitStopにインストールされている定義済みのすぐに使える制限アクションリストを作成できます。これらの制限を使用するには、プロファイルにインポートする必要があります。

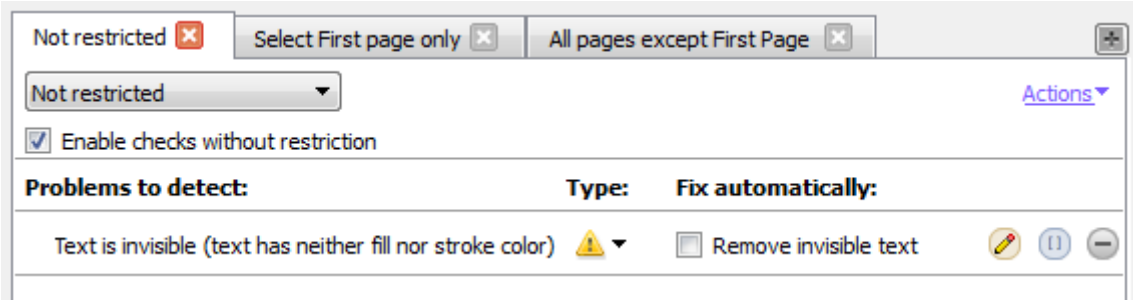
各チェックのグループ（チェックオンの下の各カテゴリ）で、適用する制限（該当する場合）を決定できます。1つのカテゴリに複数の制限が適用される場合は、次のように個別のタブ（制限ごとに1つのタブ）を使用できます。

例

非常に小さい色付きのテキストと非表示のテキストの両方のチェックをPDFで実行するとします。テキストサイズのしきい値は文書の表紙と他の部分によって異なりますが、非表示のテキストは、検出場所に関係なく検出されます。

小さい色付きのテキストと非表示のテキストのチェックはチェックオン：テキストの下にあります。

- 「非表示のテキスト」は文書のすべてのページで有効になる必要があり、制限されるべきではありません。これは、制限アクションリストが必要ないデフォルトの動作です。
- 「テキスト」サイズは2回チェックされます。表紙で1回、文書の他のページで1回です（それぞれが異なる値）。このため、2つの追加のタブが必要で、それぞれ制限が選択されます。
  - 制限1は表紙を選択するアクションリストです。
  - 制限2は他のすべてのページを選択するアクションリストです。



プリフライト レポートで制限

プリフライトレポートでチェックが制限によって限定される場合、デフォルトでは制限の名前の前は実際の警告の前に表示されます。制限が適用されない場合、これは明示的に表記されません。プリフライトレポートの全般プロパティの制限名チェックボックスをオフにすることで、制限名を非表示にすることができます。

最適な方法

プリフライトプロファイルでチェックを設定する前に次の手順を実行します。

1. 必要な制限について検討します。
2. アクションリストを作成し、これらの制限を定義します。あるいは、PitStopでインストールされる定義済みの使いやすい制限を使用できるかどうかを確認します。
3. プリフライトプロファイルで必要な制限をインポートします。
4. チェックを設定し、必要に応じて、該当する制限を選択します。制限が選択されない場合、文書全体にチェックが適用されます。

制限の作成

プリフライトプロファイルから新しい制限アクションリストを作成できます。再利用する場合は、後からローカルアクションリストデータベースに書き出すことができます。

注: あるいは、アクションリストエディタでアクションリストを作成できます。「選択」アクションだけを使用してください（使用するプリフライトプロファイルに制限アクションリストを取り込む）。

プリフライトプロファイルから制限を作成する手順

1. プリフライトプロファイルで、設定 > 制限に移動します。
2. をクリックします。
   [アクション リスト エディタ] が表示されます。
3. 他のアクションリストのようにアクションリストを設定します（「選択」アクションのみを使用）。
   - アクションリストごとに1つの選択だけが可能です（これには、1つの選択になる演算子と組み合わせられた選択アクションがあります）。1つの例外があります。内容が選択された場合にページを選択アクションは、別の選択アクションと組み合わせることができます。以下にその例を挙げます。

     ```
     Select by color space
     Select page if content is selected
     ```

   - より複雑な選択が必要な場合は、1つの制限に複数のアクションリストを組み合わせる必要があります。アクションリストは、2つのアクションの後にAND演算子があるかのように順次実行されます。

ヒント: をクリックして、これらの「選択」アクションだけを表示します。

4. **[OK]** をクリックします。

   制限アクションリストは制限のリストに追加されます。制限をダブルクリックするか、(選択した制限の編集) をクリックして、別の名前を選択するなど、必要に応じて変更します。

5. 必要に応じて選択の再使用を選択します。

   制限された選択の再使用 108 ページの を参照してください。

新しい制限はチェックのすべてのカテゴリで使用できます。任意で、複数のカテゴリに該当する制限を使用する場合は、すべてのカテゴリでタブを作成をクリックします。ただし、タブを追加しても、チェックは自動的に有効化されません。これは時間を節約する方法です。

他のプリフライトプロファイルの制限を再利用する場合は、をクリックしてアクションリストダイアログのローカルフォルダに書き出します。このローカルフォルダの名前は該当するプリフライトプロファイルに関連して付けられます。たとえば、「Restrictions from PDFX-4」です。

制限の編集

プリフライトプロファイル内から制限を変更できます。

制限を編集する手順

1. プリフライトプロファイルで、設定 > 制限に移動します。
2. 編集する制限を選択します。
3. 制限をダブルクリックするか、(選択した制限の編集)をクリックします。
   [アクション リスト エディタ] が表示されます。
4. 他のアクションリストのようにアクションリストを設定します（「選択」アクションのみを使用）。
   - アクションリストごとに1つの選択だけが可能です（これには、1つの選択になる演算子と組み合わせられた選択アクションがあります）。
   - より複雑な選択が必要な場合は、1つの制限に複数のアクションリストを組み合わせる必要があります。アクションリストは、2つのアクションの後にAND演算子があるかのように順次実行されます。

   ヒント: をクリックして、これらの「選択」アクションだけを表示します。

5. **[OK]** をクリックします。
6. 必要に応じて選択の再使用を選択します。

   制限された選択の再使用 108 ページの を参照してください。

変更は、プリフライトプロファイルに取り込まれるバージョンに対してだけ行われます。

ローカルフォルダに変更を書き出すには、をクリックします。このローカルフォルダ名は該当するプリフライトプロファイルに関連して付けられます。例えば、「Restrictions from PDFX-4」です。

定義済み制限の使用

PitStopにはさまざまな定義済み制限があり、そのまま使用するか、それを基にして独自の制限を作成できます。

定義済み制限の使用

1. プリフライトプロファイルで、設定 > 制限に移動します。
2. をクリックします。
   制限アクションリストの取り込みが表示され、「選択」アクションだけのアクションリストが表示されます。
3. データベースからが選択されていることを確認し、標準 > 制限アクションリストをクリックします。
   PitStopで提供されるすべての標準の定義済み制限が一覧表示されます。内容を確認するには、制限を選択し、ダイアログの下の説明を読みます。
4. 任意の制限をダブルクリックします。
   プリフライトプロファイルに制限がすぐに取り込まれ、そのまま使用できます。
5. 制限の内容を見るか、必要に応じて変更するには、ダブルクリックするか(選択した制限の編集)をクリックします。
   詳細については、制限の編集 106 ページのを参照してください。必要に応じて**OK**またはキャンセルをクリックして、このダイアログを閉じます。

   最終的に不要な制限を追加した場合は、をクリックします。

制限はチェックのすべてのカテゴリで使用できます。任意で、複数のカテゴリに該当する制限を使用する場合は、すべてのカテゴリでタブを作成をクリックします。ただし、タブを追加しても、チェックは自動的に有効化されません。これは時間を節約する方法です。

制限のインポート

制限を使用するには、プリフライトプロファイルにインポートする必要があります。

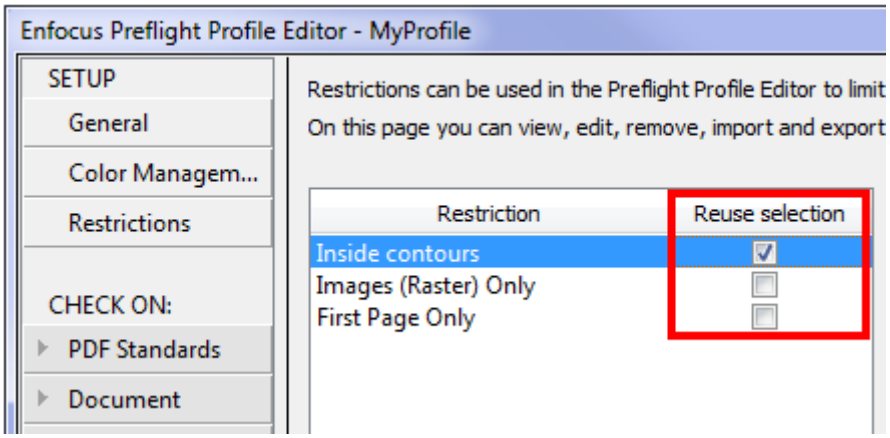
1. 次のいずれかを実行します。
   - プリフライトプロファイルで設定 > 制限に移動し、(制限のインポート)をクリックします。
   - プリフライトプロファイルで
     1. チェックオンに移動し、カテゴリを開きます。
     2. ペインの上部のリストを開きます。

3. 制限をインポート...をクリックします。

2. 関係する制限を選択し、**OK**をクリックします。
制限をインポートした場所に関係なく、設定 - 制限の下に一覧表示され、チェックのすべてのカテゴリのすべてのタブのすべてのリストで使用できます。制限の変更は設定 > 制限セクションで行う必要があります。

制限された選択の再使用

文書のプリフライトにかかる時間を短縮したい場合は、プリフライトプロファイルエディタの設定 > 制限セクションにある選択の再使用チェックボックスを有効にします。



意味

- [選択の再使用] のチェックを外すと（デフォルト設定）、制限されたアクション リストが必要に応じて複数回（チェックに使用する度）実行されます。例えば異なる 5 つのチェックが、制限された 1 つの同じ選択に限られている場合（特定属性を持つすべてのオブジェクトなど）、これらのオブジェクトを選択するアクション リストは 5 回実行されます。複雑な制限の場合、PDF のプリフライトに必要な時間に大きく影響します。

- [選択の再使用] を選択すると、制限されたアクション リストは一度だけ実行され、選択が記憶されてプロファイルの関連するチェックに使用されます。複雑な制限の場合、これによって処理時間が大幅に削減されます。

警告

選択した領域がプリフライトプロファイルによる変更の影響を受けない場合にのみ、このオプションを有効化してください。

選択の再使用を有効化してもよい例として以下の場合があります。制限されたアクションリストによって輪郭内のすべてのオブジェクトが選択される場合、プリフライト処理でページのレイアウトが変更されない限り、選択は同じ状態となります。選択の再使用によって処理時間が削減されます。

選択の再使用を有効化しない方がよい例として以下の場合があります。制限されたアクションリストによって CMYK オブジェクトが選択され、プロファイルが CMYK を RGB に変換する場

合、変換後に制限アクションリストの結果が PDF の変更状態と一致しない可能性があるため、選択を再使用しない方がよいと思われます。

注: 有効化した方がよいか分からない場合は、プリフライトプロファイルを実行して、結果が予想通りかどうかを確認してください。

13.3.1.4. チェックの設定

[チェック対象]セクションでは、どの問題が検出されるべきか（および必要に応じて修復するか）を示します。

プリフライトプロファイルでチェックを設定する手順

1. チェック対象の下のカテゴリ、例えばPDF 標準または文書をクリックします。
2. このカテゴリのチェック（の一部）を特定の選択に制限するかどうかを決定します。
   - チェックが文書全体に適用される場合は、制限なしがタブの左上端のリストから選択されます。
   - チェックが文書の特定の部分に適用される場合は、タブの左上端のリストから制限を選択します。
   - リストにはない制限が必要な場合は、新しい制限をインポートします。「制限のインポート 107 ページの」を参照してください。
   - PitStop 2017では、PDF標準カテゴリのみ制限できません。このカテゴリには、ドキュメント全体に適用され特定の選択に限定できない一体型のチェック（PDF/X準拠チェックなど）もあります。このカテゴリで定義された制限で古いプリフライトプロファイルを読み込む場合、読み込んだプロファイルでは関連する項目が無効になります。
3. <選択した制限>のチェックを有効化または制限なしでチェックを有効化ボックスを必要に応じて選択します。

   これで、ペインの左側のチェックがアクティブになります。灰色で表示されなくなります。
4. PDF/X Compliancy（PDF標準カテゴリ）またはBinding（文書カテゴリ）など、プリフライトプロファイルに追加するプロファイルチェックをダブルクリックします。

   チェックに関する詳細情報を見るには、マウスカーソルを上に合わせます。追加情報のツールチップが表示されます。

   ヒント: *Enfocus Webサイト*のすべてのチェックの概要を確認できます。該当する製品の製品ページに移動し、マニュアルタブをクリックします。

   有効なチェックは右側に表示されます。
5. 各チェックを個別に次のように設定します。

エリア/ボタン	次の手順を実行します。
検出する問題の下	必須値を入力または選択するなど、チェックする内容を正確に指定します。

エリア/ボタン	次の手順を実行します。
タイプの下	検出された問題をプリフライトレポートにリストする方法を示します。 • 警告 : 警告は、深刻な問題ではないですが、情報を知っておいたほうが良い場合に使われます。Certified PDFワークフローでは、警告はブロックしません。 • サインオフ : 問題が[サインオフ]に設定されている場合、ユーザは問題を警告として処理してサインオフするか決めることができます。これにより、PDFをプリフライトに通すことができます。サインオフはCertified PDFワークフローでのみ可能です。 • エラー : エラーは深刻な問題として扱われます。Certified PDFワークフローでは、PDFが承認されるのをブロックします。 • 情報 : タイプが「情報」に設定されている場合、メッセージは単なる情報提供です。
自動的に修正の下	PitStopが検出された問題を自動的に修正する場合は、このチェックボックスを選択し、（該当する場合は）必要な詳細を入力する必要があります。 注: 問題を記録だけし、まだ修正しないか、Enfocusナビゲータを使用して問題を手動で修正できます。この場合、チェックボックスを選択しないでください。
	プリフライトプロファイルに表示されるメッセージをカスタマイズするには（該当する問題が検出される場合）、このボタンをクリックします。これは、「デフォルト」メッセージが技術的で、理解しやすくする場合に有用です。デフォルトメッセージが修正された場合、ボタンが変わります（小さいチェックボックスが追加されます）。 詳細については、レポートメッセージのカスタマイズ 112 ページのを参照してください。
	このボタンをクリックし、アクティブなタブからチェックを削除します。
	修正された値の代わりに、変数を使用してチェックを設定できます。例えば、プリフライト中の各文書に対して調整する必要がある修正された最小テキストサイズを入力するのではなく、変数「テキストサイズ」を使用できます。このプロファイルでプリフライトチェックを実行すると、ダ

エリア/ボタン	次の手順を実行します。
	イアログがポップアップ表示され、特定の文書の必要なテキストサイズを定義できます。 注: これらの変数がタブのすべてのチェックで使用される場合、タブの右上端のアクションリンクをクリックし、変数名の有効化を選択します。 詳細については、プリフライトプロファイルでのチェックに変数を適用 111 ページのを参照してください。

6. チェックおよび/または修復する、選択したカテゴリのそれぞれの問題について、これまでの手順を繰り返します。

7. 別のセットのチェックに異なる制限が必要な場合は、をクリックして、新しいタブを追加し、該当する制限を選択します。各タブのチェックを個別に設定する必要があります。

   注: プラスボタンが灰色表示の場合、すべての（インポートされた）制限はチェックのカテゴリで既に使用されています。追加のタブを追加する場合は、まず、新しい制限をインポートする必要があります。これにより、プラスボタンがアクティブになり、その制限の新しいタブを追加できます。

プリフライトプロファイルでのチェックに変数を適用

変数では、1つのプリフライトプロファイルで異なるジョブとジョブタイプを処理できます。固定値の使用ではなく、プリフライトプロファイルの実行時に定義される変数を入力します。

プリフライトプロファイルで変数を使用する前に、スマートプリフライト変数で変数セットを定義する必要があります。詳細については、Enfocus WebサイトのPitStop Proリファレンスガイドの「スマートプリフライト」の章を参照してください。このトピックでは、プリフライトプロファイルに変数を追加する方法について説明しています。

プリフライトプロファイルでの変数の使用

1. プリフライトプロファイルで、チェック対象を開きます。これは変数を使用するカテゴリです。

2. 次のいずれかを実行します。
   - 変数がタブのすべてのチェックで使用される場合、タブの右上端のアクションリンクをクリックし、変数名の有効化を選択します。ボタンが、制限なしでチェックを有効化または<制限>のチェックを有効化チェックボックスの横に表示されます。
   - 特定の1つのチェックで変数を使用する場合は、該当するチェックの属性で、変数名ボタンの有効化をクリックします。ボタンが、関連するときに各プロパティの横に表示されます。

3. 変数を使用するプロパティの横にあるをクリックします。

   このボタンは、チェックに変数が適用される場合にのみ表示されます。

4. 変数の選択ダイアログで、選択した変数セットから変数を使用がオンになっていることを確認し、必要に応じて変数セットを選択します。

5. 該当するプロパティで使用する変数をダブルクリックします。

   該当するプロパティに必要なタイプに一致する変数だけが表示されます。例えば、ページ幅を定義する場合は、タイプ長さの変数が必要です。

   変数の名前はプリフライトプロファイルに表示されます。

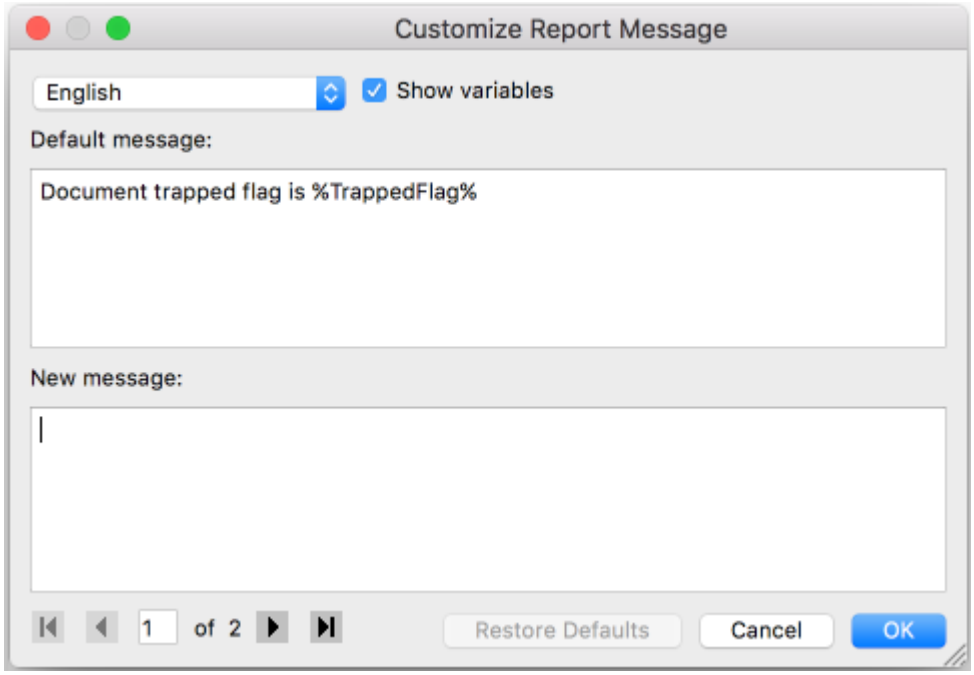
レポートメッセージのカスタマイズ

プリフライトレポートとEnfocusナビゲータのデフォルトメッセージは、複数の方法でカスタマイズできます。例：

- デフォルトテキストの再フレーズ
- その他の情報の追加（問題の場合の対応など）
- 詳細Webページへのリンクの追加

その場合は、次の手順に従います。

1. 該当するチェックの属性で、レポートメッセージのカスタマイズボタンをクリックします。
   [レポートメッセージのカスタマイズ]ダイアログが表示されます。



2. 上部のリストから、メッセージを変更する言語を選択します。

   PitStop言語に関係なく、特定のメッセージを表示するには、すべてを選択します。

   デフォルトメッセージは最初のフィールドに表示されます。メッセージに変数が含まれる場合は、変数の表示を選択すると、表示されます。変数は%記号で囲まれています。最終結

果（変数が実際の値で置換）をプレビューするには、もう一度チェックボックスをオフにします。

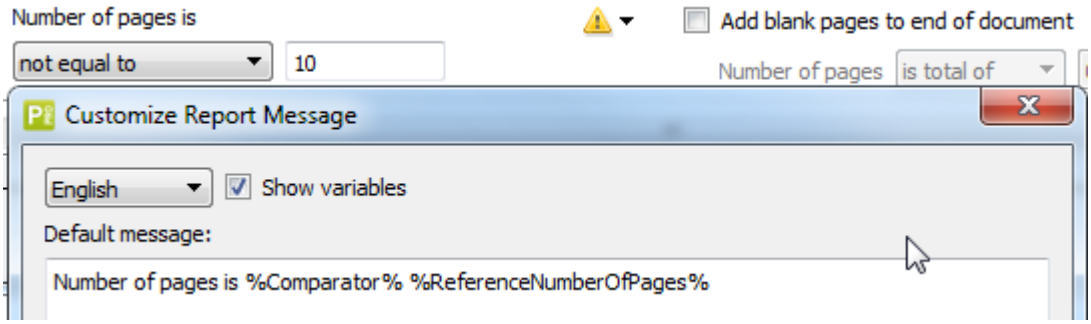
3. 2番目のフィールドに新しいメッセージを入力します。

   入力しない場合、デフォルトメッセージが使用されます。

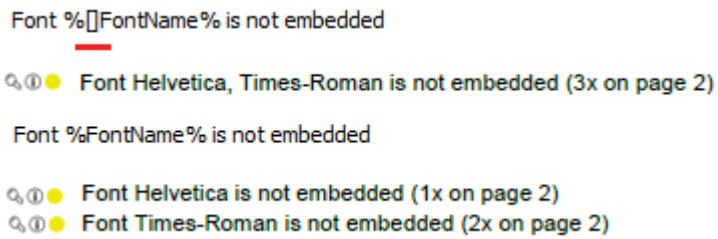
   ヒント: 最初のメッセージの2番目のフィールドにコピーすることをお勧めします（変数の表示がオンになっていることを確認）。この方法で、変数が正しく書き込まれます。変数に誤字がある場合は、そのように認識されず、固定文字列と見なされます。

   特殊ケース

   - ビルトイン設定変数はチェックの属性のオプションを参照します。変数の表示チェックボックスをオフにすると、参照内容を表示できます。次の例では、%Comparator%はリストから選択した値（「等しくない」）を参照し、%ReferenceNumberOfPages%は入力値を参照します。



   - 変数内の「[]」などの角括弧は、PDFの検出内容に応じて、変数が1つ以上の値で置換されることがあることを示します。例えば、「%[]fontName%」は、メッセージで複数のフォント名が使用できることを意味します。このように書き込まれると、フォント名が次々に一覧表示されます。角括弧が削除されると、各フォント名の個別の行に別のメッセージが表示されます。以下の例を参照してください。



   - 変数内に「[...]」などの**3**つのドットを囲む角括弧は範囲を表します。例えば、%[...]ActualPointSize%は、文書内で検出された最も小さいポイントサイズと最も大きいポイントサイズが3つのドットで区切られてメッセージで使用されることを意味します。間の値は使用されません。3つのドットを削除すると、文書のすべての値が使用され

ます（カンマ区切り）。あるいは、角括弧を削除すると、ポイントサイズ値ごとに1つの個別のメッセージが作成されます。以下の例を参照してください。

Text of %[...]ActualPointSize% pt is %Comparator% %ReferencePointSize% pt

Text of 2...15.96 pt is more than 1 pt (307x on page 1)

Text of %[]ActualPointSize% pt is %Comparator%

Text of 2, 3, 10, 11.04, 12, 14.04, 15.96 pt is more than 1 pt (307x on page 1)

Text of %ActualPointSize% pt is %Comparator% %ReferencePointSize% pt

Text of 10 pt is more than 1 pt (2x on page 1)
Text of 11.04 pt is more than 1 pt (258x on page 1)
Text of 12 pt is more than 1 pt (13x on page 1)
Text of 14.04 pt is more than 1 pt (30x on page 1)
Text of 15.96 pt is more than 1 pt (2x on page 1)
Text of 2 pt is more than 1 pt (1x on page 1)
Text of 3 pt is more than 1 pt (1x on page 1)

注: 1つのドットを省略するか、4つのドットを書き込む場合、正しい表記を使用してこれが機能することを必ず確認してください。

- レポートメッセージにリンクを表示する場合、URL (e.g. http://www.enfocus.com)を入力します。ユーザーがプリフライトレポートでこのURLをクリックすると、対応するWebページが開きます。

- **%Context%**変数は特別な変数で、触れてはいけません。PDF 規格チェックのような、複数のサブチェックがあるグローバルチェック（それぞれが独自のメッセージを持つ）の場合、プレースホルダとして使用されます。たとえば、「PDF/X-3:2002 : %Context%」は複数のメッセージを生成し、各メッセージは「PDF / X-3 : 2002 : 」で始まり、その後に該当するメッセージが続きます。ダイアログの下にあるナビゲーションボックスをクリックすると、すべてのメッセージは表示（また、必要に応じてカスタマイズ）されます。

- 少数のメッセージをカスタマイズできません。これらは「オンザフライ」生成されないためです。このようなメッセージの場合、「このアクションにはカスタマイズ可能なメッセージありません」という警告が表示されます。

4. ダイアログ下部のナビゲーションボックスをクリックして、同じチェックから発生する他のメッセージに移動して、同じように構成します。

   これは、チェックに複数の個別のオプションがある場合です。例えば、「ページを空にする」チェックでは、ページ全体が空かどうか、特定のページボックス内が空かどうかをチェックできます。これらのオプションのそれぞれで、個別のメッセージを使用できます。デフォルトの復元はこれらのメッセージをすべてリセットします（表示されていないものも含む）。

5. **[OK]** をクリックします。

プリフライトプロファイルでは、ボタンが変更されました ( )。デフォルトメッセージに戻る場合は、ボタンをもう一度クリックし、デフォルトの復元を選択します。

13.3.1.5. プリフライトプロファイルへのアクションの追加

プリフライトチェックを行う前に、例えばカラーを修正または変更するアクションリストを実行するなど、PDF文書を編集する必要がある場合があります。これらのアクションリストを個別に実行してからプリフライトチェックを実行するほかに、これらをプリフライトプロファイルに含めることができます。これは一石二鳥の方法です。

- 最初に、埋め込まれたアクションリストで定義された変更点が適用されます。
- 次に、埋め込まれたアクションリストで定義されたチェックが適用されます。
- 最後に、プリフライトプロファイルに含まれる変更点とチェックが適用されます。

アクションリストをプリフライトプロファイルに追加する手順

1. Enfocusプリフライトプロファイルエディタの追加の下で、アクションリストカテゴリをクリックします。
   ダイアログの上部分では、「変更」アクションのみを含むアクションリスト、下半分では「チェック」アクションのみを含むアクションリストを追加できます。
2. 文書の特定の部分にアクションを制限する場合は、ペインの上でリストから制限を選択します。
   - リストにはない制限が必要な場合は、新しい制限をインポートします。（制限のインポート 107 ページのを参照してください。）
   - 別のセットのアクションリストに異なる制限が必要な場合は、をクリックして、新しいタブを追加し、該当する制限を選択します。
3. 必要なアクションリストを追加します。
   プリフライトプロファイルエディタから既存のアクションリストをインポートするか、または新しいリストを作成できます。アイコンの意味は次の表を参照してください。

アイコン	これらのアイコンは以下に使用します:
	アクションリストが実行される順番を変更します。 注: アクションリストが複数ある場合、順序を変えて実行すると結果が変化する場合があります。必要に応じて事前にテストしてください。
	変更した後などに、アクションリストの取り込みまたは書き出しをします。
	アクションリストを編集します。 注: プリフライトプロファイル内のアクションリストのコピーを編集できます。アクションリスト内のバージョンは変更しません。
	選択したアクションリストを削除します。

アイコン	これらのアイコンは以下に使用します:
	プリフライトプロファイルエディタで作成した新しいアクションリストを追加します。

デフォルトでは、追加されたアクションリストは有効であり、プロファイルを実行する際にはこれらのアクションリストは常に実行されます。必要に応じて、プリフライトプロファイルの**[On/Off]**チェックボックスのチェックを解除し、アクションリストを手動で無効にすることができます。この場合、実行されません。

また、アクションリストを変数に基づいて有効にすることができます。つまり、プリフライトチェックを実行する際、アクションリストを実行するかどうかが変数の値によって決定されることになります。Enfocus WebサイトでPitStop Serverリファレンスガイド（スマートプリフライトの章を参照）を参照してください。

4. 変数を使用して、プリフライトプロファイルのアクションリストを有効または無効にするには以下の手順に従います。

a. プリフライトプロファイルエディタの右上端でアクションメニューをクリックします。

b. [変数の名前を有効化]をクリックします。
変数ボタンが[On/Off]チェックボックスとアクションリストの名前の間に表示されます。

c. 変数を使用するアクションリストの横にあるをクリックします。

d. 変数セット（デフォルトが目的と異なる場合）、変数を選択し、**[OK]**をクリックします。
[変数ユーザー読み取り可能名]が変数ボタンの角括弧内に表示されます。

変数をすべてのアクションリストに使用しない場合は、変数ボタンをそのままの状態で残します。**[On/Off]**チェックボックスのステータスによって、アクションリストが有効にされるかどうかを決定します。

13.3.2. プリフライトプロファイルをパスワードでロックする

プリフライトプロファイルまたはその一部をパスワードで保護すると、他のユーザーによる設定の変更を防止できます。これは、プリフライトプロファイルを複数のユーザーの間で共有する環境で役に立ちます。パスワードは、プリフライトプロファイルの作成時に作成してロックすることも、後でパスワードだけを追加することもできます。

1. プリフライトプロファイル パネルを開きます。

「*PitStop Serverのプリフライトプロファイルの場所* 96 ページの」を参照してください。

2. ロックするプリフライトプロファイルをダブルクリックします。

3. **Enfocus**プリフライトプロファイルエディタで、設定 - 全般セクションを開きます。

4. 権限セクションで、プロファイルリストから該当する権限レベルを選択します。

制限レベル	意味
[ロックなし]	プリフライトプロファイルの設定は一切ロックされません。誰でも全ての設定を変更できます。

制限レベル	意味
[部分的にロック]	リストの下にあるオプションを使い許可したアクションを除き、全てがロックされます。 • 「修復を許可」の変更を許可する（[問題の処理]内） • 「サインオフを許可」の変更を許可する（[問題の処理]内） • 「ログ修正」の変更を許可する（[問題の処理]内）、「プリフライトレポート」の変更を許可する（[プリフライトレポート]内のオプション）、「カラーマネージメント」設定の変更を許可する（全般ではなく[セットアップ - カラーマネジメント]内）。
[ロック]	何も変更できません。ユーザーはプリフライトプロファイルを選択し、 PDF文書で実行することのみ可能です。

5. パスワードを設定する場合、[パスワードを設定]をクリックします。
6. パスワードを入力して確認します。

   パスワードには次の文字を含めることができます。

   - 大文字と小文字の英字
   - キーボード上の全文字
   - スペース
7. **[OK]** をクリックします。
8. プリフライトプロファイルを保存するには、**[OK]**をクリックします。

13.4. スマートプリフライト

13.4.1. スマートプリフライトについて

スマートプリフライトは、1つのプリフライトプロファイルだけを使用して、多くの異なるジョブタイプと仕様を処理できる機能です。これは、変数の使用によって可能になります。

たとえば、プリフライト設定の1つがページサイズを確認する場合、最も一般的に使用されるページサイズ（A4など）をデフォルトとする変数を使用して1つのプロファイルを定義すれば十分です。異なるページサイズの文書タイプが発生する場合（リーフレットや新聞など）、必要なページサイズを定義済みリストから選択するか、プリフライトチェックの実行時に表示されるダイアログで（変数の定義方法に従い）該当する値を入力できます。

変数には次の3つのタイプがあります。

- 定数変数は、ユーザー入力（上記の例ではPitStop Pro）またはジョブチケットまたはデータベース（PitStop Server とConnect）から値を取得する変数です。

- **PitStop Pro**では、プリフライトチェックを実行する直前にダイアログが表示されます。必要な値を手動で入力できます。
- **PitStop Server**では、XML/JDFジョブチケットとPDFを送信する必要があります。このジョブチケットの情報（ページサイズなど）は、変数の値を決定するために使用されます。
- **PitStop Server** コンフィギュレータ (Switchで使用) では、ジョブチケットまたはデータベースから情報を取得できます。
- **Connect**では、Connectorによって処理された各文書のジョブ情報を収集するジョブチケットを作成できます。このジョブチケットのメタデータは、変数の値を決定するために使用されます。

- 計算に基づく変数は、乗算、除算、減算、合算などの特定の値（固定値または変数）によって値が計算される変数です。

  たとえば、大判印刷では、必要な解像度はビューイング距離によって異なり、距離が大きいほど、必要な解像度は低くなります。最適な解像度は、計算変数で計算できます。

  他の例はポイントサイズです。大きなポスターを小さなディスプレイで見る場合、ポイントサイズは小さくします。最適なポイントサイズは、標準値（固定値）を（変数に格納されている）スケーリングファクタで割って計算できます。

- 規則に基づく変数は、他の変数に値が基づいている変数です（すべてのEnfocus製品で可能）

  たとえば、プリフライトプロファイルのインク適用量を確認するとします。最適なインク適用量は、用紙タイプや印刷方法など、さまざまな要因によって異なります。変数がない場合、各用紙と印刷方法の組み合わせ、固定総インク適用量ごとに、異なるプロファイルを定義する必要があります（例：非コート+シートフィードリソグラフのプロファイル1、コート+シートフィードリソグラフのプロファイル2など）。ただし、変数を使用すると、1つのプロファイルを定義し、ジョブの必要な情報（用紙タイプと印刷方法）を入力し、最適なインク適用量を実行時に計算できます。

異なるタイプの変数を組み合わせることができます（定数変数のドロップダウンに基づいて計算される規則に基づく変数）。これにより、1つのユーザー入力 (PitStop Pro) またはジョブチケットまたはデータベースの1つの値のみに基づいて、複数のチェックと修正を設定できます。

	定数 ユーザー入力	定数 ジョブチケット	定数 データベース	規則に基づく	計算に基づく
PitStop Pro	✔			✔	✔
PitStop Server		✔		✔	✔
Enfocus Switch と PitStop Server の組み合わせ*		✔	✔	✔	✔
Enfocus Connect/ Connector		✔	✔	✔	✔

* *PitStop Server*コンフィギュレータは、*Switch* 変数をサポートします。スマートプリフライト変数：タイプ *123* ページのを参照してください。

注: 変数は、プリフライトと同様に、アクションリストで使用できます。

13.4.2. スマートプリフライトの使用の開始

変数と変数セット

スマートプリフライトの操作を行う前には、使用する変数を定義し、変数セット（書き出しおよび取り込み可能なファイル形式）に保存する必要があります。

プリフライトプロファイルを定義するときには、この変数セットから必要な変数を選択できます。別の変数セット（別の文書タイプまたは別のEnfocus製品の別の変数セットを定義する場合など）を作成できます。また、変数セットには任意の数の変数を含めることができます。ただし、1度に適用できる変数セットは1つだけです（PitStop Serverのホットフォルダごとに1つ、PitStop Proの1つのアクティブ変数セットなど）。また、該当するプリフライトプロファイルで使用される変数セットと一致する必要があります。

注: PitStop Pro と PitStop Server では、プリフライトプロファイルまたはアクションリスト同様、同一のスマートプリフライト変数セットを共有できます。ただし、一部の変数タイプはPitStop ProまたはPitStop Serverでのみ動作します。サポートされていない変数はデフォルト値を使用するか、エラーになります。

プリフライト設定を変数として設定する方法を決定するには

優れた候補は、次のようなジョブからジョブへ変更できるプリフライト設定です。

- トリム ページ サイズ
- 総インク適用範囲
- 定義済みカラーの数

多くの場合は同じであるプリフライト設定は、固定値としてより効率的に設定できます。例：

- フォントの埋め込み
- セキュリティ設定
- 文書には分版されたページが含まれています

はじめに

次のトピックでは、変数セットを設定し、プリフライトプロファイルで変数を使用する方法について段階的に説明します。

13.4.3. スマートプリフライトの設定

13.4.3.1. スマートプリフライト設定：概要

このトピックでは、スマートプリフライトの設定と使用に必要な手順について説明します。

1. 変数セットの設定：
   a. 変数セットを作成する。

b. 使用する変数を定義する

2. 変数セットの適用
3. 任意でジョブチケットの使用を有効にする
4. プリフライトプロファイルでの該当するチェックに変数を適用
5. 定義済みの変数を使用してプリフライトプロファイルを実行する

13.4.3.2. 変数セットの設定

変数セットの作成または編集

プリフライトプロファイルまたはアクションリストで変数を使用するには、変数セット（必要な変数が含まれる）が必要です。新しい変数を作成するか、既存の変数を再利用できます（必要に応じて新しい変数を追加するなど）。

重要:

- 複数の変数セットを作成できますが、1つのセットにすべての変数を保持することをお勧めします。PitStop ProとPitStop Serverの両方を使用している場合にのみ、別のセットを使用することを検討できます。ただし、単一のプリフライトプロファイル内で異なる変数セットに含まれる変数を使用すると、「アクティブな」（適用済み）変数セットの変数のみでデフォルト値が使用されます。非アクティブな変数セットの変数は空白になります。
- SwitchでPitStopコンフィギュレータと変数セットを使用しますか。Switch変数にアクセスするには（スマートプリフライト変数：タイプ 123 ページのを参照）、（PitStop Serverではなく）Switchで変数セットを編集する必要があります。

  詳細については、「Switchリファレンスガイド」を参照してください。

変数セットの作成または編集の手順

1. ウィンドウ > 変数セットを選択します。
   この操作によって、[変数セット パネル] が表示されます。このパネルには、インストールされているすべての変数セット、定義済みのローカル変数セットが表示されます。
2. 次のいずれかを実行します。
   - 既存の変数セットを編集するには、該当するセットをダブルクリックします。
   - 新しい変数セットを作成するには、アクションメニュー（ ）から、新規 > 新規を選択します。

   Enfocus 変数セット エディタが表示されます。
3. 該当する詳細（わかりやすい名前と説明）を入力し、必要に応じて変数セットをロックします。

   変数セットのロック（オプション） 121 ページの を参照してください。
4. 任意の変数を定義します。

スマートプリフライト変数の定義 121 ページの を参照してください。

5. このセット内の変数の順序を変更するには、次のいずれかを行います。
   - 変数をドラッグアンドドロップで好きな位置に移動させます。
   - 変数を選択し、上下の矢印で他の位置に移動させます。
6. [保存] をクリックします。
   新しい変数セットは、ローカルPitStop Serverフォルダに保存されます。

注: 「ローカル」のフォルダは、他のEnfocusアプリケーションと共有されます。

変数セットのロック（オプション）

変数セットのロックは、Enfocus 変数セット エディタで変数セットを開いたときに、単に他のユーザが変数セットを編集したり、完全な詳細を閲覧できなくすることを目的としています。

変数セットをロックするには

1. 変数セットを開きます。
   変数セットの作成または編集 120 ページの を参照してください。
2. Enfocus 変数セット エディタでを設定 > 全般をクリックします。
3. 権限リストからロックを選択します。
4. パスワードを入力して確認します。
   必要に応じて、パスワードの変更ボタンをクリックすると、いつでもパスワードを変更できます。
5. **[OK]** をクリックします。
6. [保存] をクリックします。

変数セットがロックされます。変数セットの詳細を編集または表示する場合は、ロックアイコンをクリックして、正しいパスワードを入力します。

スマートプリフライト変数の定義

プリフライトプロファイルで使用するスマートプリフライト変数は、使用する前に定義する必要があります。このトピックでは、新しい変数を作成および定義する方法を説明します。

スマートプリフライト変数の定義手順

1. 新しい変数を含む変数セットダイアログが開きます。
   変数セットの作成または編集 120 ページのの手順1を参照してください。
2. Enfocus変数セットエディタの左側の変数の下で、⊞をクリックします。
3. 新しい変数に必要な詳細を入力します。

フィールド	意味
名前	変数が目的とするチェックなど、わかりやすい名前を選択します。 この名前は、変数がチェックまたは修正に適用されるときに、プリフライトプロファイルエディタまたはアクションリストエディタに表示されます（プリフライトプロファイルでのチェックに変数を適用 135 ページのを参照）。このため、この名前はできるかぎり短くすることをお勧めします。 ヒント: PitStop ServerおよびXML/JDFデータフィールドで使用するには、フィールドを反映する名前を選択できます。
ユーザーの読みやすい名前	変数名が技術的すぎる場合や短すぎてわかりにくい場合は、このフィールドを使用します。
タイプ (最初のリスト)	該当するタイプを選択します。スマートプリフライト変数：タイプ 123 ページのを参照してください。
タイプ (2番目のリスト)	この変数によって生成された値のタイプ。たとえば、トリム ページ サイズの変数を作成する場合、「長さ」変数タイプを定義する必要があります。チェックボックスの選択または選択解除を行う必要のある変数 (たとえば、修正をオンにするため) では、ブール変数タイプを定義する必要があります。各オプションの例： • 数値：ページ カウント、分版数など • 長さ（測定フィールド数など）- ページトリムサイズ、ブリード量など • 文字列：メタデータ フィールドのエントリ • ブール：チェックボックスの選択 注: 変数タイプが目的のプリフライト チェック設定と一致していることが重要です。変数をプリフライト チェック設定に適用する場合、入力のタイプと一致する変数のみが表示されます。
タイプ (3番目のリスト)	変数タイプ「長さ」とジョブチケットを組み合わせる場合、3番目のリストが使用でき、「ポイント」、「インチ」などの該当する単位を選択できます。 注: デフォルト値フィールド（下）に表示される単位は、該当する環境設定によって異なります。
説明	任意で、簡単な説明を入力します。

4. ダイアログの下側のフィールドで続行します。

手順のこの部分は選択した変数タイプによって異なります。

- 定数変数定義 124 ページの。
- 計算に基づく変数の定義 125 ページの。
- 規則に基づく変数の定義 127 ページの。
- ジョブ チケット変数定義 130 ページの。

注: 変数の例については、スマートプリフライト変数セット - PitStop Pro - v1.4を確認します。(標準 > スマートプリフライトの下)。

5. をクリックして、変数がユーザーに表示される方法を確認します。
   「変数セットの変数をテストまたは検証する 133 ページの」を参照してください。このオプションはSwitchでは使用できません。
6. [保存] をクリックします。

スマートプリフライト変数：タイプ

変数の定義中には、タイプを選択する必要があります。以下の表は、アプリケーションごとに使用可能な変数タイプの概要を示し、意味について説明します。

タイプ	意味	アプリケーション
一貫性	PitStop Proでは、定数変数フィールドをプリフライトチェックに適用する場合、オペレータはプリフライト チェックを実行する前に表示されたデフォルト値をオーバーライドできます。定数は、文字列、数値、長さ (測定値など)、またはブール値 (はい/いいえ、またはオン/オフ) のいずれかです。 定数変数はPitStop Serverにあり、PitStop Proと互換性があります。デフォルト値のみが処理で使用されます。PitStop Server はファイルを 100% 「ハンドオフ」の形で処理することを目的としているため、処理時には値を上書きする一切の選択を行うことができません。	PitStop Pro/Server Switch と PitStop Serverコンフィギュレータの組み合わせ Enfocus Connect
規則に基づく	規則に基づく変数では、他の変数から値を取得し、異なる条件に基づいて新しい値を作成できます。たとえば、用紙タイプと印刷方法を表す変数を両方使用し、必要な総インク適用範囲の値を定義できます。	PitStop Pro/Server Switch と PitStop Serverコンフィギュレータの組み合わせ
計算に基づく	計算に基づく変数により計算をすることが可能になります。必要に応じて、固定値や変数値を乗算、除算、減算、合算できます。	PitStop Pro/Server Switch と PitStop Serverコンフィギュレータの組み合わせ Enfocus Connect
ジョブ チケット	ジョブ チケット変数は、PDF ジョブ ファイルと併せて PitStop ServerまたはConnector に送信された XML/	PitStop Server

タイプ	意味	アプリケーション
	JDF ジョブ チケット ファイルから抽出されます。この変数では、単一の設定を変更するために使用するか、より複雑な処理で使用する規則に基づく変数にリンクすることができます。 注: PitStop Serverのジョブチケット変数はSwitchでは使用できません。ただし、ジョブチケット変数を変数またはスクリプトの式が付いたテキストに変更し、これらをSwitchの動作に合わせて変更できます。	Enfocus Connect
変数を含むテキスト	変数値は、Switch変数を使用して定義されます。この種類は、SwitchでPitStop Serverコンフィギュレータ経由で変数セットを開いた場合のみ利用できます。 詳細については、「Switchリファレンスガイド」を参照してください。	Switch と PitStop Serverコンフィギュレータの組み合わせ
スクリプトの式	変数値はJaveScriptを使用して定義されます。この種類は、SwitchでPitStop Serverコンフィギュレータ経由で変数セットを開いた場合のみ利用できます。 注: Node.jsのScriptの式はまだサポートされていません。 詳細については、「Switchリファレンスガイド」を参照してください。	Switch と PitStop Serverコンフィギュレータの組み合わせ

定数変数定義

オプション

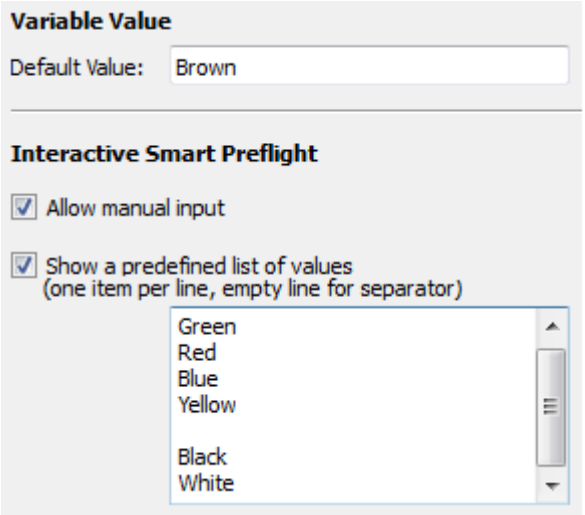
次の表は、定数固有のオプションの概要を示したものです。

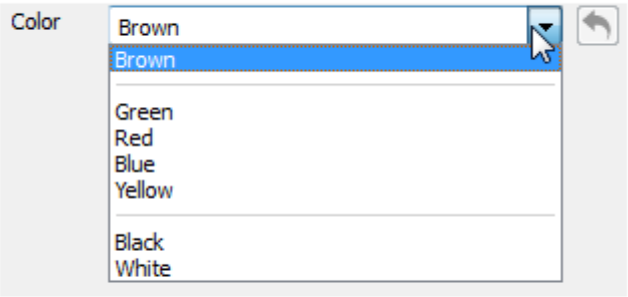
オプション	説明
デフォルト値	これは、PitStop Serverがこの変数に必要なプリフライトプロファイルまたはアクションリストを実行するときに使用される固定値。 注: PitStop Serverで使用される定数変数はユーザーが操作できません。ただし、PitStop Serverはデフォルト値のみを使用します。
手動入力を許可	プリフライトプロファイルを実行するときには、ユーザーが値を入力できます。
定義済みの値のリストを示します。	ユーザーは値のリストから定義済みの値を選択できます。 値タイプが数値または長さの場合、値をマスクし、ユーザーの代替名を指定できます。

オプション	説明
	ヒント: 値を選択し、上下にドラッグするか任意の位置にドロップすることでリストの項目の順序を変更することもできます。

例

以下に、定数変数定義（左）と、プリフライトプロファイルを実行するときにユーザーに表示される結果リスト（右）の例を示します。





。

オプションの組み合わせ

手動入力を許可と定義済みリストを表示を組み合わせることができます。次の表に、この意味を示します。

選択したオプション	意味
両方有効	ユーザーは定義済みのリストから値を選択するか、手動で値を入力できます。
両方無効	ユーザーは読み取り専用テキストボックスにデフォルト値が表示されます。変更はできません。
手動入力を許可のみを有効	ユーザーは値を手動で入力できます。選択するリストはありません。
定義済みリストを表示のみが有効	ユーザーは定義済みリストから値を選択できます。値を自分で入力することはできません。

計算に基づく変数の定義

計算に基づく変数により、特定の値（固定値および変数の両方）を乗算、除算、減算、合算して値を計算できます。

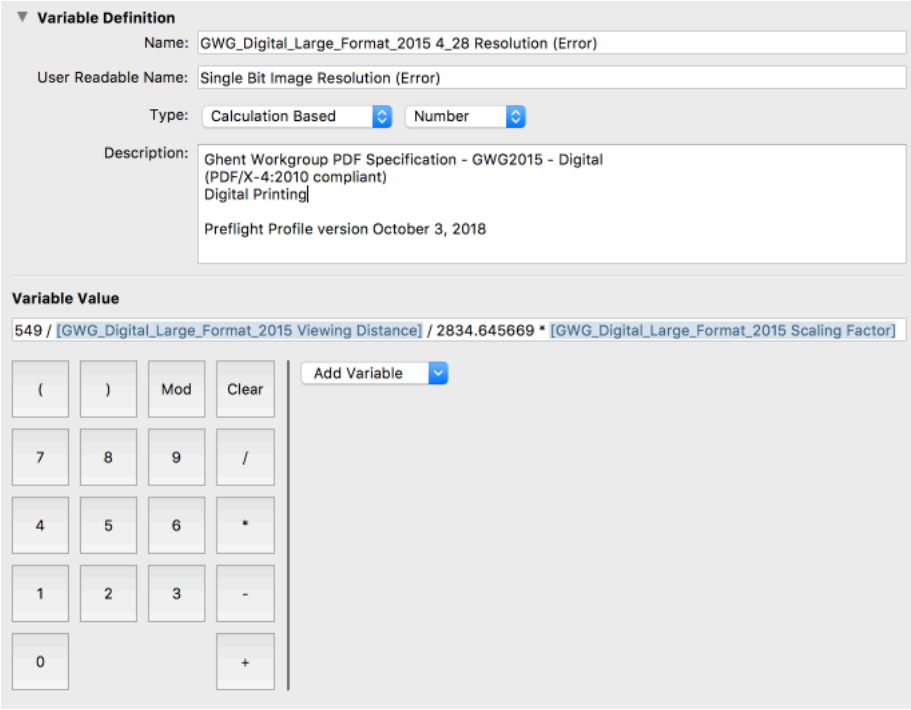
次のようにして、（変数値入力フィールド内で）計算を組み立てることができます。

- 変数値フィールドに直接値を入力できます。
- 数字と演算子を挿入するには、入力フィールドの下で計算機を使用することもできます。「クリア」はすべての入力フィールドをクリアします。
- 変数を挿入するには：
  1. [変数を追加]ボタンをクリックするか、または入力フィールドに角括弧 ([) を入力します。これにより、現在の変数セットで定義されたすべての変数を含むドロップダウンリストが開きます。
  2. 挿入する変数をクリックします。

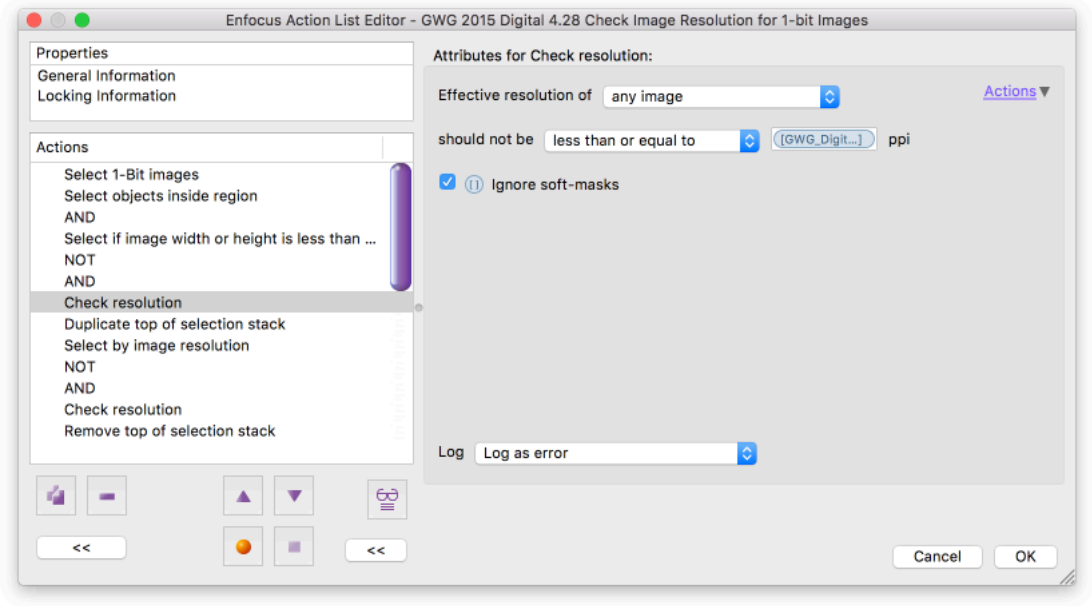
例

これは、大判の画像の解像度をチェックするために使用する計算変数の例です。これはエラーをトリガする値です。

最初のスクリーンショットは変数の定義を示します。この値は、固定値と変数値（ビューイング距離とスケーリングファクタ）を除算、乗算して計算しますが、どちらも許容される画像の解像度に影響を与えます。ビューイング距離とスケーリングファクタの変数定義は、同じ変数セットで変数として定義する必要があります。

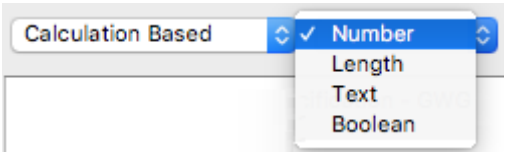


2つめのスクリーンショットは、グレースケールやカラー画像の画像解像度をチェックするために、アクションリストでどのように変数を使用するかを示しています。



さらに多くの例は変数セット1.4 (設定 > 変数セットの下)にあります。これらの変数は、パッケージ用GWGプロファイル（2015仕様）で使用するために設定されました。

備考



計算変数の最も一般的な値のタイプは数値です。しかし、プリフライト チェックやアクションで別のタイプを予想している場合は、それも可能です。たとえば、「ブール」変数の場合、計算結果は偽（0の場合）または真（0でない場合）に変換されます。「長さ」の場合、計算結果は、設定で選択した単位の値に変換されます（そのため、xポイントはcm、mm、フィート等の対応する値に変換されます）。

規則に基づく変数の定義

規則に基づく変数

規則に基づく変数の概念は、別の設定の状態に基づいて変わる値を作成する、ということになります。以下にその例を挙げます。

規則に基づく変数「画像の解像度」は次のように定義されます。

```
IF "Job type" is "Offset" THEN set "Image Resolution" to 300 ppi
ELSE
IF "Job type" is "Digital", THEN set "Image Resolution" to 150 ppi
```

規則に基づく変数は、1つ以上の規則に基づいて値を取得します。各規則には、規則をトリガーする条件 (IF) と条件がトリガーされたとき (THEN)に使用される値の2つの部分があります。

各条件には変数と値との1つ以上の比較が含まれます。上記の例では、変数「Job type」は値「Digital」と比較されます。これらの比較は「AND」および「OR」で結合し、複雑な条件を作成できます。

規則がトリガーされない場合、次の規則が試行されます。一番最後に「ELSE」規則もあり、条件のいずれも満たされない場合にトリガーされます。

規則に基づく変数は必ず**1**つ以上の他の変数と比較する必要があるため、規則に基づく変数が動作するには、必ず1つ以上の他の変数を作成する必要があります。上記の例では「Image Resolution」の値を決定するには、「Job type」変数の値を知る必要があります。PitStop Serverでは、比較する変数通常はジョブチケット変数です。PitStop Proでは、通常は、選択する定義済み変数値のリストを提供する定数変数です。

処理方法

次の手順に従います。

注: ソフトウェアの設定を開始する前に、IF/ELSE文を使用して独自の規則を作成することをお勧めします。これにより、必要な変数が明確になります。

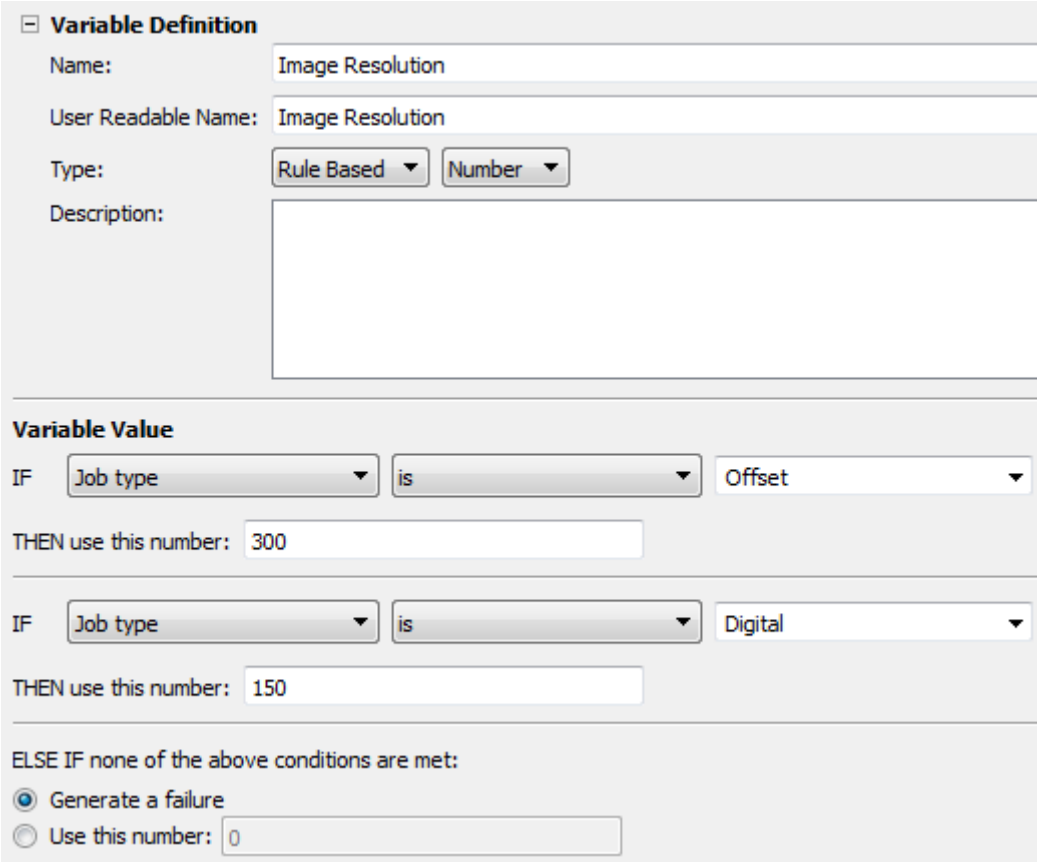
1. 任意の変数を定義します。
2. 規則に基づく変数を定義します。
   - タイプで規則に基づくを選択し、数値などの値タイプを決定します。
   - 規則の作成：
     - 最初のリスト（「IF」で始まる）では、前に定義した変数を選択できます。
     - 必要に応じて「is」、「is not」、「begins with」を選択し、該当する値を入力または選択します。前の手順で選択した変数によってオプションが変わります。
     - 該当する演算子（AND/OR）をクリックします。(選択した演算子は規則に追加されます。)

       AND/OR文は選択した規則の条件に追加され、規則は2つ以上の条件に依存するようになります。
     - 結果の値を入力/選択します（タイプは選択した値タイプによって異なります）。
     - 必要に応じて、**ELSE** をクリックして、代替規則を全体変数 (=IF) に追加し、同じ方法で続行します。
     - どの条件も満たされていない場合の処理を決定します。エラーを生成してプリフライトチェックでプリフライトエラーを発生させるか、デフォルト値を入力できます。
3. 変数セットを保存する。

例***1***

以下に、「Image Resolution」規則に基づく変数の定義を示します（値タイプ = 数値）。前に定義した変数を使用できます。可能な値として「Offset」および「Digital」を使用した定数（テキスト）変数の「Job type」です。

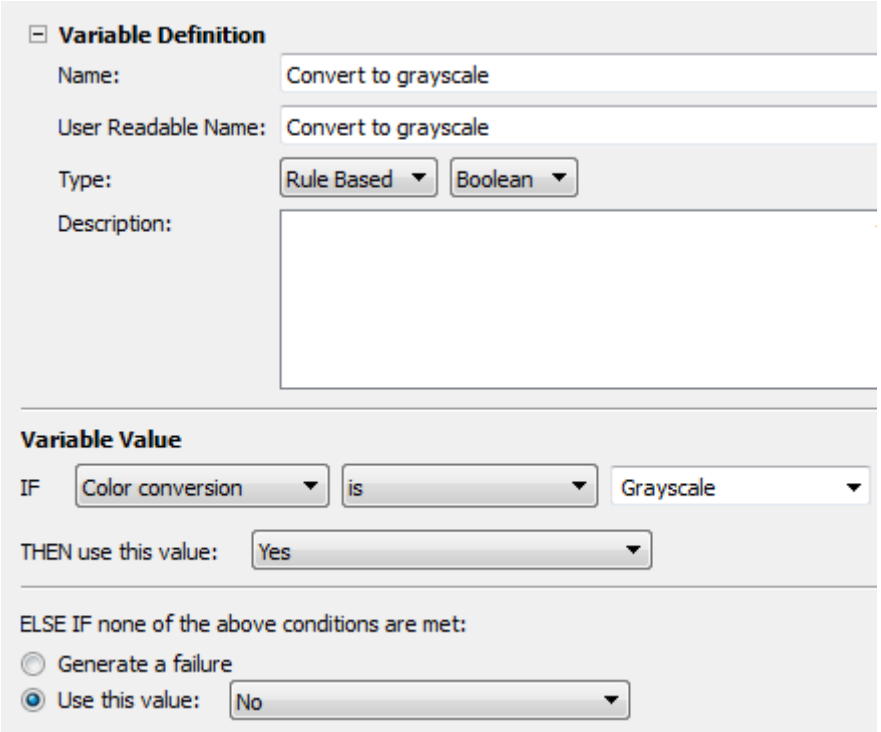
「Job type」の値によって、画像解像度が変わります（300または150）。Job typeが規則が設定されたものとは異なる場合、プリフライトエラーが発生します。



例***2***

以下に、「Convert to grayscale」規則に基づく変数の定義を示します（値タイプ = ブール値）。前に定義した変数を使用できます。可能な値として「Grayscale」を使用した定数（テキスト）変数の「Color conversion」です。

「Color conversion」変数の値が「Grayscale」の場合、「Convert to grayscale」の値が「Yes」になります。これが該当しない場合（例：カラー変換が「CMYK」）、「Convert to grayscale」の値は「No」になります（既定値）。



ジョブ チケット変数定義

ジョブ チケット変数

ジョブ チケット変数は、XML/JDF ジョブ チケット ファイルから定義されます。これらのファイルは、ジョブチケットのソースによって異なる場合があります。サンプルXML/JDFジョブチケットファイルは、変数に必要な適切なデータを簡単に見つけるために必要です。

注: XML/JDFジョブチケットを対応するPDFファイルとともに、PitStop Serverホットフォルダに送信する必要があります。指定したタイムアウト値内にPDFファイルと対応するジョブチケット間が一致しない場合、個別のPDFまたはXMLファイルは拒否され、定義済みのエラーフォルダに送信されます。

XPath

サンプルファイルからXPathを選択するには、次の手順を実行します。

1. 変数セットエディタ（変数値セクション）で、XPathフィールドに移動し、参照をクリックします。ダイアログが開きます。
2. サンプルジョブチケットファイルを選択します。内部 XPath のみが必要とされるため、サンプル ジョブ チケット ファイルはローカル システムのいずれかの場所に存在します。サンプル ジョブ チケットを選択すると、すべての内部データ フィールドが可視化されます。
3. データ フィールドを検索して、作成しているチェックに必要な正しいデータ フィールドを選択します。XPathフィールドは、選択内容に基づいて自動的に入力されます。
4. **[OK]** をクリックします。

必要な応じて、ジョブ チケットから値を返すためにより高度な方法を使用する必要がある場合は、XPath を手動で編集することもできます。

ヒント: XPath の定義および XML/JDF ジョブ チケットから取得した値は、変数セットテスター内でチェックできます。変数セットの変数をテストまたは検証する 133 ページのを参照してください。

XPath には、位置パスに対して追加の操作を実行するさまざまな関数があります。たとえば、count() は、分版数、sum()、ceiling()、floor()、string-length() などの数を調べるため、特定のノードが存在する回数を返したり、カラー ノード下にあるノード数をカウントします。XPath形式の詳細については、*http://www.w3.org/TR/xpath/*を参照してください。

テキスト操作オプション

ジョブ チケットから返された値は、プリフライトプロファイルまたはアクション リストに必要とされる結果を取得するため、編集しなければならない場合があります。次のオプションでは、必要な情報をすばやく抽出できます。

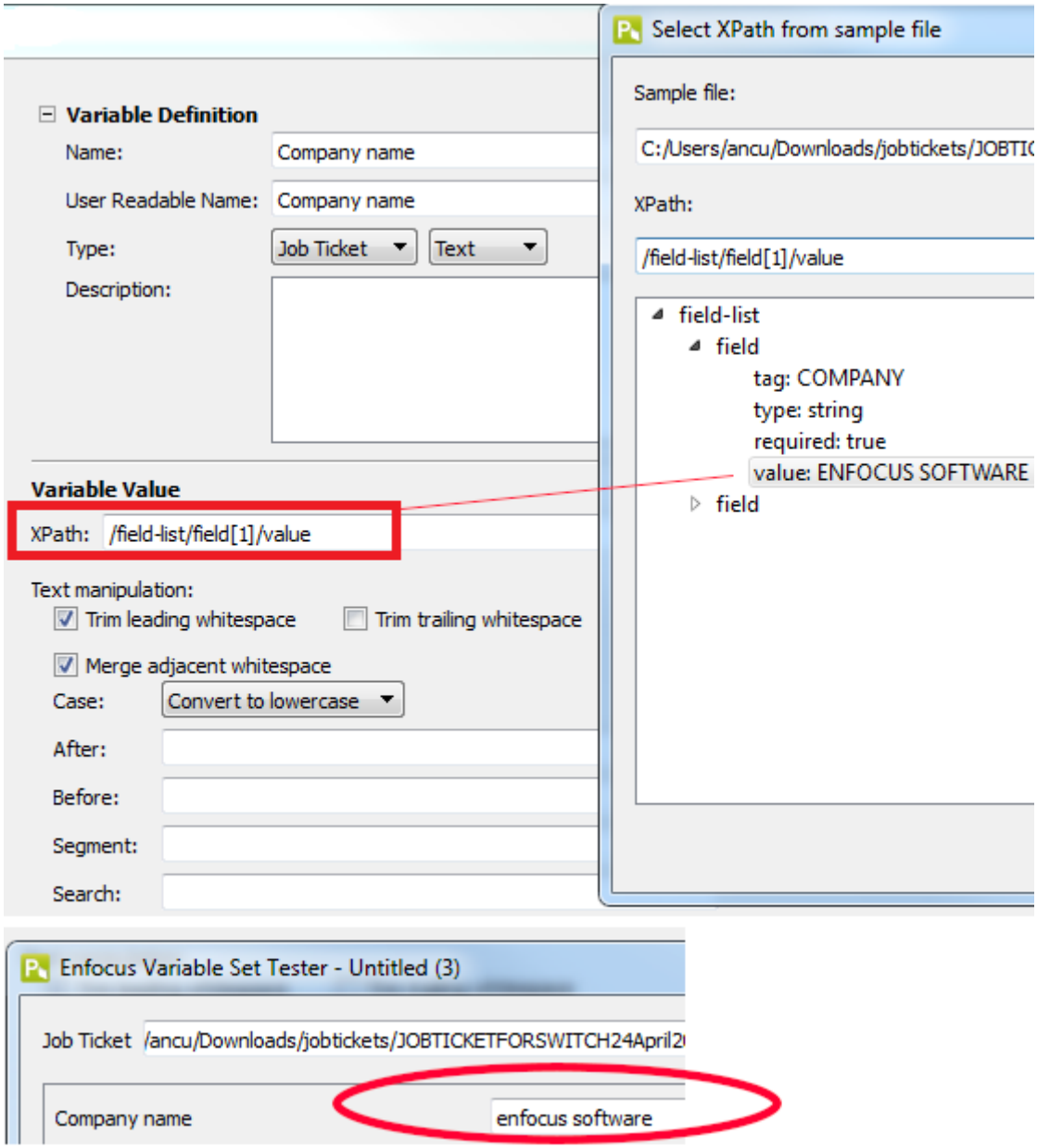
編集	説明	例
冒頭のホワイトスペースをトリム	結果の文字列の冒頭に含まれる余分のスペースを削除します。	「sample 」を「sample」に変更します。
末尾のホワイトスペースをトリム	結果の文字列の末尾に含まれる余分のスペースを削除します。	「sample 」を「sample」に変更します。
隣接ずるホワイトスペースを結合	一連の空白を1つの空白文字に統合	「Sample Text」を「Sample Text」に変更します。
大文字/小文字: 変更なし	結果を変更せずそのまま残します。	結果に対する変更は実行されません。
大文字/小文字: 小文字に変換	すべての文字を小文字に変換します。	「Sample Text」を「sample text」に変更します。
大文字/小文字: 大文字に変換	すべての文字を大文字に変換します。	「Sample Text」を「SAMPLE TEXT」に変更します。
以後	ある特定の文字またはフレーズの後ろのすべてのデータをキャプチャします。	完全な結果が「Sample Text 1234」の場合。「1234」が値として必要とします。「後」に「Text」と入力すると、結果として「1234」が返されます。
以前	ある特定の文字またはフレーズの前のすべてのデータをキャプチャします。	完全な結果が「Sample Text 1234」の場合。「Sample」が値として必要とします。「前」に「Text」と入力すると、結果として「Sample」が返されます。
セグメント	結果から特定のテキストセグメントをキャプチャできます。この操作は、1つ以上の文字位置範囲として数値として表現され、「-」を使用して範	完全な結果が「Sample Text 1234」の場合。「Text」の「T」は8番目の文字で、最後の「t」は11番目の文字です。「4」は16番目です。セグメ

編集	説明	例
	囲を定義し、「,」を使用して範囲を区切ります。	ント「8-11,16」では結果として「Text4」が返されます。
検索	結果の編集に「正規表現」(RegExp) を使用できます。元の文字列が指定した正規表現（大文字と小文字を区別）と一致する場合、結果は式と一致する文字列の一部です。	

ヒント: 修正を確認するには、変数セットテストを使用します。変数セットの変数をテストまたは検証する 133 ページのを参照してください。

例

以下で、「会社」ジョブチケット変数（テキスト）の定義を確認できます。XPathは、例の値としてENFOCUS SOFTWARE を使用した、サンプルジョブチケットを使用して設定されます。いくつかのテキスト操作オプションが選択されました。たとえば、すべての文字を小文字に変換するオプションです。結果として、変数を検証するときに、「ENFOCUS SOFTWARE」文字列が「enfocus software」に変換されて表示されます。これは、データベースのエントリと会社名を照合し、ファイル名の一部として使用する場合などに便利です。



変数セットの変数をテストまたは検証する

Enfocus 変数セット エディタでは、編集セット内の設定を確認および検証して、定義した変数セットが期待通りに機能することを確実にすることができます。たとえば、XML/JDFジョブチケットの値が正しく読み込まれるかどうかを検証できます。

注: このダイアログでは、設定を変更します。変数セットの使用をシミュレートするだけです。

変数セットの変数をテストまたは検証する

1. Enfocus 変数セット エディタでをクリックします。

現在の変数セット内のすべての変数はデフォルト値または（ジョブチケット変数の場合）読み込まれた最後のXML/JDFジョブチケットから取得された値（ある場合）を使用して表示されます。

注: デフォルトでは、変数のユーザーの読みやすい名前が使用されます。変数の名前を表示したい場合は、ダイアログの下部にあるユーザーの読みやすい名前を非表示チェックボックスを選択する必要があります。

2. 変数のさまざまな側面を検証します。たとえば、
   - デフォルト値は想定通りか。
   - 手動入力が許可または禁止されているか（設定通り）。
   - さまざまな選択肢を定義した場合、これらの選択肢は想定通りに表示されるか。
   - 規則に基づく変数の場合、正しく動作するか。
   - ジョブチケットの場合、正しい値がジョブチケットから取得されるか。

   ジョブチケット変数を使用するか。この場合、別の値のジョブチケットを使用して変数をテストできます。Enfocus変数セットテスターの上部にある参照ボタンをクリックして、別のジョブチケットを読み込みます。

   ジョブ チケット変数およびその値は、変数設定に基づくXPath式およびそのフィールドに対する変更とともにロードされたファイルに基づき表示されます。XPath 式にエラーが存在する場合や要求されたフィールドがサンプル XML/JDF ファイルに存在しない場合、変数が赤色で表示されます。ジョブ チケット値のエラーは、定義済みの編集のエラーまたは XML/JDF サンプル ファイル内のエラーの結果として発生している場合があります。XPath 式または編集のエラーは、問題の変数を編集することで修正できます。

3. 値を変更した場合は、デフォルト値をもう一度表示できます。
   - テスターですべての変数のデフォルト値を復元するには、ダイアログの下部にあるすべてのデフォルト値を復元ボタンをクリックします。
   - 1つの特定の変数のデフォルト値を復元するには、この変数の横のをクリックします。

13.4.3.3. 変数セットの適用

スマートプリフライトを使用するには、ホットフォルダエディタのアクションリストとプリフライトプロファイルカテゴリで選択されたプリフライトプロファイルまたはアクションリストで使用される変数を含む変数セットを適用する必要があります。変数セットがプリフライトプロファイルまたはアクションリストで使用されているものと一致しない場合は、ワークフローはアクティブ化されません。

変数セットを適用するには

1. PitStop Serverで、ホットフォルダエディタを開きます。
2. スマートプリフライトを選択します。
3. をクリックし、適用する変数セットを選択します。

4. **[OK]** をクリックします。

13.4.3.4. ジョブチケットの使用を有効にする

変数値がジョブチケットから取得される場合は、ホットフォルダ設定で名前を定義してください。

PitStop Serverでジョブチケットの使用を有効化するには

1. PitStop Serverで、ホットフォルダエディタを開きます。
2. スマートプリフライトを選択します。
3. ジョブチケットファイル照合の下で、該当する選択をします。
   - ジョブチケットを使用チェックボックスを選択し、関連付けられたジョブチケットファイルの名前を入力するか、変数を使用してファイル名パターンを定義します。ソースPDF ファイル名の複製およびファイル拡張子用の 2 つの変数を挿入できます。ホットフォルダはPDFファイルと一致するジョブチケットXML/JDFファイルという組み合わせで受信ファイルを処理します。両方の必要なファイルのいずれかが入力フォルダに到達している限り、PitStop Serverはもう一方のファイルを待機します。
   - タイムアウトチェックボックスを選択し、孤立した文書またはジョブチケットを拒否する前にPitStop Serverが待機する時間を指定します。孤立したファイルの移動先を決定します。フォルダが指定されていない場合は、ファイル（孤立した元のドキュメントとジョブチケット）が削除されます。
   - ジョブチケットの転送リストから該当するオプションを選択し、処理後にジョブチケットで実行する処理を指定します。ホットフォルダ設定（レポート、オリジナル、処理済み文書）のフォルダのいずれかに移動するか、削除できます。
4. **[OK]** をクリックします。

13.4.3.5. プリフライトプロファイルでのチェックに変数を適用

変数では、1つのプリフライトプロファイルで異なるジョブとジョブタイプを処理できます。異なる固定値の複数の使用ではなく、プリフライトプロファイルの実行時に定義される変数を入力します。

プリフライトプロファイルで変数を使用する前に、スマートプリフライト変数で変数セットを定義する必要があります。

プリフライトプロファイルでの変数の使用

1. [ウィンドウ] > [プリフライトプロファイル] をクリックし、該当するプリフライトプロファイルをダブルクリックします。
2. プリフライトプロファイルで、チェック対象を開きます。これは変数を使用するカテゴリです。
3. 次のいずれかを実行します。

- 変数がタブのすべてのチェックの有効化または無効化で使用される場合、タブの右上端のアクションリンクをクリックし、変数名の有効化を選択します。ボタンが、制限なしでチェックを有効化または<制限>のチェックを有効化チェックボックスの横に表示されます。
- 特定の1つのチェックで変数を使用する場合は、該当するチェックの属性で、変数名ボタンの有効化をクリックします。ボタンが、関連するときに各プロパティの横に表示されます。

4. 変数を使用するプロパティの横にあるをクリックします。

   このボタンは、チェックに変数が適用される場合にのみ表示されます。

5. 変数の選択ダイアログで、選択した変数セットから変数を使用がオンになっていることを確認し、必要に応じて変数セットを選択します。

6. 該当するプロパティで使用する変数をダブルクリックします。

   該当するプロパティに必要なタイプに一致する変数だけが表示されます。例えば、ページ幅を定義する場合は、タイプ長さの変数が必要です。

   変数の名前はプリフライトプロファイルに表示されます。

13.4.3.6. スマートプリフライト チェックの実行

プリフライトプロファイルに変数が含まれる場合は、プリフライトチェックを実行するときに、変数値をユーザーが入力できません。PitStop Serverは手動入力がない自動システムであるためです。代わりに、少なくとも変数タイプがジョブチケットの場合、値はジョブチケットから取得されます。これが該当しない場合（変数タイプが「規則に基づく」または「定数」の場合）、デフォルト値が使用されます。スマートプリフライト変数：タイプ 123 ページの も参照してください。

プリフライトが有効化されたホットフォルダに到着するすべてのPDFファイルはプリフライトされます。追加の設定は不要です。

13.4.4. アクションリストでのスマートプリフライト変数の使用

スマートプリフライト変数もアクションリストで使用できます。

13.4.4.1. アクションリストの固定値の代わりに変数を使用する

スマートプリフライト変数を使用して、アクションリストに含まれるアクションの属性を定義できます。この利点は、プリフライトプロファイルと同じです。つまり、別のアクションリストが必要ありませんが、アクションを実行する前や、ジョブチケットまたはデータベースから取得することによって、値を動的に修正できます。

このトピックでは、アクションを設定して、固定値の代わりに変数を使用する手順を説明します。

固定値の代わりに変数を使用してアクションを定義するには

1. [ウィンドウ] > [アクションリスト]をクリックし、該当するアクションリストをダブルクリックします。
2. スマートプリフライト変数を使用して定義するアクションを選択します。
3. 該当するアクションの属性の右上端にある[アクション]リンクをクリックします。
4. [変数の名前を有効化]をクリックします。

   このオプションは、該当するアクションに関連する場合にのみ使用できます。

   アイコンが、変数を使用できる場所に表示されます。
5. をクリックします。
6. 使用する変数を選択します。

   該当するフィールドで使用できる変数のみが表示されます。必要に応じて、別の変数セットを選択できます。
7. **[OK]** をクリックします。

13.4.4.2. スマートプリフライト変数でアクションリストを実行

アクションリストに変数が含まれる場合は、実行するときに、変数値をユーザーが入力できません。PitStop Serverは手動入力がない自動システムであるためです。代わりに、少なくとも変数タイプがジョブチケットの場合、値はジョブチケットから取得されます。これが該当しない場合（変数タイプが「規則に基づく」または「定数」の場合）、デフォルト値が使用されます。スマートプリフライト変数：タイプ 123 ページの も参照してください。

アクションリストが追加されたホットフォルダに到着するすべてのPDFファイルはアクションリストを使用して処理されます。追加の設定は不要です。

13.4.5. スマートプリフライトのトラブルシューティング

スマートプリフライトでの作業中に発生する可能性のある問題の解決方法を次の表に示します。

13.4.5.1. プリフライト チェックに適用可能な変数が存在しない

リリース

変数は変数セットにありますが、特定のプリフライトチェックで選択できません。

原因/コンテキスト

プリフライトチェックの設定時には、まず該当する変数セットを選択する必要があります。これに属する変数のみを適用できます。

変数は特定のタイプ（定数、規則に基づく、ジョブチケット）と値/測定タイプ（数値、長さ、文字列、ブール）によって定義されます。この値タイプは目的のプリフライトチェック設定と一致する必要があります。そうでない場合は、選択しようとしても表示されません。

修正

正しい変数セットが選択されていることを確認してください。使用する変数が別の変数セットに保存されている場合は、変数セットを切り替えるか、変数を現在選択されている変数セットに追加できます。

変数を確認し、プリフライト チェックのタイプと一致する適切な「変数タイプ」 (数値、長さ、文字列、ブール) が定義されていることを確認してください。

13.4.5.2. ホットフォルダの有効化ができない

リリース
スマートプリフライトをオンにしたホットフォルダを有効にできません。

原因/コンテキスト

現在のホットフォルダに設定されたプリフライトプロファイルで使用される変数は、そのワークフローのアクティブな変数セットに含まれる必要があります。これが該当しない場合は、ホットフォルダを有効にできません。

修正

そのワークフローのホット フォルダ セットアップのスマートプリフライト設定で、正しい変数セットが選択されていることを確認してください。

手順

1. PitStop Serverホットフォルダエディタを開き、アクションリストとプリフライトプロファイルを選択します。
2. 選択したプリフライトプロファイルの内容を確認します。

   注: このプリフライトプロファイルを開く簡単な方法：をクリックし、該当するプリフライトプロファイルをダブルクリックします。

3. プリフライトプロファイルのチェックオン：セクションに移動し、アクティブ化された変数をクリックしまうｓ。変数を選択ダイアログが表示され、使用されている変数セットの名前を確認できます。
4. この特定の変数セットもスマートプリフライトのホットフォルダエディタで選択されます。

13.4.5.3. 変数セットがサポートされていません

リリース

変数セットのインポート中に、次のエラーのいずれかが表示されます。

- この変数セットにはこのバージョンのソフトウェアでサポートされない設定があります。これらは変数セットの編集時に変更または削除可能です。
- 選択した変数セットは、新しいバージョンのアプリケーションで作成されており、使用することができません。

原因/コンテキスト

前のバージョンのソフトウェアで作成された変数セットは、常に新しいバージョンと互換性があります。これらを取り込み、必要に応じてソフトウェアの新機能を使用できます。エラーメッセージは表示されません。

使用しているものよりも新しいバージョンのソフトウェアで作成された変数セットは、新しい設定が使用されていない限りは使用できます（新しい設定は前のバージョンでサポートされていないため）。バージョンの不一致がある場合は、上記のエラーメッセージのいずれかが表示されます。

修正

変数セットを取り込める場合は、サポートされていない設定を含む変数を削除または変更します。

新しい変数セットを取り込めない場合は、ソフトウェアをアップグレード（推奨）するか、古いバージョンのソフトウェアを使用して変数セットを再作成します。

変数セットの保存中、Enfocus PitStop Proは自動的に可能な限り最低バージョン番号の変数セットを選択し、最大限の移植性を確保します。

13.4.5.4. 変数の前の赤色の感嘆符

リリース

変数セットエディタで変数セットを開くと、変数セットの1つ以上の変数の前に赤色の感嘆符が表示されています。考えられる警告：

- 変数は不明な変数タイプ...を使用し、編集できません。
- ... から得た変数は...のため、サポートされませんモジュールのライセンスがありません。

原因/コンテキスト

一部の変数タイプがすべてのEnfocus製品と互換性がありません。たとえば、「変数のテキスト」はSwitchでのみ使用できます。変数がEnfocus製品にとって「不明」の場合、使用または編集できませんが、問題もありません。

Switchでは、一部の変数タイプが特定のSwitchモジュールにリンクしています。たとえば、データベースフィールドを使用する「変数のテキスト」変数は、Switchデータベースモジュールのアクティブなライセンスがある場合にのみサポートされます。

問題は規則に基づく変数にもリンクしています。変数が、削除または無効な別の変数に基づく場合、規則に基づく変数は無効になり、赤色の感嘆符が表示されます。

修正

不明な変数を使用する場合は、変数タイプを使用している製品がサポートするタイプに変更する必要があります。

使用しない場合は、そのままにします。問題はありません。他のEnfocus製品を使用するときにもう一度使用または編集できます。

持っていないライセンスが必要な変数を使用する場合は、Enfocusに連絡してライセンスを購入してください。

無効な規則に基づく変数の場合、規則を確認し、必要に応じて依存変数を修正または再定義してください。

14. Certified PDF 文書の操作

14.1. Certified PDF について

14.1.1. PDF ワークフローの概念

Certified PDF とは、お客様の要望および業界の専門家からのフィードバックを基に、Enfocus が開発した PDF ワークフローの概念です。Certified PDF の概念は、PDF ワークフローを導入するユーザーの大多数が直面している、以下の 3 つの基本的な問題を解決するために設計されました。

- PDF 文書が特定のプリフライトプロファイルで正常にプリフライトされていることをどのように保証するのか。
- ワークフローで (小さな) 変更を PDF 文書に適用した場合、ソースの文書と PDF 文書との間でどのように整合性を維持するのか。
- 最終出力の前に、お客様の PDF 文書を変更する場合、どのようにリスクと責任を最小限に抑えるのか。

14.1.1.1. 保証されたプリフライト

プリフライトの問題

「プリフライト」とは、PDF 文書をさまざまな基準と比較して検証する処理で、PDF 文書が全ての出力条件または出版条件を満たしていることを保証するために行われます。一般的に、この基準は出力プロセスまたは出版プロセスによって異なります。特定のプロセスに求められる条件との比較に使用される基準をまとめたファイルは、「プリフライトプロファイル（Preflight Profile）」と呼ばれます。

たとえば、PitStop Server では、色やフォントの用法などのさまざまな基準に照らし合わせて PDF 文書を検証するプリフライトプロファイルを作成できます。さらに、PDF 文書に検知された問題も、PitStop Server を使用することで修復することができます。

プリフライトを実行する理想的なタイミングは、ワークフローの初期段階、つまり PDF 文書の作成直後です。作成された PDF 文書が作成者から出版部門や印刷部門などの担当者に受け渡される場合は、特にプリフライトが必要です。これは作成者が PDF 文書を引き渡す前に問題点を検知することで、時間 (と費用) を節約できるためです。地理的に離れた場所に PDF ファイルを送る場合などには、このケースが当てはまります。

注: Certified PDF 文書はまた、Enfocus Connectorを使用して作成することもできます。Enfocus Connect についての詳細は、弊社 Web サイト *www.enfocus.com* を参照してください。

Certified PDF ワークフローにおけるプリフライト

Certified PDF ワークフローでは、以下のようにプリフライト処理をサポートします。

- PDF 文書の提供者は、PDF 文書の受信者から供給されたプリフライトプロファイルを使用して PDF 文書をシンプルかつ効果的にプリフライトできます。
- プリフライトプロファイルおよび対応するプリフライト レポートが PDF 文書に含まれます。このため PDF 文書のプリフライト状況を確実に把握できます。
- 直感的に使用可能なユーザー インターフェイスにより、PDF 文書の受信者は文書が自身の提供したプロファイルで正常にプリフライトされたことを確認できます。

これらの機能は以下の利点をもたらします。

- PDF 文書の提供者自身による PDF 文書のプリフライトを促します。
- PDF 文書の提供者から受け取ったファイル中に存在する問題の件数を劇的に削減します。

14.1.1.2. 文書の一貫性

PDF 編集 問題

Enfocus PitStop Pro などの PDF 編集ツールは、PDF 文書の途中修正や最終段階での修正を行う場合に非常に便利です。これらのツールを使用すると、元のアプリケーション プログラムまで戻って PDF 文書を再作成する必要がなくなるため、時間と費用を節約できます。状況によっては、PDF 文書に対して直接変更を行う方が、効率的な場合もあります。たとえば、Enfocus PitStop Pro では、PDF 文書全体に対してカラー変更を一括して適用することができます。

PDF 編集にはリスクが伴います。たとえば、PDF 文書を編集して保存すると、変更された PDF 文書はワードプロセッサ プログラムや DTP ソフトウェアを使用して作成されたオリジナルの文書とは別バージョンとなります。これらのバージョンを管理するのは非常に困難で、またファイルの保管時や後日文書を再出版する場合に問題の原因となることがあります。

Certified PDF ワークフローでの ***PDF*** 編集

文書の一貫性に関する問題を削減するため、Certified PDF ワークフローには以下のメカニズムが採用されています。

- Certified PDF 文書に加えられたすべての変更を記録します。
- これらの変更を Certified PDF 文書の内部に保存できます。

この情報を基に、編集ログ (人が読める形式の PDF レポート) が生成されます。

PDF 文書とソース ファイル間で一貫性を保つ必要がある場合は、編集ログを参照してソース ファイルを変更できます。このプロセスを支援するため、Certified PDF 文書にはその文書を作成する元となったオリジナルファイルへの参照情報を保存することもできます。この参照情報を使用すると、PDF 文書の作成後にソース ファイルが編集されていないことを確認できます。

14.1.1.3. 責任

責任の問題

他人の作成した PDF 文書を変更することは、不統一の原因となることに加えて、最終結果に対する責任の所在が誰にあるのかが曖昧になる原因となる場合があります。

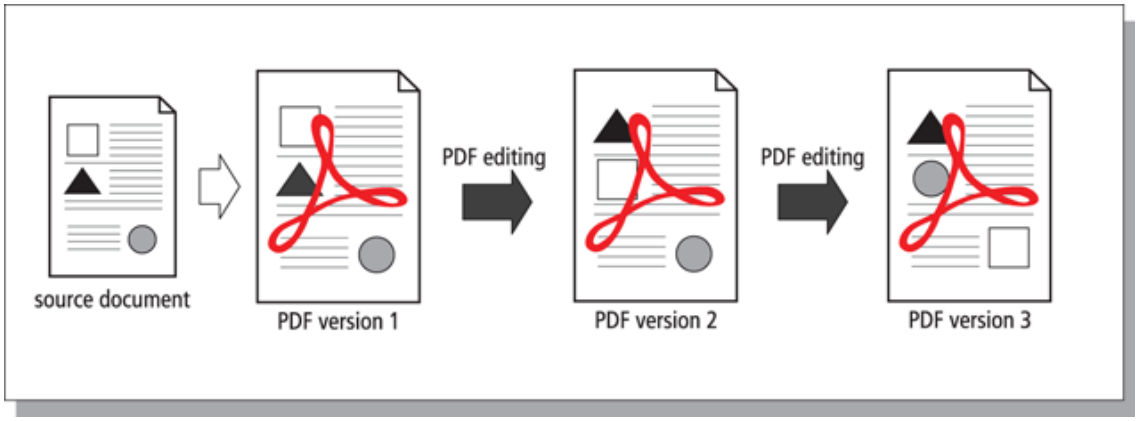
印刷業者、サービスビューロなどの多くは、何か問題が起きた場合に責任を問われることを恐れて、顧客の文書に対して変更を加えることを極端に嫌います。これは修正自体が小さくても、修正箇所とは全く関係の無い問題が発生する可能性があるためです。

Certified PDF ワークフローにおける責任の所在

Certified PDF ワークフローでは、責任の問題を以下の方法で解決しています。

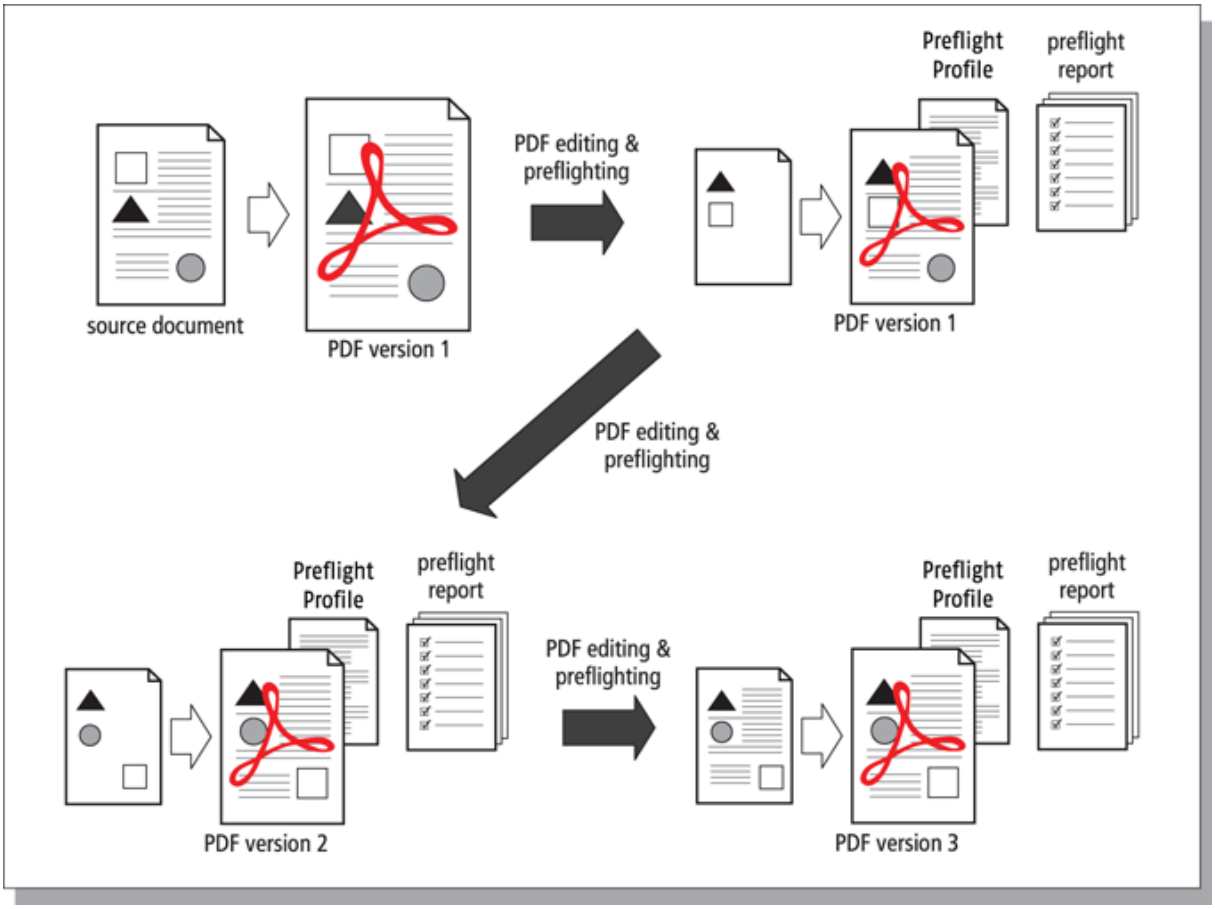
- PDF 文書に対して加えられた全ての変更を記録した詳細なログ ファイルが提供されます。
- 変更者、変更内容、変更時刻などの PDF 編集処理の記録が保存されます。
- 高機能なロールバック メカニズムが実装されているため、必要に応じて PDF 文書を事前に保存した状態 (スナップショット) に簡単に戻すことができます。
- 2 つのスナップショットを視覚的に比較し、相違点を検知して調査する機能が提供されます。

14.1.2. 従来方式の PDF ワークフロー



従来の PDF ワークフローにおいては、PDF 文書が異なる部門間でやり取りされており、また必要に応じて各人がそれぞれ編集していました。この場合、元の PDF 文書は編集後の PDF に置き換えられます。

14.1.3. Certified PDF ワークフロー



差分保存、スナップショット、ロールバックメカニズム

Certified PDF 文書では、特定のセッション中に行われた全ての変更を記録できます。また PDF 文書を保存すると、変更に関するセッションごとの差分情報も同様に保存されます。さらに、PDFを保存するたびに、「スナップショット」として表示することができます。つまりセッション終了時に保存した時点の PDF 文書の状況を確認することができます。このスナップショットは表示だけではなく、個別の文書として保存することもできます。この手法はロールバック メカニズム と呼ばれます。これにより、ユーザは物理的には 1 つの PDF ファイルのみを管理しながら、Certified PDF ワークフローの前の段階に戻ったり、PDF 文書の別バージョン同士を比較したりすることができます。

Certified PDF 文書を編集して保存すると、ファイル サイズが大きくなることがあります。この理由は、編集セッションで行った変更は全て Certified PDF 文書に保存されるためです。したがって、オブジェクトの削除や画像のダウンサンプリングなどの、通常は PDF 文書のサイズを減らす操作を実行したとしても、PDF 文書を保存するとファイル サイズは増えてしまいます。また、ファイル サイズは、操作の種類や実行する編集セッションに応じてさらに大きくなります。

最適化された保存

ファイルサイズが問題になった場合は、Certified PDFを最適化できます。最適化を行うと、Certified PDF 文書に対して行われた編集セッションの履歴情報は残りますが、これらのセッションのスナップショットを保存したり、ロールバックメカニズムを使用して Certified PDF 文書を以前の状態に戻したりすることはできなくなります。

PitStop Serverでは、ホットフォルダエディタでロールバックメカニズムを無効にできます（Certified PDFカテゴリ）。以前のバージョンへのロールバックの許可 69 ページの も参照してください。

14.1.4. Enfocus Certified PDF 文書とは

標準PDFにはAcrobatメタデータのみが含まれますが、Enfocus Certified PDF文書には、プリフライト設定やバージョン履歴など、プリフライトプロセスに関するさまざまな追加情報（「Enfocusメタデータ」）があります。

Acrobat のメタデータ

通常の PDF 文書には、メタデータ(文書自体についての情報)が含まれます。Adobe Acrobat の [文書の概要] ダイアログボックスには、以下のようなメタデータが表示されます。

- PDF 文書の作成日と変更日
- PDF 文書の作成元アプリケーション
- PDF のバージョン
- ファイルサイズ
- PDF ファイルの名前とパス名
- ページ数
- ページサイズ

Enfocus 独自のメタデータ

Enfocus Certified PDF 文書の場合は、以下のメタデータが追加されます。

- PDF 文書の基である 1 つまたは複数のソース文書への参照
- プリフライトプロファイル
- プリフライト レポート
- ユーザーおよびシステム識別情報
- 編集セッション (PDF 文書を開いたとき、編集したとき、保存したとき) ごとに PDF 文書に加えられた全ての変更をリストした編集ログ。ファイルの旧バージョンがすべて含まれているため、以前のバージョンに戻って保存することができます。
- セッション コメント

14.2. Certified PDFワークフローの開始

14.2.1. 個人情報の設定

環境設定のパーソナル情報カテゴリで個人情報（名前や連絡先など）を入力することをお勧めします。入力すると、パーソナル情報がPitStop Serverで作成または編集するすべてのCertified PDFに追加され、質問がある場合にはPDFの受信者から連絡を受けることができます。

このパーソナル情報は作成または編集するすべてのPDFで同じです。*PDF*固有の情報（各PDFで個別）を追加する必要がある場合は、Enfocus Certified PDFパネルのジョブ情報カテゴリを使用します。

パーソナル情報を設定する手順

1. PitStop Server で、[ウィンドウ] > [環境設定...] > パーソナル情報
2. パーソナル情報を入力してください。

   可能な限り詳しく入力します。メッセージは入力しなくてもかまいません。
3. **[OK]** をクリックします。

Adobe AcrobatのEnfocus Certified PDFパネルで、Certified PDFのパーソナル情報を確認できます。

備考：

Certifiedユーザーはパーソナル情報によって識別されるだけではなく、2番目のタイプのユーザー識別情報もあります。これはシステム情報であり、PitStop Serverを登録した個人の詳細情報と、オペレーティングシステム、ネットワーク、コンピュータから取得された情報から構成されます。

14.2.2. PDF 文書の Certified PDF ワークフローの開始

PitStop Serverでは、受信PDFのCertified PDFワークフローを開始することもできます。

手順

1. ホットフォルダタブでフォルダをダブルクリックします。
2. ホットフォルダ エディタで **[Certified PDF]** カテゴリを選択します。
3. 該当する項目を選択します。

   ホットフォルダ プロパティ: *Certified PDF* 68 ページのを参照してください。
4. **[OK]** をクリックします。

14.3. セッション コメントの追加

PitStop Server の Certified PDF メカニズムでは、編集ログにコメントを追加することで、PDF ワークフローの品質を改善することができます。たとえば、PDF 文書を出版社に届ける前に、変更を加えた理由の説明が必要な場合があります。

編集セッションごとにコメントが追加できます。セッションとは、PDF 文書の編集や保存を行っている時間のことです。

セッション コメントを追加する手順

1. ホット フォルダを選択して、[選択したホットフォルダの編集] ボタンをクリックします。**PitStop Server** ホットフォルダ エディタが表示されます。
2. [ホットフォルダエディタ] で、**[Certified PDF]** カテゴリに移動します。
3. 新しいセッション コメントを追加するか、または現在のセッションのコメントを変更します。

   ホットフォルダ プロパティ: *Certified PDF* 68 ページのを参照してください。

4. **[OK]** をクリックします。

14.4. Certified PDF 状態のチェック

14.4.1. PDF 文書の Certified PDF 状況の確認

このトピックでは、文書がすでにCertifiedワークフローにあるかどうか、その場合のステータスを確認する方法について説明します。

注: PitStop ProまたはStatusCheck (Adobe Acrobat用の無料プラグイン)をインストールしている必要があります。

1. Adobe Acrobat Pro で PDF 文書を開きます。
2. 次のいずれかを実行します。
   - **Certified PDF** > **Certified PDF**を選択します。Enfocus Certified PDFパネルが開き、Certified PDFステータスボタンが左上端に表示されます。
   - ツールペインで、**Certified PDF**パネルをクリックします。パネルが開き、使用可能なツールが表示されます。このボタンは、Certified PDF 状況を示します。

   これらのボタンの意味は次の表を参照してください。

注: Enfocus Certified PDFパネルの左上端のボタンは、全体的なCertified PDFステータスを参照します。詳細については、*Certified PDF 状況の側面* 148 ページのを参照してください。

Acrobat のボタン（**Certified PDF** パネル）	意味
	現在の PDF 文書は、Certified PDF 文書ではありません。
	現在の PDF 文書は、Certified PDF ワークフロー内にあります。ただし、プリフライトおよび検証は成功していません。考えられる原因は次のとおりです。 • PDF 文書はプリフライトされましたが、エラーが発生しました。 • プリフライトプロファイルは、プリフライトプロファイル比較と一致していません。 • PDF 文書または選択したプリフライトプロファイルは、前回のプリフライト以降に変更されました。

Acrobat のボタン（**Certified PDF** パネル）	意味
	• オリジナル文書が変更されました。
	現在の PDF 文書は Certified PDF 文書で、正常にプリフライトおよび検証されています。 • Certified プリフライトプロファイルは、プリフライトプロファイル比較と一致しています。 • PDF 文書はエラーが発生することなくプリフライトされました。
	現在のPDF文書のステータスが未確定な場合、原因の例として以下が考えられます。 • 文書は承認されていますが、その後に編集されている（そのため認証が有効ではない可能性があります）。 • PDF文書は認証されていますが、プリフライトされている。 • PPDF文書は1つ以上のアクションリストと、1つの*Quickrun*（PitStop Pro）、もしくは1つのホットフォルダ（PitStop Server）内で組み合わされたプリフライトプロファイルで処理されている。この場合、どのチェックがアクションリストでどのチェックがプリフライトレポートから来ているか区別がつかないため、プリフライトプロファイルに基づいて文書を承認することができません。 ヒント**:** アクションリストをプリフライトプロファイルに埋め込むことを推奨します。これにより、PDF文書をプロファイルでプリフライトし、ステータスを決定することができます。

14.4.1.1. Certified PDF 状況の側面

Certified PDF 状況は、さまざまな側面によって決定します。ある側面の状況が「異常」になると、直ちに Certified PDF 状況全体も異常になります (赤)。全ての側面の状況が「正常」になるか、「未定」(定義されているオリジナル文書がない場合など) になると、Certified PDF 状況は「正常」になります。

- [プリフライト]: プリフライトプロファイルに基づいて文書を確認します。
- [オリジナル文書]: オリジナル文書への参照です。オリジナル文書に対して行われた変更を全て監視します。
- [**Certified** プリフライトプロファイル比較]: プロファイル比較設定では、許可するプリフライトプロファイル数を設定できます。Certified プリフライトプロファイル比較では、Certified PDF 文書で使用されるプリフライトプロファイルがリストのプリフライトプロファイルと一致しているかどうかを確認できます。

15. フォントの管理

文書で Times New Roman の代わりに Times-Roman を使用するのは何故でしょうか? これらのフォントは、置き換え可能なのでしょうか? できないとすれば、各フォントはいつ使用すべきでしょう? また、さまざまなタイプのフォントは、PDF 文書、画面、印刷などの出力にどう影響するのでしょうか? この章では、フォントに関するより論理的な背景知識をおりまぜて、これらの疑問に答えていきます。

15.1. フォントのタイプとその使用方法

15.1.1. フォントのタイプ

フォントにはさまざまなタイプがあります。

- *PostScript Type 1 フォント* 150 ページの「*標準の 14 フォント*」と呼ばれるサブセットおよび拡張版の「*Multiple Master フォント* 152 ページの」を持つ
- *PostScript Type 3 フォント* 151 ページの
- *TrueType フォント* 151 ページの 拡張版の「*OpenType フォント* 153 ページの」を持つ
- コンポジット フォント 154 ページの

15.1.2. 標準の 14 フォント

PostScript および PDF の環境で作業をする場合、「欧文基本 14 フォント」または「ベース 14 フォント」という表記が出てきます。ここでは、この「欧文基本 14 フォント」について以下に説明します。

実際には、この用語は 13 種類の PostScript フォントの標準セットに由来しています。これらのフォントは、全ての PostScript 出力デバイスに内蔵されています。これらのフォントを以下の表に示します。

フォントファミリ	フォント
Times	Times-Roman
	Times-Italic
	Times-Bold
	Times-BoldItalic
Helvetica	Helvetica
	Helvetica-Oblique
	Helvetica-Bold
	Helvetica-BoldOblique

フォントファミリ	フォント
Courier	Courier
	Courier-Oblique
	Courier-Bold
	Courier-BoldOblique
記号	記号 (∞ δ Σ Δ Φ ⊆ λ)

PDF 環境には、この標準フォント セットに ZapfDingbats (✉ ✪ ✔ ❑ ❶) が追加されます。

15.1.3. PostScript Type 1 フォント

本来、PostScript Type 1 フォントは、PostScript プリンタで使用するために Adobe Systems が開発したものです。

PostScript Type 1 フォントは、アウトラインフォントです。このフォントは、直線と 3 次曲線であるベジエ曲線を使用して、文字の形、つまり「グリフ」を定義しています。「グリフ」とは、画面または用紙上で文字コードを表現するのに使用するフォントの形です。グリフの例としては、アルファベットの文字や ITC ZapfDingbats (✉ ✪ ✔ ❑ ❶) のようなフォントの記号があります。

Type 1 フォントには、以下の特徴があります。

- これらのフォントのファイル サイズは、TrueType フォントよりも小さく、システムのハード ディスクで占める容量が少なくて済みます。
- アウトライン フォントであるため、Type 1 フォントは、ほとんど全てのサイズに縮小/拡大できます。これらのフォントは、どのようなプラットフォームや印刷でも、シャープでスムーズな曲線を再現します。
- ほとんどのハイエンド出力装置がページ記述言語に PostScript を使用しているため、PostScript Type 1 フォントは専門的な出版環境で一般的に使用されています。
- PostScript Type 1 フォントは、2 つのファイルに分かれて保存されます。1 つのファイルには、文字のアウトラインが保存され、もう 1 つのファイルには、フォントのメトリックデータが保存されます。Microsoft Windows では、拡張子によりこれらのファイルを識別できます。文字のアウトラインのファイルは *.pfb (Printer Font Binary ファイル) で、メトリック データを含むファイルは *.pfm (Printer Font Metrics ファイル) です。前者 (.pfb) は一般的にプリンタフォントと呼ばれ、後者 (.pfm) は画面フォントとして知られています。これら両方のファイルサイズを足しても、TrueType のフォントよりも容量を小さく抑えられます。PostScript フォントのファイルサイズは、対応する TrueType フォントの半分程度の場合もあります。
- PostScript Type 1 フォントは、以下のアイコンで識別できます。

アイコン	説明
	Microsoft Windows 環境の PostScript Type 1 フォント

アイコン	説明
	Mac 環境の PostScript Type 1 フォント

15.1.4. PostScript Type 3 フォント

PostScript Type 3 フォントは、主に飾り文字の装飾的なフォントとなっており、同じ文字であっても、トーンのバリエーションが多く、塗りつぶしや斜線が使われています。実際、Type 1 または TrueType フォントは完全な黒だけですが、Type 3 フォントの場合、グレースケールの塗りつぶしや斜線、その他の「特殊効果」もあります。これらの結果として、Type 3 フォントには、以下の特徴があります。

- ファイルサイズが対応する Type 1 または TrueType フォントよりも大きくなります。
- 印刷または出力に時間がかかる場合があります。
- 非常に小さいポイントサイズに設定して低い解像度で印刷すると、Type 1 または TrueType フォントよりも表示品質が低くなります。

15.1.5. TrueType フォント

TrueType フォント形式は、Apple Computer が Adobe Type 1 標準の代替フォントとして開発しました。Macintosh と Windows コンピュータの両方で使用されています。

PostScript Type 1 フォントと同じように、TrueType フォントも文字の描画にアウトラインを使用しています。

TrueType フォントには、以下の特徴があります。

- 広く普及しており、Microsoft Windows または Macintosh システムのほとんど全てのデスクトップオフィスソフトウェアプログラムに統合されています。
- TrueType フォントは、非 PostScript 出力デバイスでも、PostScript 出力デバイスでも正常に印刷できます。ただし、PostScript デバイスで正常に印刷するには、TrueType フォントを PostScript アウトラインに変換する必要があります。この処理は、出力結果のフォントの品質に影響を与える場合があります。したがって、多くのプリプレスサービスビューロは TrueType フォントのサポートに消極的です。
- Windows ベースのシステムでは、TrueType フォントは物理的に 1 つのファイルに保存されます。このファイルの名前には、拡張子の .ttf が付けられます。Macintosh では、1 つのスーツケースとして保存されます。
- TrueType フォントは、以下のアイコンで識別できます。

アイコン	説明
	Microsoft Windows 環境の TrueType フォント

アイコン	説明
	Mac 環境の TrueType フォント

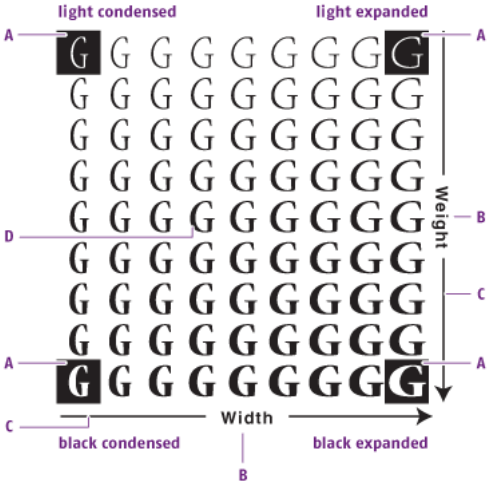
- TrueType フォントを使用する場合、または TrueType と PostScript フォントを 1 つの文書で併用する場合、特にイメージセッターなど、ハイエンドの PostScript デバイスで問題が発生する可能性があります。

15.1.6. Multiple Master フォント

Multiple Master フォントフォーマットは、PostScript Type 1 フォーマットの拡張版です。「Multiple Masters」は、デザイン軸の上下左右の端を基準にして、デザインのバリエーションを提供するフォントです。このデザイン軸によって、以下のようなフォントの可変プロパティを表現します。

- 太さ (標準と ボールド)
- 幅 (縮小と 拡大)
- オプティカルサイズ

Multiple Master フォントの仕組みは、デザイン軸の端にある 2 つのマスターのデザインが固定されており、これらのマスターの間でバリエーションを作成できるということです。一般的に、Multiple Master フォントには 2 つのデザイン軸があり、4 つのマスターが必要です。これらのマスターは、マトリックスの基盤と考えることができます。



A. マスター
B. フォントプロパティ
C. デザイン軸
D. ユーザ定義の「中間的な」バリエーション

中間的なバリエーションを作成するには、Adobe Type Manager が必要です。

15.1.7. OpenType フォント

TrueType形式の拡張子

OpenType は、Adobe Systems Inc. と Microsoft Corporation が共同で開発した新しいフォント ファイル フォーマットです。OpenType は TrueType フォーマットを拡張したフォーマットで、TrueType フォントデータの他に Adobe Type 1 フォント データを格納できます。OpenType フォントとして埋め込む場合、ベースとなるフォントにより、次の2種類があります。

- Adobe Type 1 フォントをベースとするフォント。このフォントのファイル名の拡張子は.otfになります。
- TrueType フォントをベースとするフォント。このフォントのファイル名の拡張子は.ttfになります。

OpenType フォントは、次のアイコンで識別できます。

アイコン	説明
	Microsoft Windows 環境の OpenType フォント
	Mac 環境の OpenType フォント

OpenTypeフォントの埋め込み

PDF ファイルでは、OpenType フォントは埋め込みフォントとしてのみ使用できます。つまり、Type 1ベースの OpenType フォントを使用している場合、Type 1 フォントまたは OpenType フォントとして埋め込むことができます。同様に、TrueType ベースの OpenType フォントは TrueType または OpenType として埋め込むことができます。

OpenType フォントの埋め込みは PDF 1.6 の新機能です。つまり、それ以外の PDF 文書ではサポートされていない場合があります。たとえば、Adobe Acrobat の旧バージョンでは、OpenType フォントとして埋め込まれたテキストを表示できなかったり、印刷エラーが発生したりする場合があります。

OpenType-SVGフォント

OpenType-SVGフォントは、グリフ（の一部）がSVG（Scalable Vector Graphics）アートワークとして表されるフォントフォーマットです。SVGは1つのグリフで複数の色とグラデーションを持つことができますが、これは従来のフォントでは不可能です。

SVGフォントは、Adobe Indesign、Photoshop、Quark Xpressによりサポートされていますが、PDF 仕様ではサポートされていません。そのため、アートワークをPDFに書き出す場合、こうしたフォントはType 3フォントに変換されます。残念ながら、こうしたType 3フォントは必ずしもPDF仕様に従って作成されていないため、PitStop 2018以前ではエラーが発生します。これはPitStop 2019では解決されています。SVGフォントを表示可能な回避策を実装しました。

PDF/A ファイル構造の問題アクションをチェックを実行すると、こうしたフォントにより警告がトリガーされます。

15.1.7.1. OpenType の詳細

OpenType の詳細については、次のサイトを参照してください。

- *www.adobe.com* (このサイトにアクセスして OpenType を検索)
- *store.adobe.com/type/opentype*

15.1.8. コンポジット フォント

日本語、中国語、韓国語など、アジアの言語を使用する場合、2 バイト文字セット (コンポジット フォント) が必要です。これらの言語には多くの文字があり、2 バイトフォーマットをサポートするハードウェアとソフトウェアが必要です。

コンポジット フォントは、8 ビット (1 バイト) 文字の代わりに、16 ビット (2 バイト) の文字を使用します。

15.2. PDF フォントの置換

複数のコンピュータまたはコンピュータ プラットフォームにわたって PDF 文書を処理する場合、文書内のフォントは 3 つの状態のいずれかになります。この 3 つの状態を以下に示します。

- フォントは、システムフォントとして使用できます。つまり、PDF 文書にあるフォントは、PDF 文書を表示するコンピュータにもインストールされています。
- 埋め込みフォントとして使用できます。つまり、フォントが PDF 文書に完全または部分的 (サブセット) に含まれます。
- フォントは、文書でもシステムでも使用できません。

フォントを使用できない場合、文書を受け取ったコンピュータにあるフォントで、このフォントを置換する必要があります。この処理は、「PDF フォントの置換」と呼ばれています。PDF フォントの置換は、文書の表示や出力に影響を与える場合があります。

15.2.1. 正確なフォント名の確認

フォントには、異なる名前を付けることができます。そして、ソースアプリケーションで表示されるフォントの名前が、「本当の」内的なフォント名と同じとは限りません。

たとえば、ワードプロセッサプログラムまたは DTP プログラムで表示される Adobe Type 1 フォントの「Times」には、「Times-Roman」という PostScript 名があります。TrueType にある対応するフォント「Times New Roman」も同じです。このフォントの名前は、Adobe Acrobat では「TimesNewRoman」(スペースがない) となります。

そのため、Enfocus PitStop Serverのダイアログボックスでフォント名を手動で入力する場合は、Adobe Acrobat 内で表示されているとおりにフォント名を正しく入力してください。目的

のフォントを含んでいる PDF ファイルを使用すると、フォント名の正確なスペルを確認できます。

15.2.1.1. 正確なフォント名を確認する手順

1. アプリケーションを使用して、正確な名前を確認したいフォントで 1 ページの文書を作成します。
2. この文書の PDF ファイルを作成します。
3. Adobe Acrobat で PDF ファイルを開き、以下のいずれかを実行します。
   - Adobe Acrobat 4 の場合、[ファイル] > [文書情報] > [フォント] の順に選択します。
   - Adobe Acrobat 5〜9 の場合、[ファイル] > [文書プロパティ] > [フォント] の順に選択します。
   - Adobe Acrobat X 以降の場合、[ファイル] > [プロパティ] > [フォント]の順に選択します。
4. スペル、大文字と小文字の区別、ハイフンの有無などに注意して、[フォント情報] ダイアログボックスに表示されている通りに、フォントの名前を書き出します。
5. **[OK]** をクリックします。

15.3. フォントの埋め込みとサブセット

15.3.1. フォントの埋め込み

Enfocus プリフライトプロファイルエディタを使用すると、フォントに関する次の条件を PDF 文書で有効にするかどうかをプリフライトプロファイルで指定できます。

- すべてのフォントを埋め込む
- 欧文基本 14 フォント以外をすべて埋め込む
- 表示用にエミュレートできるフォント以外のすべてのフォントを埋め込む

フォントを埋め込むとは、フォント全体、つまり、フォントの文字を全て PDF 文書にコピーすることを意味します。この処理が特に有効なのは、同じフォントをインストールしていない別のコンピュータで文書を表示および印刷する必要がある場合です。

さらに、フォント全体を埋め込むと、フォントをインストールしていないコンピュータでも、PDF 文書のテキストを編集できる場合があります。フォント全体 (標準的な roman フォン

トは、通常 256 文字) を埋め込むと、PDF 文書のファイルサイズが PostScript Type 1 フォントで 30k から 40k 程度、TrueType フォントではそれ以上に増加します。ご注意ください。

15.3.2. フォントのサブセット

Enfocus プリフライトプロファイルエディタを使用すると、フォントに関する次の条件を PDF 文書で有効にするかどうかをプリフライトプロファイルで指定できます。

- すべてのフォントをサブセット
- 欧文基本 14 フォント以外をすべてサブセットする
- 表示用にエミュレートできるフォント以外のすべてのフォントをサブセットする

フォント全体を埋め込む代わりに、フォントのサブセット (テキストで実際に使用しているフォントの文字) だけを埋め込むことができます。フォントのサブセットを実行すると、ファイルのサイズをできるだけ小さく抑えることができます。ファイルにテキストを追加する予定がない場合 (フォントの文字が増えない場合)、特にこの方法を推奨します。同じフォントサブセットがある 2 つ以上の PDF 文書を結合すると、結合したセットから重複した文字情報が削除されないので、ご注意ください。このような場合、ファイルサイズはかなり大きくなります。

ただし、オリジナルのフォントで読者がファイルを表示することが重要ではない場合、フォントをまったく埋め込まないで、必要に応じて、Acrobat にフォントを置換させてください。これでファイルサイズが最小限に収まります。当然ながら、ファイルサイズを小さくすれば、ファイル転送が容易になります。

15.4. 埋め込まれた見つからないフォント

15.4.1. 埋め込まれた見つからないフォントについて

PitStop Serverでは、PDF文書にアクションリストまたはプリフライトプロファイルの一部として足りないフォントを埋め込むことができます。

1. PitStop Server はローカルシステム上でのみ見つからないフォントを検索します。
2. ローカルシステムにない場合は、PitStop Serverプリフライトレポートに警告が表示されます。

15.4.2. 見つからないフォントを埋め込む手順

このタスクを使用し、PDF文書の見つからないフォントをアクションリストまたはプリフライトプロファイルの一部として埋め込みます。

1. 使用するホットフォルダを開きます。
2. PitStop Server ホットフォルダ エディタで フォント カテゴリに切り替えます。
3. フォントカテゴリでは、次の手順に従います。

- システムで利用可能なフォントを埋め込むには、[システムフォントを使用]チェックボックスを有効にします。
- 他のフォントを埋め込むには、関係するフォントフォルダを追加します。

4. アクションリストとプリフライトプロファイルカテゴリに切り替え、アクションリストまたはプリフライトプロファイルを定義します。次のいずれかを実行します。

- アクション リスト: **Non-Base14** フォントを埋め込み
- アクション：フォントの埋め込み
- プリフライトチェック／修正: フォント > 埋め込まれていない (フォントの埋め込み属性)

他のチェックと修正の他に、PitStop Serverは見つからないフォントを検索し、可能な場合は埋め込みます。フォントが使用できない場合は、プリフライトレポートに警告が表示されます。

16. カラーの管理

この章では、カラーマネージメントとカラーの基本について簡単に説明します。PitStop Server を使用して、PDF文書で高品質のカラーを正確に再現する方法を説明します。

16.1. カラー マネージメントについて

カラー モニターとカラー プリンタでは、まったく異なる方法でカラーを再現しています。

カラー管理システム (CMS: color management system) は、スキャナ、モニター、プリンタの異なるカラー機能を調整するために設計された一連のツールであり、作成、表示、印刷プロセスを通じて、一貫したカラーを実現します。これにより、最終出力のカラーを正確にモニター上で再現できるようになります。また異なるアプリケーション、モニター、オペレーティング システムでも、一貫して同じカラーが表示されるようになります。

16.2. カラー モデル

16.2.1. RGB カラーモデル

モニターは、カラーを再現するのに、赤、緑、青 (RGB) の光を使用します。3 つのカラーを全て最大の輝度にして重ねると、色は白になります。RGB カラーは、照明、ビデオ、モニターに使用されています。コンピュータ モニターは、赤、緑、青の蛍光体を通して光を照射することで、カラーを再現しています。

16.2.2. CMYK カラーモデル

印刷機では CMYK カラーモデルが使用されています。このカラーモデルは 3 色の透明なインキ (シアン – C、マゼンタ - M、イエロー - Y) をブラック (キーカラーの K) と混ぜ合わせ、その量を調整することで、さまざまなカラーを再現します。CMYK インクは、用紙に反射する白色光を

さえぎり、白色光から赤、緑、青の光を差し引く効果があります。人間の目に見えるのは、残された光です。

理論上、全てのカラーを吸収して、ブラックを再現するには、純粋なシアン、マゼンタ、イエローの色素を混ぜる必要があります。しかし、全ての印刷用インクには、不純物が混入しているので、これらの 3 つのインクを混ぜても、実際には土のような茶色になってしまいます。本格的なブラックを再現するには、ブラックインクを混ぜる必要があります。これらのインクを混ぜて、カラーを再現する方法は、4 色刷印刷と呼ばれています。

理論上、シアン、マゼンタ、イエローを混ぜて完全なブラックになりますが、現実には、キーカラーのブラックを追加する必要があります。

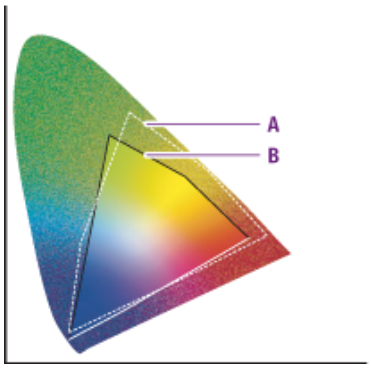
16.2.3. グレースケール モデル

グレースケール モデルは、グレーのシェードを使用して、オブジェクトを表現しています。この場合、グレースケール画像の各ピクセルには、0% (ブラック) から 100% (白) までの明るさの値があります。ほとんどの出力デバイスで再現できるグレーの最大数は 256 色です。

16.3. 色域とカラースペース

16.3.1. 色域: カラー光線のデバイス依存サブセット

可視光線には、数百万のカラーが含まれていますが、スキャナ、モニター、カラー プリンタなどのカラー デバイスでは、この可視光線の特定範囲しか再現できません。この「特定範囲」のことを色域と呼びます。デバイスの色域は、再現できるカラー スペースを定義します。たとえば、モニターでは CMYK カラーを使用したオフセット印刷よりも幅広いカラーを表示できますが、一部の CMYK カラーはモニター上では正確に表示できません。各デバイスには、異なる色域があります。



A. *RGB の色域*
B. *CMYK の色域*

色域およびカラー スペースの詳細については、Adobe Acrobat のヘルプを参照してください。

16.3.2. 装置依存色

装置依存色は、画像を作成した、または出力したデバイスの設定と関連しています。装置依存色の場合、一貫したカラーの再現を実現するために、ワークフロー中の全装置を「キャリブレーション」する必要があります。つまり、カラーを一致させるために、入力デバイス (スキャナまたはデジタル カメラなど)、モニター、出力デバイス (デジタル カラー プリンタなど) を相互に調整する必要があります。

同じタイプまたはモデルのデバイス間でも、相違が発生する可能性があります。設定が違っている場合があるからです。たとえば、モニターの場合、明るさまたはコントラストが違っている可能性があります。

装置依存色の詳細については、Adobe Acrobat のヘルプを参照してください。

16.3.3. 装置非依存色

デバイス間にあるカラーの違いを解消する、あるいは最小限に抑えるために、カラー管理システムを使用できます。カラー管理システムは、CIELab など、装置非依存の標準的なカラー モデルを使用しています。画像は、入力デバイスと出力デバイスの両方、あるいは一方の情報を記録したプロファイルと関連付けられています。したがって、画像を特定の装置で出力する場合、画像はこの装置のプロファイルと関連付けられます (「タグ」付け)。

装置非依存色の詳細については、Adobe Acrobat のヘルプを参照してください。

16.4. レンダリング インテント

16.4.1. カラーをリマッピングするレンダリング インテント

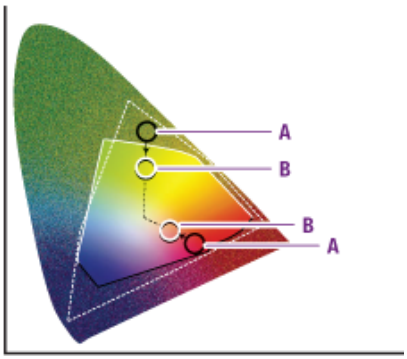
カラー管理システムを使用すると、意図した状況にカラーが最大限に一致するようにカラーをリマップできます。「リマッピング」とは、特定の出力デバイスのカラー スペースに属すカ

ラーを、別のデバイスのカラー スペースにマッピングすることです。このリマッピングは、レンダリング インテントと呼ばれるリマッピング方式に従って実行されます。リマッピング方法、つまり、レンダリング インテントには、以下の 4 つの種類があります。

- 知覚的リマッピング 161 ページの
- 彩度リマッピング 161 ページの
- 相対的な色域を維持するリマッピング 162 ページの
- 絶対的な色域を維持するリマッピング 162 ページの

16.4.2. 知覚的リマッピング

人間の目は、カラー間の関係を認識できます。知覚的マッピングは、カラー間の関係を残したまま、オリジナルのカラー スペースの全カラーを、変更先のカラー スペースの色域に変えます。関係を残しているため、カラーの変更を知覚することは困難です。

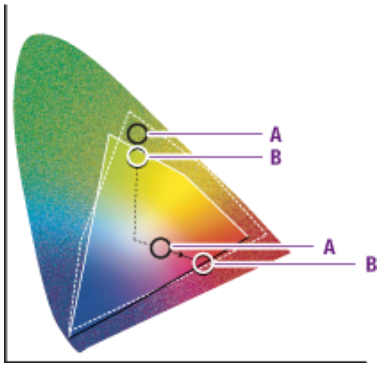


知覚的リマッピングは、変更先のカラー スペースの色域 (**B**) 内で、オリジナルの色域 (**A**) の再スケーリングを行いますが、カラー間の関係は残しています。

16.4.3. 彩度リマッピング

ターゲット デバイスのカラー スペースに変換するとき、オリジナルの画像のカラー彩度 (鮮明さ) を再現します。この方式では、カラーの総体的な彩度は、色域が変わってもそのまま維持されます。このレンダリング インテントは、主に業務用の画像を対象として開発されました。業務用の画像では、明るい彩度のカラーは重要でも、カラー間の厳密な関係 (写真の画像のような) は重要ではありません。

彩度リマッピングは、全てのカラーを最も明るい彩度 (**B**) にスケーリングします。彩度 (色度とも呼ばれる) は同じになりますが、一部のカラーは明るくまたは暗くなります。



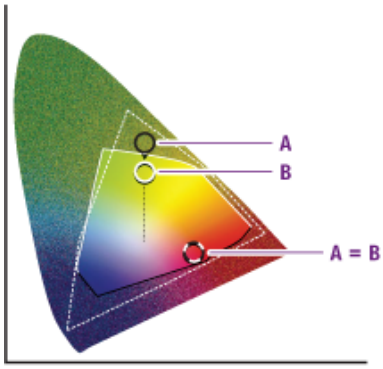
16.4.4. 相対的な色域を維持するリマッピング

入力デバイスと出力デバイスの両方の色域に含まれるカラーは変更されません。出力デバイスの色域に含まれないカラーは、通常、同じ明度で異なる彩度のカラーに変更されます。

この方式では、多くの異なる入力カラーが同じ出力カラーにマッピングされて、画像カラーの総数が大幅に減ってしまう場合があります。

ただし、2 つの出力プロファイルをプルーフィングのために結合する場合、このマッチング方式は便利です。プルーフィング デバイス (2) の色域は、変更先のプロファイル (1) の色域よりも大きいからです。

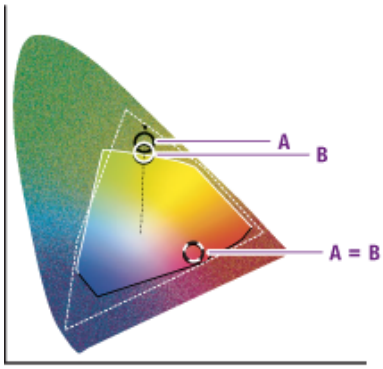
相対的な色域を維持するリマッピングでは、色域に含まれないカラーは、同じ明度で異なる彩度のカラー (**B**) で置き換えられます。



16.4.5. 絶対的な色域を維持するリマッピング

入力デバイスと出力デバイスの両方の色域に含まれるカラーは変更されません。出力デバイスの色域に含まれないカラーは、出力デバイスの色域の境界線にあるカラーに変更されます。この変更により、一部の表示部分で詳細なカラーが失われる可能性があります。ただし、色調のほぼ全範囲のうち、近い色に調整されます。この方式は、特色に適しています。

絶対的な色域を維持するリマッピングでは、色域に含まれないカラーは色域の境界線 (**B**) にあるカラーに変更されます。変更先の色域で表示できないカラーは失われます。



16.5. Enfocus PitStop Server でのカラーマネージメントの使用

16.5.1. ICC プロファイルを使った作業

カラーマネージメントを使用する作業環境では、PDF 文書内のオブジェクトに ICC プロファイルでタグ付けできます。ICC プロファイルは、特定装置に関連したカラースペースを記述したものです。ICC プロファイルは、異なるプラットフォーム、装置、ICC 準拠ソフトウェアプログラム間でカラーを正確に再現する際に有用です。

たとえば、デジタルカメラで写真を撮影するとします。これらの写真のカラーが特定のモニタ上で一貫して表示されるようにするには、デジタルカメラの ICC プロファイルを使用して画像にタグ付けします。タグ付けにより、デジタルカメラが撮影した写真のカラーをどのように「見た」のかが、詳細な数学的記述として画像に記録されるようになります。カラーマネージメントシステムは、この記述を使用してカラーをモニタなどの別の出力装置のカラースペースに変換します。この場合、デジタルカメラのレンズが捉えたカラーと、モニタ上に表示されるカラーは、ほとんど同一のカラーになります。

16.5.2. Enfocus PitStop Serverでの ICC プロファイルの使用

Enfocus PitStop Serverでは、すべてのオブジェクトに対して同一のプロファイルを使用する設定と、画像に対しては特定のプロファイルを使用する設定が使用できます。前者の場合、すべてのオブジェクトのカラーマネージメントを定義するタブが 1 つ表示されます。後者の場合、画像のカラーマネージメントを定義するタブと、その他のオブジェクトに対応するタブが表示されます。

Enfocus PitStop Serverでは、次のカラーモデルに対応するソースとターゲットの ICC プロファイルを指定できます。

- グレー
- RGB
- CMYK
- Lab

ICC プロファイルは、RGB カラーを CMYK カラーに変換するなど、特定のカラーモデルから別のモデルへカラー変換を実行する必要がある場合に使用されます。

ターゲットプロファイルには、必要に応じてソースプロファイルとは異なる設定を使用できます。その際は、[ソースと別の ICC プロファイルを使用する] オプションをオンにして、ターゲットプロファイルを定義します。

ICC プロファイルは異なるレベルに対して定義できます。

- すべてのホットフォルダに適用されるデフォルトの ICC プロファイル。このプロファイルはEnfocus PitStop Serverの環境設定で指定します。
- 指定するホットフォルダにのみ適用する ICC プロファイル。このプロファイルは、特定のカラーモデルからデバイス固有カラーへのカラー変換を実行する必要がある PDF 文書の処理に使用します。
- プリフライトプロファイルやアクションリストで定義される特定の ICC プロファイル。

16.5.2.1. 全ホットフォルダにデフォルトの ICC プロファイルの使用

全ホットフォルダにデフォルトの ICC プロファイルを使用する手順

1. [ウィンドウ] > [環境設定] の順に選択します。
2. [カラーマネージメント] カテゴリをクリックします。
3. [カラーマネージメントの有効化] チェック ボックスをクリックします。
4. すべてのオブジェクトに同じプロファイルを使用するか、画像とその他のオブジェクトにプロファイルを定義するかを選択します。
5. 選択したカラーモデルに対して、ソースおよびターゲットの ICC プロファイルを選択します。
6. **[OK]** をクリックします。

16.5.2.2. 特定のホットフォルダに ICC プロファイルを使用する

特定のホットフォルダに ICC プロファイルを使用する手順

1. 関係するホットフォルダをダブルクリックします。
2. [カラーマネージメント] カテゴリを選択します。
3. [全般的なカラー設定より優先する] をクリックします。

4. すべてのオブジェクトに同じプロファイルを使用するか、画像とその他のオブジェクトにプロファイルを定義するかを選択します。
5. 選択したカラーモデルに対して、ソースおよびターゲットの ICC プロファイルを選択します。
6. **[OK]** をクリックします。

16.5.3. カラーマネージメントの無効化

Enfocus PitStop Server 環境では、カラー管理を使用すべき場合と、そうではない場合があります。カラーマネージメントと ICC プロファイルを使用する理由は*ICC プロファイルを使った作業* 163 ページのに記載されています。Enfocus PitStop Server でカラーマネージメントを使用しないケースには次のようなものがあります。

- カラーマネージメント環境との間で受け渡しされる PDF 文書を処理しない場合。たとえば、特定のホットフォルダに追加される PDF 文書には ICC プロファイルのタグが付いた画像が含まれないことが分かっていて、タグ付けを行いたくない場合など。
- PDF 文書内の ICC タグの付いた画像を処理せず、そのままにしておく場合。

このような場合は、カラーマネージメントを無効にできます。無効にした後で、プロファイルのタグ付き画像を含む PDF 文書を処理した場合、カラープロファイルは処理されずそのまま残されます。 タグが削除されたり、変更されることはありません。

カラーマネージメントは、すべてのホットフォルダで有効にすることも、指定したホットフォルダでのみ無効/有効にすることもできます。すべてのホットフォルダでカラーマネージメントを無効にした場合、その設定はそれ以降に作成するホットフォルダにのみ適用されます。特定の ICC プロファイルを使用している既存のホットフォルダでは、既存の設定がそのまま使用されます。

16.5.3.1. 全ホットフォルダでカラーマネージメントを無効にする手順

1. [ウィンドウ] > [環境設定] の順に選択します。
2. [カラーマネージメント] カテゴリをクリックします。
3. クリックして、[カラーマネージメントの有効化]チェックボックスをオフにします。
4. **[OK]** をクリックします。

注: 特定の ICC プロファイルを使用している既存のホットフォルダでは、既存の設定がそのまま使用されます。

16.5.3.2. 指定のホットフォルダでカラーマネージメントを無効にする手順

1. ホットフォルダを選択して、[編集] をクリックします。

2. [カラーマネージメント] のプロパティを表示します。
3. [全般的なカラー設定より優先する] チェックボックスを選択します。
4. [カラーマネージメントの有効化]チェックボックスをオフにします。
5. **[OK]** をクリックします。

16.6. 特色

16.6.1. 特色の使用

特色は、混合済みの独自のインクで印刷するカラーです。複数の特色システム、数百の特色インクから、適切なものを選択できます。特色オフセット印刷では、それぞれの特色は 1 枚の印刷プレートを使用して再現されます。対照的に、プロセス カラー印刷は、4 色のインク (CMYK: シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック) だけで、全てのカラーを再現しています。

100% で特色を印刷すると、塗りつぶされた (ドット パターンではない) 不透明なカラーがページ上に印刷されます。ティント (明度) の高い特色は、ベース カラーのより小さいハーフトーンドットを印刷することで再現されます。

オフセット印刷に使用すると、特色は非常に優れた出力結果を実現します。ただし、デジタル出力またはモニター表示には、特色はあまり適しておらず、使用するときには注意が必要です。

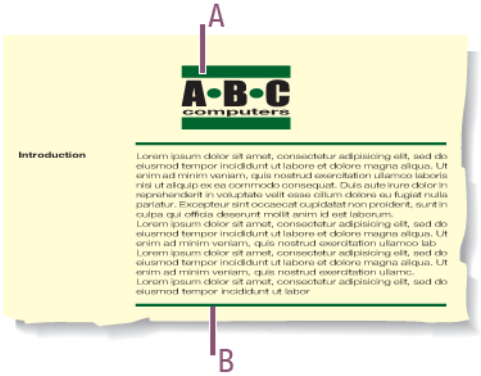
16.6.2. 定義の明確な特色

定義の明確な特色は、固有の名前があり、対応する CMYK 値があるカラーです。同名で CMYK 値が違う 2 つの特色がある場合、これらのカラーは定義が不明確な特色と見なされます。

ここで例示する文書には、次のようなさまざまなアプリケーションで作成されたオブジェクトがあります。

- ワードプロセッサアプリケーションで描いた緑の線
- イラストレーションソフトウェアで作成した会社のロゴ

これらのオブジェクトにある特色の名前が、どちらも「company green」で、CMYK 値が違っている場合、カラーの定義は不明確です。



A - 会社ロゴ: 「company green」C 100%、M 0%、Y 100%、K 50%

B - 区切り線: 「company green」C 90%、M 0%、Y 90%、K 50%

16.6.3. 特色を対応する CMYK プロセスカラーへ変換

また場合によっては、ソース文書の作成時には特色を使用しておき、後でEnfocus PitStop Serverに PDF 文書内の特色を対応する RGB/CMYK カラーへ変換させることも可能です。出力方法ごとに RGB、CMYK、特色のソースファイルを個別に作成するのではなく、ソース文書を 1 ファイル管理するだけですべての用途に対応できます。

たとえば、ニュースレターやパンフレットなどの特色が使用されたオブジェクト (会社のロゴなど) を含む文書があるとします。この場合、以下のような対応が可能です。

- 特色の定義を変更せず、PDF 文書を使用してカラーごとにオフセット印刷プレートを作成できます。
- Enfocus PitStop Serverを使用して特色を同等の CMYK プロセスカラーに変換し、デジタル 4 色印刷機などで出力できます。

17. サードパーティのライセンス情報

```
This product includes lzw-ab.

    Copyright (c) David Bryant
    All rights reserved.

    Redistribution and use in source and binary forms, with or without
    modification, are permitted provided that the following conditions are met:

    * Redistributions of source code must retain the above copyright notice,
      this list of conditions and the following disclaimer.
    * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice,
      this list of conditions and the following disclaimer in the
      documentation and/or other materials provided with the distribution.
    * Neither the name of Conifer Software nor the names of its contributors
      may be used to endorse or promote products derived from this software
      without specific prior written permission.

    THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS"
    AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
    IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
    ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR
    ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
    DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR
    SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER
    CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY,
    OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
    OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-------------------------------------------------------------

This product includes Botan.

      Copyright (C) 1999-2020 The Botan Authors
      All rights reserved.

      Redistribution and use in source and binary forms, with or without
      modification, are permitted provided that the following conditions are met:

      1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice,
        this list of conditions, and the following disclaimer.

      2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
        notice, this list of conditions, and the following disclaimer in the
        documentation and/or other materials provided with the distribution.

      THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS"
      AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
      IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
      ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE
      LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR
      CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF
      SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS
      INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN
      CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)
      ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE
      POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-------------------------------------------------------------

This product includes ICC Profiles.

    Some ICC Profiles were created by FFEI Ltd. (www.ffei.co.uk) using Fujifilm
    ColourKit Profiler Suite (www.colourprofiling.com)

-------------------------------------------------------------

This product includes ICC Profiles.

    Some ICC profiles are copyright (C) by European Color Initiative, www.eci.org
```

```
------------------------------------------------------------

This product includes ICC Profiles.

    Some ICC profiles are copyright (C) of WAN-IFRA, www.wan-ifra.org

------------------------------------------------------------

This product includes ICC Profiles.

    Some ICC profiles are copyright (C) IDEAlliance(R). G7(R), GRACol(R) and
    SWOP(R) are all registered trademarks of IDEAlliance(C).

------------------------------------------------------------

This product includes PANTONE Color Libraries.

    PANTONE© and other Pantone trademarks are the property of Pantone LLC.
    Pantone is a wholly owned subsidiary of X-Rite, Incorporated.

------------------------------------------------------------

This product includes curl.

   COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

   Copyright (c) 1996 - 2022, Daniel Stenberg, daniel@haxx.se, and many
   contributors, see the THANKS file.

   All rights reserved.

   Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose
   with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright
   notice and this permission notice appear in all copies.

   THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR
   IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY,
   FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN
   NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM,
   DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR
   OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE
   OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

   Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not
   be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings
   in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

------------------------------------------------------------

This product includes LibTIFF.

      Copyright (c) 1988-1997 Sam Leffler
      Copyright (c) 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.

      Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and
      its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided
      that (i) the above copyright notices and this permission notice appear in
      all copies of the software and related documentation, and (ii) the names of
      Sam Leffler and Silicon Graphics may not be used in any advertising or
      publicity relating to the software without the specific, prior written
      permission of Sam Leffler and Silicon Graphics.

      THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND,
      EXPRESS, IMPLIED OR OTHERWISE, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY
      WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

      IN NO EVENT SHALL SAM LEFFLER OR SILICON GRAPHICS BE LIABLE FOR
      ANY SPECIAL, INCIDENTAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY KIND,
      OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS,
      WHETHER OR NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF DAMAGE, AND ON ANY THEORY OF
      LIABILITY, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE
      OF THIS SOFTWARE.

------------------------------------------------------------

This product includes FreeType.
```

Portions of this software are copyright (C) 2014 The FreeType
Project (www.freetype.org) licensed under the Freetype License.
All rights reserved.

This product includes Google Breakpad.

Copyright (c) 2006, Google Inc. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without
modification, are permitted provided that the following conditions are
met:
* Redistributions in binary form must reproduce the above
copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer
in the documentation and/or other materials provided with the
distribution.
* Neither the name of Google Inc. nor the names of its
contributors may be used to endorse or promote products derived from
this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
"AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT
LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR
A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT
OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT
LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE,
DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY
THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT
(INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes curl.

Copyright (c) 1996 - 2011, Daniel Stenberg, <daniel@haxx.se>.
All rights reserved.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose
with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright
notice and this permission notice appear in all copies.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR
IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY,
FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN
NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM,
DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR
OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE
OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

This product includes Google Logging Library (glog).

Copyright (c) 2008, Google Inc.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without
modification, are permitted provided that the following conditions are
met:
* Redistributions of source code must retain the above copyright
notice, this list of conditions and the following disclaimer.
* Redistributions in binary form must reproduce the above
copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer
in the documentation and/or other materials provided with the
distribution.
* Neither the name of Google Inc. nor the names of its
contributors may be used to endorse or promote products derived from
this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
"AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT
LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR
A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT

```
      OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
      SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT
      LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE,
      DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY
      THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT
      (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
      OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-------------------------------------------------------------

This product includes Protocol Buffers.

      Copyright (c) 2008, Google Inc.
      All rights reserved.

      Redistribution and use in source and binary forms, with or without
      modification, are permitted provided that the following conditions are
      met:

      * Redistributions in binary form must reproduce the above
      copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer
      in the documentation and/or other materials provided with the
      distribution.
      * Neither the name of Google Inc. nor the names of its
      contributors may be used to endorse or promote products derived from
      this software without specific prior written permission.

      THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
      "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT
      LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR
      A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT
      OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
      SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT
      LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE,
      DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY
      THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT
      (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
      OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-------------------------------------------------------------

This product includes gSOAP.

      EXHIBIT B.

      Part of the software embedded in this product is gSOAP software.
      Portions created by gSOAP are Copyright (C) 2001-2007 Robert A. van Engelen,
 Genivia inc. All Rights Reserved.

      THE SOFTWARE IN THIS PRODUCT WAS IN PART PROVIDED BY GENIVIA INC AND ANY EXPRESS
 OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF
 MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT
 SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY,
 OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE
 GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER
 CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR
 TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS
 SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-------------------------------------------------------------

This product includes ICU.

      Copyright (c) 1995-2014 International Business Machines Corporation and others
      All rights reserved.

      Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of
      this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in
 the
      Software without restriction, including without limitation the rights to use,
      copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Software,
 and
      to permit persons to whom the Software is furnished to do so, provided that the
      above copyright notice(s) and this permission notice appear in all copies of the
      Software and that both the above copyright notice(s) and this permission notice
      appear in supporting documentation.
```

```
      THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR
      IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS
      FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT
      SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY
      CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES
      WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF
      CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION
      WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

------------------------------------------------------------

This product includes JBIG2Lib.

    Portions of this product copyrights (C) 2002 Glyph & Cog, LLC.

------------------------------------------------------------

This product includes JPEGLib.
This software is copyright (C) 1991-2016, Thomas G. Lane, Guido Vollbeding.
      All Rights Reserved.

      This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.
------------------------------------------------------------

This product includes Little CMS.

    Little CMS
    Copyright (c) 1998-2020 Marti Maria Saguer

    Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining
    a copy of this software and associated documentation files (the
    "Software"), to deal in the Software without restriction, including
    without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish,
    distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to
    permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject
    to the following conditions:

    The above copyright notice and this permission notice shall be
    included in all copies or substantial portions of the Software.

    THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND,
    EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF
    MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.
    IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY
    CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT,
    TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE
    SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

------------------------------------------------------------

This product includes libxml2.

    Copyright (C) 1998-2012 Daniel Veillard.  All Rights Reserved.

    Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy
    of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal
    in the Software without restriction, including without limitation the rights
    to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell
    copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is fur-
    nished to do so, subject to the following conditions:

    The above copyright notice and this permission notice shall be included in
    all copies or substantial portions of the Software.

    THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR
    IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FIT-
    NESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.  IN NO EVENT SHALL THE
    AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER
    LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM,
    OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN
    THE SOFTWARE.

------------------------------------------------------------

This product includes IP*Works!.

      Copyright (c) 2017 /n software inc. - All rights reserved.
```

DISCLAIMER OF WARRANTY. THE LICENSED SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. FURTHER, /N SOFTWARE SPECIFICALLY DOES NOT WARRANT, GUARANTEE, OR MAKE ANY REPRESENTATIONS REGARDING THE USE, OR THE RESULTS OF THE USE, OF THE LICENSED SOFTWARE OR DOCUMENTATION IN TERMS OF CORRECTNESS, ACCURACY, RELIABILITY, CURRENTNESS, OR OTHERWISE. THE ENTIRE RISK AS TO THE RESULTS AND PERFORMANCE OF THE LICENSED SOFTWARE IS ASSUMED BY YOU. NO ORAL OR WRITTEN INFORMATION OR ADVICE GIVEN BY /N SOFTWARE OR ITS EMPLOYEES SHALL CREATE A WARRANTY OR IN ANY WAY INCREASE THE SCOPE OF THIS WARRANTY, AND YOU MAY NOT RELY ON ANY SUCH INFORMATION OR ADVICE. FURTHER, THE LICENSED SOFTWARE IS NOT FAULT-TOLERANT AND IS NOT DESIGNED, MANUFACTURED OR INTENDED FOR USE OR RESALE AS ON-LINE CONTROL EQUIPMENT IN HAZARDOUS ENVIRONMENTS REQUIRING FAIL-SAFE PERFORMANCE, SUCH AS IN THE OPERATION OF NUCLEAR FACILITIES, AIRCRAFT NAVIGATION OR COMMUNICATION SYSTEMS, AIR TRAFFIC CONTROL, DIRECT LIFE SUPPORT MACHINES, OR WEAPONS SYSTEMS, IN WHICH THE FAILURE OF THE LICENSED SOFTWARE COULD LEAD DIRECTLY TO DEATH, PERSONAL INJURY, OR SEVERE PHYSICAL OR ENVIRONMENTAL DAMAGE ("HIGH RISK ACTIVITIES"). /N SOFTWARE AND ITS SUPPLIERS SPECIFICALLY DISCLAIM ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTY OF FITNESS FOR HIGH RISK ACTIVITIES.

LIMITATION ON LIABILITY. TO THE MAXIMUM EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW, IN NO EVENT WILL /N SOFTWARE'S TOTAL AGGREGATE AND CUMULATIVE LIABILITY TO YOU FOR ANY AND ALL CLAIMS OF ANY KIND ARISING HEREUNDER EXCEED THE AMOUNT OF LICENSE FEES ACTUALLY PAID BY YOU FOR THE LICENSED SOFTWARE GIVING RISE TO THE CLAIM IN THE TWELVE MONTHS PRECEDING THE CLAIM. /N SOFTWARE'S LICENSORS AND THEIR SUPPLIERS SHALL HAVE NO LIABILITY TO YOU FOR ANY DAMAGES SUFFERED BY YOU OR ANY THIRD PARTY AS A RESULT OF USING THE LICENSED SOFTWARE, OR ANY PORTION THEREOF. NOTWITHSTANDING THE FOREGOING, IN NO EVENT SHALL /N SOFTWARE, ITS LICENSORS, OR ANY OF THEIR RESPECTIVE SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY LOST REVENUE, PROFIT OR DATA, OR FOR INDIRECT, PUNITIVE, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY CHARACTER, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, ANY COMMERCIAL DAMAGES OR LOSSES, HOWEVER CAUSED AND REGARDLESS OF THE THEORY OF LIABILITY, ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LICENSED SOFTWARE, OR ANY PORTION THEREOF, EVEN IF /N SOFTWARE, ITS LICENSORS AND/OR ANY OF THEIR RESPECTIVE SUPPLIERS HAVE BEEN INFORMED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. SOME STATES DO NOT ALLOW THE EXCLUSION OF INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, SO THE ABOVE LIMITATIONS MAY NOT APPLY. EACH EXCLUSION OF LIMITATION IS INTENDED TO BE SEPARATE AND THEREFORE SEVERABLE.

This product includes IP*Works! SSH.

Copyright (c) 2017 /n software inc. - All rights reserved.

DISCLAIMER OF WARRANTY. THE LICENSED SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. FURTHER, /N SOFTWARE SPECIFICALLY DOES NOT WARRANT, GUARANTEE, OR MAKE ANY REPRESENTATIONS REGARDING THE USE, OR THE RESULTS OF THE USE, OF THE LICENSED SOFTWARE OR DOCUMENTATION IN TERMS OF CORRECTNESS, ACCURACY, RELIABILITY, CURRENTNESS, OR OTHERWISE. THE ENTIRE RISK AS TO THE RESULTS AND PERFORMANCE OF THE LICENSED SOFTWARE IS ASSUMED BY YOU. NO ORAL OR WRITTEN INFORMATION OR ADVICE GIVEN BY /N SOFTWARE OR ITS EMPLOYEES SHALL CREATE A WARRANTY OR IN ANY WAY INCREASE THE SCOPE OF THIS WARRANTY, AND YOU MAY NOT RELY ON ANY SUCH INFORMATION OR ADVICE. FURTHER, THE LICENSED SOFTWARE IS NOT FAULT-TOLERANT AND IS NOT DESIGNED, MANUFACTURED OR INTENDED FOR USE OR RESALE AS ON-LINE CONTROL EQUIPMENT IN HAZARDOUS ENVIRONMENTS REQUIRING FAIL-SAFE PERFORMANCE, SUCH AS IN THE OPERATION OF NUCLEAR FACILITIES, AIRCRAFT NAVIGATION OR COMMUNICATION SYSTEMS, AIR TRAFFIC CONTROL, DIRECT LIFE SUPPORT MACHINES, OR WEAPONS SYSTEMS, IN WHICH THE FAILURE OF THE LICENSED SOFTWARE COULD LEAD DIRECTLY TO DEATH, PERSONAL INJURY, OR SEVERE PHYSICAL OR ENVIRONMENTAL DAMAGE ("HIGH RISK ACTIVITIES"). /N SOFTWARE AND ITS SUPPLIERS SPECIFICALLY DISCLAIM ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTY OF FITNESS FOR HIGH RISK ACTIVITIES.

LIMITATION ON LIABILITY. TO THE MAXIMUM EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW, IN NO EVENT WILL /N SOFTWARE'S TOTAL AGGREGATE AND CUMULATIVE LIABILITY TO YOU FOR ANY AND ALL CLAIMS OF ANY KIND ARISING HEREUNDER EXCEED THE AMOUNT OF LICENSE FEES ACTUALLY PAID BY YOU FOR THE LICENSED SOFTWARE GIVING RISE TO THE CLAIM IN THE TWELVE MONTHS PRECEDING THE CLAIM. /N SOFTWARE'S LICENSORS AND THEIR SUPPLIERS SHALL HAVE NO LIABILITY TO YOU FOR ANY DAMAGES SUFFERED BY YOU OR ANY THIRD PARTY AS A RESULT OF USING THE LICENSED SOFTWARE, OR ANY PORTION THEREOF. NOTWITHSTANDING THE FOREGOING, IN NO EVENT SHALL /N SOFTWARE, ITS LICENSORS, OR ANY OF THEIR RESPECTIVE SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY LOST REVENUE, PROFIT OR DATA, OR FOR INDIRECT, PUNITIVE, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY CHARACTER, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, ANY COMMERCIAL DAMAGES OR LOSSES, HOWEVER CAUSED AND REGARDLESS OF THE THEORY OF LIABILITY, ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LICENSED SOFTWARE, OR ANY PORTION THEREOF, EVEN IF /N SOFTWARE, ITS LICENSORS AND/OR ANY OF THEIR RESPECTIVE SUPPLIERS HAVE BEEN INFORMED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. SOME STATES DO NOT ALLOW THE EXCLUSION OF INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, SO THE ABOVE LIMITATIONS

MAY NOT APPLY. EACH EXCLUSION OF LIMITATION IS INTENDED TO BE SEPARATE AND THEREFORE SEVERABLE.

This product includes OpenJPEG.

The copyright in this software is being made available under the 2-clauses BSD License, included below. This software may be subject to other third party and contributor rights, including patent rights, and no such rights are granted under this license.

Copyright (c) 2002-2014, Universite catholique de Louvain (UCL), Belgium
Copyright (c) 2002-2014, Professor Benoit Macq
Copyright (c) 2003-2014, Antonin Descampe
Copyright (c) 2003-2009, Francois-Olivier Devaux
Copyright (c) 2005, Herve Drolon, FreeImage Team
Copyright (c) 2002-2003, Yannick Verschueren
Copyright (c) 2001-2003, David Janssens
Copyright (c) 2011-2012, Centre National d'Etudes Spatiales (CNES), France
Copyright (c) 2012, CS Systemes d'Information, France

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS `AS IS' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes OpenSSL.

Copyright (c) 1998-2017 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"

4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.

5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.

```
      6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following
         acknowledgment:
         "This product includes software developed by the OpenSSL Project
         for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

      THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY
      EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
      IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR
      PURPOSE ARE DISCLAIMED.  IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR
      ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
      SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT
      NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES;
      LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
      HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT,
      STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)
      ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED
      OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-------------------------------------------------------------

This product includes OpenSSL.

      Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
      All rights reserved.

      Redistribution and use in source and binary forms, with or without
      modification, are permitted provided that the following conditions
      are met:
      1. Redistributions of source code must retain the copyright
         notice, this list of conditions and the following disclaimer.
      2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
         notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
         documentation and/or other materials provided with the distribution.
      3. All advertising materials mentioning features or use of this software
         must display the following acknowledgement:
         "This product includes cryptographic software written by
         Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
         The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library
         being used are not cryptographic related :-).
      4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from
         the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
         "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

      THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS'' AND
      ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
      IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
      ARE DISCLAIMED.  IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
      FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
      DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS
      OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
      HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT
      LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY
      OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF
      SUCH DAMAGE.

-------------------------------------------------------------

This product includes patented technology.

      This product and use of this product is under license from Markzware
      under U.S. Patent No. 5,963,641.

-------------------------------------------------------------

This product includes Potrace.

      Copyright (c) 2001-2019 Icosasoft Software Inc. All rights reserved.

-------------------------------------------------------------

This product includes Qt.

      The software uses Qt, licensed under LGPL v3. The Qt Toolkit is Copyright (C)
 2019 The Qt Company Ltd.

      Portions of this software are copyright (C) 2006-2015 The FreeType Project
 (www.freetype.org). All rights reserved.
```

```
      Copyright (C) 1991-2011, Thomas G. Lane, Guido Vollbeding.
      This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

      Secure Hash Algorithm SHA-3 - brg_endian
      Copyright (c) 1998-2013, Brian Gladman, Worcester, UK. All rights reserved.

      LICENSE TERMS

      The redistribution and use of this software (with or without changes)
      is allowed without the payment of fees or royalties provided that:

       1. source code distributions include the above copyright notice, this
          list of conditions and the following disclaimer;

       2. binary distributions include the above copyright notice, this list
          of conditions and the following disclaimer in their documentation;

       3. the name of the copyright holder is not used to endorse products
          built using this software without specific written permission.

      DISCLAIMER

      This software is provided 'as is' with no explicit or implied warranties
      in respect of its properties, including, but not limited to, correctness
      and/or fitness for purpose.

-------------------------------------------------------------

This product includes QtSingleApplication.

        Copyright (C) 2013 Digia Plc and/or its subsidiary(-ies).
        Contact: http://www.qt-project.org/legal

        This file is part of the Qt Solutions component.

        You may use this file under the terms of the BSD license as follows:

        Redistribution and use in source and binary forms, with or without
        modification, are permitted provided that the following conditions are
        met:
          * Redistributions of source code must retain the above copyright
            notice, this list of conditions and the following disclaimer.
          * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
            notice, this list of conditions and the following disclaimer in
            the documentation and/or other materials provided with the
            distribution.
          * Neither the name of Digia Plc and its Subsidiary(-ies) nor the names
            of its contributors may be used to endorse or promote products derived
            from this software without specific prior written permission.


        THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
        "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT
        LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR
        A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT
        OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
        SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT
        LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE,
        DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY
        THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT
        (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
        OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.


-------------------------------------------------------------

This product includes XMP Toolkit.
Copyright (c) 2020, Adobe
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without
modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this
   list of conditions and the following disclaimer.
```

```
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice,
   this list of conditions and the following disclaimer in the documentation
   and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the copyright holder nor the names of its
   contributors may be used to endorse or promote products derived from
   this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS"
AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE
DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR
SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER
CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY,
OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.
-------------------------------------------------------------

This product includes zlib.

 (C) 1995-2022 Jean-loup Gailly and Mark Adler

  This software is provided 'as-is', without any express or implied
  warranty.  In no event will the authors be held liable for any damages
  arising from the use of this software.

  Permission is granted to anyone to use this software for any purpose,
  including commercial applications, and to alter it and redistribute it
  freely, subject to the following restrictions:

  1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not
     claim that you wrote the original software. If you use this software
     in a product, an acknowledgment in the product documentation would be
     appreciated but is not required.
  2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be
     misrepresented as being the original software.
  3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

  Jean-loup Gailly        Mark Adler
  jloup@gzip.org          madler@alumni.caltech.edu

-------------------------------------------------------------

This product includes ZXing C++ Library.

    Copyright 2016 ZXing authors.
    https://github.com/zxing

-------------------------------------------------------------

-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------
```

18. 著作権

© 2023 Enfocus BV all rights reserved.Enfocus は、Esko の子会社です。

Certified PDF は Enfocus BV の登録商標です。

Enfocus PitStop Pro、Enfocus PitStop Workgroup Manager、Enfocus PitStop Server、Enfocus BoardingPass、Enfocus Connect YOU、Enfocus Connect ALL、Enfocus Connect SEND、Enfocus StatusCheck、Enfocus CertifiedPDF.net、Enfocus PDF Workflow Suite、Enfocus Switch、Enfocus SwitchClient、Enfocus SwitchScripter、Enfocus TestDrive、Enfocus SwitchScriptTool、Enfocus Browser、PitStop Library Container、および Enfocus Appstoreは、Enfocus BV の製品名です。

Acrobat、Acrobat、Distiller、InDesign、Illustrator、Photoshop、FrameMaker、PDFWriter、PageMaker、Adc PDF Library™、Adobe ロゴ、Acrobat ロゴ、および PostScript は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Datalogics、Datalogics ロゴ、PDF2IMG™、および DLE™ は Datalogics, Inc. の商標です。

Apple、Mac、MacOS、Macintosh、iPad および ColorSync は、米国およびその他の国における Apple Computer, Inc. の商標です。Windows、および Windows Server は Microsoft Corporation の登録商標です。

ここで表示されるPANTONE® カラーはPANTONE認定基準に沿わない場合があります。正確なカラーについては最新の PANTONE カラー パブリケーションをご覧ください。PANTONE® およびその他の Pantone, Inc. の商標は Pantone, Inc. の所有物です。©Pantone, Inc., 2006。

OPI は Aldus Corporation の商標です。

Quark、QuarkXPress、QuarkXTensions、XTensionsおよびその他に使用されるXTensionsロゴはQuark, Inc.とQuark関連会社の商標です（Reg. U.S. Pat.& Tm.Off.）。

DockerおよびDockerのロゴは、米国およびその他の国におけるDocker, Inc.の商標または登録商標です。Docker, Inc.およびその他の関係者は、本契約で使用されている他の条件で商標権を有する場合があります。

本製品およびその使用に関しては Markzware より米国特許第 5,963,641 号に基づく許諾を受けております。

その他のブランド名や製品名も、各所有権者の商標または登録商標である可能性があります。製品やサービスの全ての仕様、用語および説明は、事前の通知や助言なしに変更される場合があります。